

昭和四十二年法律第三十五号

登録免許税法

登録税法（明治二十九年法律第二十七号）の全部を改正する。

目次

- 第一章 総則（第一条—第八条）
- 第二章 課税標準及び税率（第九条—第二十条）
- 第三章 納付及び還付
- 第一節 納付（第二十一条—第三十条）
- 第二節 還付（第三十一条）
- 第四章 雜則（第三十二条—第三十五条）
- 附則

第一章 総則

（趣旨）

第一条 この法律は、登録免許税について、課税の範囲、納税義務者、課税標準、税率、納付及び還付の手続並びにその納税義務の適正な履行を確保するため必要な事項を定めるものとする。（課税の範囲）

第二条 登録免許税は、別表第一に掲げる登記、登録、特許、免許、許可、認可、認定、指定及び技能證明（以下「登記等」という。）について課する。（納税義務者）

第三条 登記等を受ける者は、この法律により登録免許税を納める義務がある。この場合において、当該登記等を受ける者が一人以上あるときは、これらの者は、連帶して登録免許税を納付する義務を負う。（公共法人等が受ける登記等の非課税）

第四条 国及び別表第二に掲げる者が自己のために受けた登記等については、登録免許税を課さない。

2 別表第三の第一欄に掲げる者が自己のために受けたそれぞれ同表の第三欄に掲げる登記等（同表の第四欄に財務省令で定める書類のあるものに限る旨の規定がある登記等にあつては、当該書類を添附して受けるものに限る。）については、登録免許税を課さない。

（非課税登記等）

第五条 次に掲げる登記又は登録にあつては、当該登記等がこれらの号に掲げる登記又は登録に該当するものであることを証する財務省令で定める書類を添付して受けるものに限る。）については、登録免許税を課さない。

一 国又は別表第二に掲げる者がこれらの人以外の者に代位してする登記又は登録

二 登記機関（登記官又は登記以外の登記等をする官庁若しくは団体の長をいう。以下同じ。）が職権に基づいてする登記又は登録で政令で定めるもの

三 会社法（平成十七年法律第八十六号）第二編第九章第二節（特別清算）の規定による株式会社の特別清算（同節の規定を同法第八百二十二条第三項（日本にある外国会社の財産についての清算を含む。）に關し裁判所の嘱託によりする登記又は登録）において準用する場合における同条第一項の規定による日本にある外国会社の財産についての清算を含む。）に關し裁判所の嘱託によりする登記又は登録

四 住居表示に関する法律（昭和三十七年法律第百十九号）第三条第一項及び第二項又は第四条（住居表示の実施手続等）の規定による住居表示の実施又は変更に伴う登記事項又は登録事項の変更の登記又は登録

五 行政区画、郡、区、市町村内の町若しくは字又はこれらの名称の変更（その変更に伴う地番の変更及び次号に規定する事業の施行に伴う地番の変更を含む。）に伴う登記事項又は登録事項の変更の登記又は登録

六 土地改良法（昭和二十四年法律第百九十五号）第二条第二項（定義）に規定する土地改良事業又は土地区画整理法（昭和二十九年法律第百十九号）第二条第一項（定義）に規定する土地区画整理事業の施行のため必要な土地又は建物に関する登記（政令で定めるものを除く。）

七 都市再開発法（昭和四十四年法律第三十八号）第二条第一号（定義）に規定する市街地再開発事業、大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法（昭和五十年法律第六十七号）第一条第四号（定義）に規定する住宅街区整備事業又は密集市街地における防災街区の整備の促進に関する法律（平成九年法律第四十九号）第二条第五号（定義）に規定する防災街区整備事業の施行のため必要な土地又は建物（当該住宅街区整備事業に係る土地又は建物にあつては、大都市地域における宅地開発及び鉄道整備の一体的推進に関する特別措置法（平成元年法律第六十一号）第十七条（大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法の特例）の規定により大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法第二条第一号に規定する大都市地域とみなされる区域内にある土地又は建物を除く。）に関する登記（政令で定めるものを除く。）

八 國土調査法（昭和二十六年法律第百八十号）第三十二条の二第一項（代位登記）の規定による土地に関する法律（昭和四一年法律第百二十六号）第十四条第二項（登記）（同法第二十三条第二項（旧慣使用林野整備の効果等）において準用する場合を含む。）の規定による土地に関する登記

九 入会林野等に係る権利関係の近代化の助長に関する法律（昭和四一年法律第百二十六号）第十四条第二項（登記）（同法第二十三条第二項（旧慣使用林野整備の効果等）において準用する場合を含む。）の規定による土地に関する登記

十 墓地に関する登記
十一 滞納処分（その例による処分を含む。）に関する登記又は登録（換価による権利の移転の登記又は登録を除くものとし、滯納処分の例により処分するものとされている担保に係る登記又は登録の抹消を含む。）

十二 登記機関の過誤による登記若しくは登録又はその抹消があつた場合の当該登記若しくは登録の回復の登記若しくは登録
 十三 相続又は法人の合併若しくは分割に伴い相続人又は合併後存続する法人若しくは合併により設立する法人若しくは事業を承継する法人が、被相続人又は合併により消滅した法人若しくは分割をした法人の受けた別表第一第三十三号から第百六十号までに掲げる登記、特許、免許、許可、認可、認定又は指定を引き続いて受ける場合における当該登記、特許、免許、許可、認可、認定又は指定を引き続いて受ける場合における当該登記
 十四 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成十八年法律第四十九号）第九条第一項（名称等）又は第二十九条第五項（公益認定の取消し）の規定による一般社団法人若しくは一般財団法人又は公益社団法人若しくは公益財団法人の名称の変更の登記
 （外国公館等の非課税）

第六条 外国政府が当該外国の大使館、公使館又は領事館その他これらに準ずる施設（次項において「大使館等」という。）の敷地又は建物に関して受ける登記については、政令で定めるところにより、登録免許税を課さない。

2 前項の規定は、同項の外国が、その国において日本国の大使館等の敷地又は建物に関する登記若しくは登録又はこれらに準ずる行為について課する租税を免除する場合に限り、適用する。

（信託財産の登記等の課税の特例）

第七条 信託による財産権の移転の登記又は登録で次の各号のいずれかに該当するものについては、登録免許税を課さない。

一 委託者から受託者に信託のために財産を移す場合における財産権の移転の登記又は登録

二 信託の効力が生じた時から引き続き委託者のみが信託財産の元本の受益者である信託の信託財産を受託者から当該受益者（当該信託の効力が生じた時から引き続き受託者である者に限る。）に移す場合における財産権の移転の登記又は登録

三 受託者の変更に伴い受託者があつた者から新たな受託者に信託財産を移す場合における財産権の移転の登記又は登録

2 信託の信託財産を受託者から受益者に移す場合であつて、かつ、当該信託の効力が生じた時における委託者の相続人（当該委託者が合併により消滅した場合は、前項の規定にかかるはず、納稅義務者が当該存続する法人又は当該設立された法人である場合にあつては、合併）による財産権の移転の登記又は登録（当該受益者が当該各号に掲げる場合のいずれに該当するかに応じ当該各号に定める場所とする。

第八条 登録免許税の納稅地は、納稅義務者が受ける登記等の事務をつかさどる登記所その他の官署又は団体（以下「登記官署等」という。）の所在地（第二十四条の二第一項に規定する財務省令で定める方法により登録免許税を納付する場合にあつては、政令で定める場所）とする。

2 第二十九条第一項若しくは第四項の規定により徴収すべき登録免許税又は國稅通則法（昭和三十七年法律第六十六号）第五十六条第一項（還付）に規定する過誤納金に係る登録免許税の納稅地

は、前項の規定にかかるはず、納稅義務者が次の各号に掲げる場合のいずれに該当するかに応じ当該各号に定める場所とする。

一 この法律の施行地（以下「国内」という。）に住所を有する個人である場合 その住所地

二 国内に住所を有せず居所を有する個人である場合 その居所地

三 国内に本店又は主たる事務所を有する法人である場合 その本店又は主たる事務所の所在地

四 前三号に掲げる場合を除き、国内に事務所、営業所その他これらに準ずるものと有する者である場合 その事務所、営業所その他これらに準ずるものと有する者の所在地（これらが二以上ある場合には、政令で定める場所）

五 前各号に掲げる場合以外の場合 政令で定める場所

（課税標準及び税率）

（課税標準及び税率）

第九条 登録免許税の課税標準及び税率は、この法律に別段の定めがある場合を除くほか、登記等の区分に応じ、別表第一の課税標準欄に掲げる金額又は数量及び同表の税率欄に掲げる割合又は金額による。

（不動産等の価額）

第十一条 別表第一第一号、第二号又は第四号から第四号の四までに掲げる不動産、船舶、ダム使用権、公共施設等運営権、樹木採取権又は漁港水面施設運営権の登記又は登録の場合における課税標準たる不動産、船舶、ダム使用権、公共施設等運営権、樹木採取権又は漁港水面施設運営権（以下この項において「不動産等」という。）の価額は、当該登記又は登録の時における不動産等の価額による。この場合において、当該不動産等の上に所有権以外の権利その他处分の制限が存するときは、当該権利その他の制限がないものとした場合の価額による。

2 前項に規定する登記又は登録をする場合において、当該登記又は登録が別表第一第一号又は第二号に掲げる不動産又は船舶の所有権の持分の取得に係るものであるときは、当該不動産又は船舶の価額は、当該不動産又は船舶の同項の規定による価額に当該持分の割合を乗じて計算した金額による。
 3 前項の規定は、所有権以外の権利の持分の取得に係る登記又は登録についての課税標準の額の計算について準用する。（一定の債権金額がない場合の課税標準）

第十二条 登記又は登録につき債権金額を課税標準として登録免許税を課する場合において、一定の債権金額がないときは、当該登記又は登録の時における当該登記又は登録に係る債権の価額又は処分の制限の目的となる不動産、動産、立木、工場財團、鉱業財團、漁業財團、港湾運送事業財團、道路交通事業財團、自動車交通事業財團、観光施設財團、企業担保権、鉄道財團、軌道財團、運河財團、鉱業権、特定鉱業権、試掘権（二酸化炭素の貯留事業に関する法律（令和六年法律第二号）第二条第八項（定義）に規定する試掘権をいう。別表第一第二十二号の二において同じ。）、貯留権、著作権、出版権、著作隣接権、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、回路配置利用権、育成者権、漁業権、入漁権、ダム使用権、公共施設等運営権、樹木採取権又は漁港水面施設運営権に関する権利（以下第十四条までにおいて「不動産等に関する権利」という。）の価額をもつて債権金額とみなす。

2 前条の規定は、前項の不動産等に関する権利の価額について準用する。

(共同担保の登記等の場合の課税標準及び税率
の登記官署等(二〇、一〇、同様)
第十三条

第十三条 一の登記官署等において、同時の申請（官庁又は公署の嘱託を含む。次項において同じ。）により同一の債権のために数個の不動産等に関する権利を目的とする先取特権、質権又は抵当権の保存若しくは設定、移転又は信託の登記又は登録（以下この条において「抵当権等の設定登記等」という。）を受ける場合には、これらの抵当権等の設定登記等を一の抵当権等の設定登記等とみなして、この法規の規定を適用する。この場合において、当該抵当権等の設定登記等に係る不動産等に關する権利の重複の別により別表第一に掲げる税率が異なるときは、そのうち最も低い税率

2 がして、この法律の規定を適用する場合においては、第一に掲げる種類が最も優れた利権等の語句等に付する重複等に関する規定の別に規定する場合においては、第一に掲げる種類が最も優れた利権等の登記免許税の税率とする。

同一の債権のため数個の不動産等に関する権利を目的とする抵当権等の設定登記等を受ける場合において、当該抵当権等の設定登記等の申請が最初の申請以外のものであるときは、当該抵当権等の設定登記等に係る登録免許税の課税標準及び税率は、当該抵当権等の設定登記等がこの項の規定に該当するものであることを証する財務省令で定める書類を添付して当該抵当権等の設定登記等の申請をするものに限り、当該抵当権等の設定登記等に係る不動産等に関する権利の件数一件につき千五百円とする。

(担保付社債の抵当権の設定の登記等に係る課税の特例)

第十四条 担保付社債でその総額を二回以上に分割して発行するものの抵当権の設定の登記又は登録については、登録免許税を課さない。この場合には、当該担保付社債につき担保付社債信託法（明治三十八年法律第五十二号）第六十三条第一項（分割発行の場合の社債発行に関する登記）の規定によつてする登記又は鉄道抵当法（明治三十八年法律第五十三号）第三十条ノ二第二項（数回に分けて発行する担保付社債の登録）の規定によつてする登録を抵当権の設定の登記又は登録とみなし、かつ、その回の当該担保付社債の金額の合計額を債権金額とみなして、この法律の規定を適用する。

前項の規定の適用がある担保付社債の担当権の移転の登記又は登録に係る登録免許税の課税標準は、当該登記又は登録の申請前に発行された当該担保付社債の金額の合計額とする。この場合において、当該担保付社債の金額がないときは、当該登記又は登録に係る不動産等に関する権利の件数一件につき千五百円とする。

(課税標準の金額の端数計算)
第十五条 別表第一に掲げる登記又は登録に係る課税標準の金額を計算する場合において、その全額が千円に満たないときは、これを千円とする(课税標準の金額の端数計算)

語彙構成の数量の算数問題

第十六条 別表第一に掲げる登録に係る調査標準の数量を計算する場合には、次に定めるところによる。
一 別表第一第三号に掲げる航空機の重量は、航空機の自重トン数により、当該トン数に一トン未満の端数があるときは、その端数を切り捨て、当該トン数が一トンに満たないときは、これを一トンとする。

二 別表第一第二十号に掲げる鉱区若しくは租鉱区又は同表第二十二号に掲げる共同開発鉱区の面積に十万平方メートル未満の端数があるときは、その端数を切り捨て、当該面積が十万平方メートルに満たないときは、これを十万平方メートルとする。

第十七条 別表第一第一号（十二）イからヘまでに掲げる仮登記がされている同号に掲げる不動産について、当該仮登記に基づき所有権の保存若しくは移転の登記、地上権、永小作権、賃借権若しくは採石権の設定、転貸若しくは移転の登記、配偶者居住権の設定の登記、信託の登記又は相続財産の分離の登記を受ける場合には、これらの登記に係る登録免許税の税率は、当該不動産についての当該登記の同号の税率欄に掲げる割合から次の表の上欄に掲げる登記の区分に応じ同表の下欄に掲げる割合を控除した割合とする。

所有権の保存の登記
所有権の相続（相続人に対する遺贈を含む。以下同じ。）又は法人の合併による移転の登記

所有権の共有物（その共有物について有していた持分に応じた価額に対応する部分に限る。以下同じ。）の分割による移転の登記
所有権のその他の原因による移転の登記

地上権、永小作権、賃借権又は採石権の譲り受け又は転貸の登記
地上権、永小作権、賃借権又は採石権の相続又は法人の合併による移転の登記
地主、小作人、販借人又は採石者との譲り受け又は転貸の登記

地上権、永小作権、賃借権又は採石権の共有に係る権利(その共有に係る権利について有していた持分に応じた価額に対応する部分に限る)の分割による移転の登記(以下同じ)の登記

配偶者居住権の設定の登記
所有権の信託の登記

<p>所有権、先取特権、質権及び抵当権以外の権利の信託の登記</p> <p>所有権である相続財産の分離の登記</p> <p>所有権以外の権利である相続財産の分離の登記</p> <p>千分の一 千分の一</p>
<p>2 所有権の移転の仮登記又は所有権の移転請求権の保全のための仮登記がされている別表第一第二号に掲げる船舶について、これらの仮登記に基づきその所有権の移転の登記を受ける場合には、当該登記に係る登録免許税の税率は、同号（二）の税率欄に掲げる割合から千分の四を控除した割合とする。</p> <p>3 所有権の移転の仮登記又は所有権の移転請求権の保全のための仮登記がされている航空機について、これらの仮登記に基づき移転登録を受けるときは、当該登記に係る登録免許税の税率は、一千円につき一万五千円とする。</p> <p>4 地上権、永小作権、賃借権若しくは採石権の設定の登記がされている建物について、その土地又は建物に係るこれらの権利の登記名義人がその土地又は建物の取得に伴いその所有権の移転の登記を受けるときは、当該登記に係る登録免許税の税率は、別表第一第一号（二）の税率欄に掲げる割合に百分の五十を乗じて計算した割合とする。</p> <p>（事業協同組合等が組織変更等により受けた設立登記の税額）</p> <p>第十七条の二 事業協同組合、企業組合その他の政令で定める者が、その組織を変更して株式会社若しくは合同会社となる場合又は分割により新たに株式会社若しくは合同会社を設立する場合における組織変更又は分割による株式会社若しくは合同会社の設立の登記に係る登録免許税の額は、税率を千分の七として計算した金額（株式会社の設立の場合において当該金額が十五万円に満たないときは十五万円とし、合同会社の設立の場合において当該金額が六万円に満たないときは六万円とする。）とする。</p> <p>（特例有限会社の通常の株式会社への移行の登記）</p> <p>第十七条の三 会社法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成十七年法律第八十七号）第四十六条（特例有限会社の通常の株式会社への移行の登記）の規定による株式会社の設立の登記とみなして、この法律の規定を適用する。</p> <p>（二以上の登記等を受ける場合の税額）</p> <p>第十八条 同一の登記等の申請書（当該登記等が官庁又は公署の嘱託による場合には、当該登記等の嘱託書）により、別表第一に掲げる登記等の区分に応じ一以上の登記等を受ける場合における登録免許税の額は、各登記等につき同表に掲げる税率を適用して計算した金額の合計金額とする。</p> <p>（定率課税の場合の最低税額）</p> <p>第十九条 別表第一に掲げる登記又は登録につき同表に掲げる税率を適用して計算した金額が千円に満たない場合には、当該登記又は登録に係る登録免許税の額は、千円とする。</p> <p>（政令への委任）</p> <p>第二十条 この章に定めるもののほか、登録免許税の課税標準及び税額の計算に関し必要な事項は、政令で定める。</p> <p>第三章 納付及び還付</p> <p>第一節 納付</p> <p>（現金納付）</p> <p>第二十一条 登記等を受ける者は、この法律に別段の定めがある場合を除き、当該登記等につき課さるべき登録免許税の額に相当する登録免許税を国に納付し、当該納付に係る領収証書を当該登記等の申請書（当該登記等に係る登記官署等の使用に係る電子計算機（入出力装置を含む。以下同じ。）と当該登記等の申請又は嘱託をする者の使用に係る電子計算機などを用いて当該登記等の申請を行ふ場合には、当該登記等に係る登記機関の定める書類。第二十六条及び第三十二条第二項を除き、以下同じ。）に貼り付けて当該登記等に係る登記官署等に提出しなければならない。</p> <p>（印紙納付）</p> <p>第二十二条 登記等（第二十四条第一項に規定する免許等を除く。）を受ける者は、当該登記等につき課さるべき登録免許税の額に相当する登録免許税の額に相当する金額の印紙を当該登記等の申請書に貼り付けて登記官署等に提出することにより、国に納付することができる。</p> <p>（嘱託登記等の場合はの納付）</p> <p>第二十三条 官庁又は公署が別表第一第一号から第三十一号までに掲げる登記等を受ける者のために当該登記等を登記官署等に嘱託する場合には、当該登記等を受ける者は、当該登記等につき課さるべき登録免許税の額が三万円以下である場合その他政令で定める場合には、当該登録免許税の額に相当する登録免許税を国に納付し、当該納付に係る領収証書を当該官庁又は公署に提出しなければならない。この場合において、当該官庁又は公署は、当該領収証書を当該登記等の嘱託書（当該官庁又は公署が電子情報処理組織を使用して当該登記等の嘱託を行う場合には、当該登記等に係る登記機関の定める書類。第二十五条及び第三十二条第三項において同じ。）に貼り付けて登記官署等に提出するものとする。</p> <p>2 前項の場合において、登録免許税の額が三万円以下であるときは、登記等を受ける者は、同項の規定にかかわらず、同項の嘱託する官庁又は公署に対し、当該登録免許税の額に相当する金額の印紙を提出して登録免許税を国に納付することができる。この場合において、当該官庁又は公署は、当該印紙を同項に規定する登記等の嘱託書に貼り付けて登記官署等に提出するものとする。</p> <p>（免許等の場合の納付の特例）</p> <p>第二十四条 別表第一に掲げる登記、特許、免許、許可、認可、認定、指定又は技能証明で政令で定めるもの（以下この章において「免許等」という。）につき課さるべき登録免許税については、当該免許等を受ける者は、当該免許等に係る登記機関が定めた期限までに、当該登記免許税の額に相当する登録免許税を国に納付し、当該納付に係る領収証書を当該登記機関の定める書類に貼り付けて登記官署等に提出しなければならない。この場合において、当該登記等に係る登記機関の定める書類に貼り付けて登記官署等に提出するものとする。</p> <p>2 免許等に係る登記機関は、当該免許等に係る前項の登録免許税の納付の期限及び書類を定めなければならない。この場合には、その期限を当該免許等をする日から一月を経過する日後としてはならない。</p>

(電子情報処理組織を使用する方法等による納付の特例)

- 第二十四条の二** 登記等を受ける者又は次条第一項の規定による委託を受けた納付受託者（第二十四条の四第一項に規定する納付受託者をいう。次条において同じ。）は、当該登記等につき課されるべき登録免許税の額に相当する登録免許税又は当該委託を受けた登録免許税を、第二十一条から前条までの規定にかかるらず、電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法であつて財務省令で定めるものにより国に納付することができる。ただし、登記機関が当該財務省令で定める方法による当該登録免許税の額の納付の事実を確認することができない場合として財務省令で定める場合は、この限りでない。
- 2 免許等につき課されるべき登録免許税の額に相当する登録免許税を前項に規定する財務省令で定める方法により国に納付する場合には、当該免許等に係る登記機関は、当該免許等につき課されるべき登録免許税の納付の期限を定めなければならない。この場合には、その期限を当該免許等をする日から一月を経過する日後としてはならない。
- （納付受託者に対する納付の委託）

- 第二十四条の三** 登記等を受ける者は、当該登記等につき課されるべき登録免許税の額に相当する登録免許税を電子情報処理組織を使用する方法により行う納付受託者に対する通知で財務省令で定めるものに基づき納付しようとするときは、当該納付受託者に納付を委託することができる。
- 2 前項の規定により免許等につき課されるべき登録免許税の額に相当する登録免許税の納付を委託する場合における前条第二項の規定の適用については、同項中「納付の」とあるのは、「納付の委託の」とする。
- 3 登記等を受ける者が第一項の通知に基づき登録免許税を納付しようとする場合において、納付受託者が当該登録免許税の納付の委託を受けたときは、当該委託を受けた日に当該登録免許税の納付があつたものとみなして、国税通則法の延滞税に関する規定を適用する。
- （納付受託者）

- 第二十四条の四** 登録免許税の納付に関する事務（以下この項及び第二十四条の六第一項において「納付事務」という。）を適正かつ確実に実施することができると認められる者であり、かつ、政令で定める要件に該当する者として登記等を所管する省庁の長（以下「所管省庁の長」という。）が指定するもの（以下「納付受託者」という。）は、当該登記等を受ける者の委託を受けて、納付事務を行うことができる。

2 所管省庁の長は、前項の規定による指定をしたときは、納付受託者の名称、住所又は事務所の所在地を変更しようとするときは、あらかじめ、その旨を所管省庁の長に届け出なければならない。

- 3 納付受託者は、その名称、住所又は事務所の所在地を変更しようとするときは、あらかじめ、その旨を所管省庁の長に届け出なければならない。
- 4 所管省庁の長は、前項の規定による届出があつたときは、当該届出に係る事項を公示しなければならない。

（納付受託者の納付）

2 所管省庁の長は、第二十四条の三第一項の規定による委託を受けたときは、遅滞なく、財務省令で定めるところにより、その旨及びその年月日を当該委託に係る所管省庁の長に報告しなければならない。

（納付受託者の帳簿保存等の義務）

- 第二十四条の六** 納付受託者は、財務省令で定めるところにより、帳簿を備え付け、これに納付事務に関する事項を記載し、及びこれを保存しなければならない。
- 2 所管省庁の長は、前二条及びこの条の規定を施行するため必要があると認めるときは、その必要な限度で、財務省令で定めるところにより、納付受託者に対し、報告をさせることができる。
- 3 所管省庁の長は、前二条及びこの条の規定を施行するため必要があると認めるときは、その必要な限度で、その職員に、納付受託者の事務所に立ち入り、納付受託者の帳簿書類（その作成又は保存に代えて電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によつては認識することができない方式で作られる記録であつて、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。）の作成又は保存がされている場合における当該電磁的記録を含む。）その他必要な物件を検査させ、又は関係者に質問させることができ。
- 4 前項の規定により立入検査を行う職員は、その身分を示す証明書を携帯し、かつ、関係者の請求があるときは、これを提示しなければならない。
- 5 第三項に規定する権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。
- （納付受託者の指定の取消し）

第二十四条の七 所管省庁の長は、第二十四条の四第一項の規定による指定を受けた者が次の各号のいずれかに該当するときは、その指定を取り消すことができる。

- 一 第二十四条の四第一項に規定する指定の要件に該当しなくなつたとき。
- 二 第二十四条の五第二項又は前条第二項の規定による報告をせず、又は虚偽の報告をしたとき。
- 三 前条第一項の規定に違反して、帳簿を備え付けず、帳簿に記載せず、若しくは帳簿に虚偽の記載をし、又は帳簿を保存しなかつたとき。
- 四 前条第三項の規定による立入り若しくは検査を拒み、妨げ、若しくは忌避し、又は同項の規定による質問に対して陳述をせず、若しくは虚偽の陳述をしたとき。
- 2 所管省庁の長は、前項の規定により指定を取り消したときは、その旨を公示しなければならない。
- （納付の確認）

- 第二十五条** 登記機関は、登記等をするとき（第二十四条第一項の規定により同項に規定する書類が免許等をした後に提出される場合及び第二十四条の二第二項の納付の期限が免許等をした日後である場合並びに納付受託者が第二十四条の三第一項の規定による委託を受けた場合にあつては、財務省令で定めるとき）は、当該登記等につき課されるべき登録免許税の額の納付の事実を確認しなければならない。この場合において、当該納付が第二十二条、第二十三条第二項又は次条第三項の規定により印紙をもつてされたものであるときは、当該登記等の申請書（当該登記等が第二十三条の官庁又は公署の嘱託による場合にあつては、当該登記等の嘱託書）の紙面と印紙の彩紋とにかくて判明に消印しなければならない。
- （課税標準及び税額の認定）

- 第二十六条** 登記機関は、登記等の申請書（当該登記等が官庁又は公署の嘱託による場合にあつては当該登記等の嘱託書とし、当該登記等が免許等である場合にあつては財務省令で定める書類とする。次項及び第四項において同じ。）に記載された当該登記等に係る登録免許税の課税標準の金額若しくは数量又は登録免許税の額が国税に関する法律の規定に従つていなかつたとき、その他当該

課税標準の金額若しくは数量又は登録免許税の額がその調査したところと異なるときは、その調査したところにより認定した課税標準の金額若しくは数量又は登録免許税の額を当該登記等を受ける者に通知するものとする。ただし、他の法令の規定により当該登記等の申請を却下するときは、この限りでない。

2 前項の通知を受けた者は、当該通知に係る登記等を受けることをやめる場合を除き、遅滞なく、当該通知を受けた登録免許税の額と当該登記等の申請書に記載された登録免許税の額との差額に相当する登録免許税を国に納付し、その納付に係る領収証書を当該通知に係る登記官署等に提出しなければならない。

3 前項の場合において、第一項の通知に係る登録免許税が免許等以外の登記等に係るものであり、かつ、当該通知をした登記機関が認めるときは、前項に規定する登記等を受ける者は、遅滞なく、同項に規定する差額に相当する登録免許税を国に納付することにより、当該差額に相当する登録免許税を国に納付することができる。

4 第二項の場合において、第一項の通知を受けた者は、当該通知に係る登記等の申請書に記載された登録免許税を第二十四条の二第一項に規定する財務省令で定める方法により納付しているときは、第二項に規定する差額に相当する登録免許税を当該方法により国に納付することができる。

(納期限)

第二十七条 登録免許税を納付すべき期限は、次の各号に掲げる登録免許税の区分に応じ、当該各号に定める時又は期限とする。

一 次号に掲げる登録免許税以外の登録免許税 当該登録免許税の納付の基準となる登記等を受ける時

二 免許等に係る登録免許税で当該登録免許税に係る第二十四条第一項又は第二十四条の二第二項(第二十四条の三第二項の規定により読み替えて適用する場合を含む。)の期限が当該登録免許税の納付の基準となる免許等を受ける日後であるもの 当該期限

(納付不足額の通知)

第二十八条 登記機関は、登録免許税の納期限後において登記等を受けた者が第二十一条から第二十三条まで(第三十五条第四項の規定により読み替えて適用する場合を含む。)、第二十四条、第二十四条の二第一項又は第二十六条第二項から第四項までの規定により当該登記等につき納付すべき登録免許税の額の全部又は一部を納付していない事実を知つたときは、第三項の規定の適用がある場合を除き、遅滞なく、当該登記等を受けた者の当該登録免許税に係る第八条第二項の規定による納税地の所轄税務署長に対し、その旨及び財務省令で定める事項を通知しなければならない。

2 前項の通知は、登記等を受けた者が二人以上ある場合には、そのうち登記機関の選定した者(当該登記等が登記又は登録の権利者及び義務者の申請に係るものである場合には、当該権利者のうちから選定した者)の同項の納税地の所轄税務署長にするものとする。

3 登記機関は、登録免許税の納期限(第二十四条の五第一項に規定する政令で定める日が当該納期限後に到来する場合には、当該政令で定める日)後において、納付受託者が第二十四条の三第一項の規定による委託を受けた登録免許税の額の全部又は一部を納付していない事実を知つたときは、遅滞なく、当該納付受託者の住所又は事務所の所在地の所轄税務署長に対し、その旨及び財務省令で定める事項を通知しなければならない。

(税務署長による徵收)

第二十九条 税務署長は、前条第一項の通知を受けた場合には、当該通知に係る同項に規定する納付していらない登録免許税を当該通知に係る登記等を受けた者から徵收する。

2 税務署長は、前条第三項の通知を受けた場合には、国税の保証人に関する徵收の例により当該通知に係る同項に規定する納付していらない登録免許税を当該通知に係る納付受託者から徵收する。

3 税務署長は、第二十四条の五第一項の規定により納付受託者が納付すべき登録免許税について、当該納付受託者に対する国税通則法第四十条(滞納処分)の規定による処分をしてなお徵收すべき残余がある場合でなければ、その残余の額について当該登録免許税に係る登記等を受けた者から徵收することができない。

4 税務署長は、第一項に規定する場合のほか、登記等を受けた者が第二十一条から第二十三条まで(第三十五条第四項の規定により読み替えて適用する場合を含む。)、第二十四条、第二十四条の二第一項又は第二十六条第二項から第四項までの規定により当該登記等につき納付すべき登録免許税の額の全部又は一部を納付していらない事実を知つた場合には、当該納付していらない登録免許税をその者から徵收する。

(納付手続等の政令への委任)

第三十条 この節に定めるもののほか、登録免許税の納付の手続その他この節の規定の適用に関し必要な事項は、政令で定める。

(過誤納金の還付等)

(第二節 還付)

(過誤納金の還付等)

第三十一条 登記機関は、次の各号に掲げる場合のいずれかに該当する場合には、遅滞なく、当該各号に定める登録免許税の額その他政令で定める事項を登記等の申請をした者又は登記等を受けた者(これらの者が二人以上ある場合には、そのうち登記機関の選定した者)の当該登録免許税に係る第八条第二項の規定による納税地の所轄税務署長に通知しなければならない。

一 登録免許税を納付して登記等の申請をした者につき当該申請が却下された場合(第四項において準用する第三項の証明をする場合を除く。) 当該納付された登録免許税の額

二 登録免許税を納付して登記等の申請をした者につき当該申請の取下げがあつた場合(第三項の証明をする場合を除く。) 当該納付された登録免許税の額

三 過大に登録免許税を納付して登記等を受けた場合 当該過大に納付した登録免許税の額

2 登記等を受けた者は、当該登記等の申請書(当該登記等が官庁又は公署の嘱託による場合にあつては当該登記等の嘱託書とし、当該登記等が免許等である場合にあつては財務省令で定める書類とする。)に記載した登録免許税の課税標準又は税額の計算が国税に関する法律の規定に従つていなかつたこと又は当該計算に誤りがあつたことにより、登録免許税の過誤納があるときは、当該登記等を受けた日(当該登記等が免許等である場合において、当該免許等に係る第二十四条第一項又は第二十四条の二第二項(第二十四条の三第二項の規定により読み替えて適用する場合を含む。)に規定する期限が当該免許等をした日後であるときは、当該期限)から五年を経過する日までに、政令で定めるところにより、その旨を登記機関に申し出て、前項の通知をすべき旨の請求をすることができる。

3 登記機関は、登記等を受ける者から登記等の申請の取下げにあわせて、当該登記等の申請書(当該登記等が第二十三条の官庁又は公署の嘱託による場合にあつては当該登記等の嘱託書とし、当該登記等が免許等である場合にあつては当該登記等に係る登記機関の定める書類とする。次項において同じ。)に貼り付けられた登録免許税の領収証書又は印紙で使用済みの旨の記載又は消印がさ

- れたものを当該登記官署等における登記等について当該取下げの日から一年以内に再使用したい旨の申出があつたときは、政令で定めるところにより、当該領収証書又は印紙につき再使用することができる証明をすることができる。この場合には、第五項の申出があつたときを除き、当該証明を受けた領収証書又は印紙に係る登録免許税は、還付しない。
- 4 前項の規定は、登記機関が、登記等の却下に伴い当該登記等の申請書を当該申請者に返付する場合において、当該申請書に貼り付けられた登録免許税の領収証書又は印紙で使用済みの旨の記載又は消印がされたものを当該登記官署等における登記等について当該却下の日から一年以内に再使用させることを適當と認めるときについて準用する。
- 5 第三項（前項において準用する場合を含む。）の證明を受けた者は、当該證明に係る領収証書又は印紙を再使用しないこととなつたときは、当該證明をした登記機関に対し、当該證明のあつた日から一年を経過した日までに、政令で定めるところにより、当該證明を無効とともに、当該領収証書で納付した登録免許税又は当該印紙の額に相当する登録免許税の還付を受けたい旨の申出をすることができる。この場合において、当該申出があつたときは、当該申出を新たな登記等の申請の却下又は取下げとみなして第一項の規定を適用する。
- 6 第二十四条の二第一項に規定する財務省令で定める方法により登録免許税を納付した者が当該登録免許税の納付に係る登記等を受けることをやめる場合には、当該登録免許税を納付した者は、当該納付した日（第二十四条の三第一項の規定により当該登録免許税の納付の委託をした者にあつては、当該納付の委託をした日。次項において同じ。）から六月を経過する日までに、政令で定めるところによりその旨を登記機関に申し出て、当該登録免許税の額その他政令で定める事項を当該登録免許税を納付した者の当該登録免許税に係る第八条第二項の規定による納稅地の所轄税務署長に対し通知をすべき旨の請求をすることができる。
- 7 第二十四条の二第一項に規定する財務省令で定める方法により登録免許税を納付した者が当該納付した日から六月を経過する日までに当該登録免許税の納付に係る登記等の申請をしなかつた場合には、前項の請求があつたものとみなす。
- 8 登録免許税の過誤納金に対する国税通則法第五十六条から第五十八条まで（還付・充当・還付加算金）の規定の適用については、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める日に納付があつたものとみなす。ただし、当該各号（第二号を除く。）に掲げる場合のいずれかに該当する場合の登録免許税に係る過誤納金のうち当該各号に定める日後に納付された登録免許税の額に相当する部分については、この限りでない。
- 一 登録免許税を納付して登記等の申請をした者につき当該申請を却下した場合（第四項において準用する第三項の證明をした場合を除く。）当該却下した日
- 二 第五項の申出があつた場合 当該申出があつた日
- 三 登録免許税を納付して登記等の申請をした者につき当該申請の取下げがあつた場合（第三項の證明をした場合を除く。）当該取下げがあつた日
- 四 過大に登録免許税を納付して登記等を受けた場合 当該登記等を受けた日（当該登記等が免許等である場合において、当該免許等を受けた日が当該免許等に係る第二十七条第二号に定める期限であるときは、当該期限）
- 五 第二十四条の二第二項に規定する財務省令で定める方法により登録免許税を納付した者が当該登録免許税の納付の基因となる登記等の申請をしなかつた場合 第六項の申出があつた日（同項の申出がなかつた場合には、前項に規定する六月を経過する日）

第四章 雜則

（通知）

第三十二条 登記機関（政令で定める登記機関については、政令で定めるところにより、その年の前年四月一日からその年三月三十一日までの期間内にした登記等に係る登録免許税の納付額を、その年七月三十一日までに財務大臣に通知しなければならない。

第三十三条 削除

（変更の届出に係る登録が新たな登録とみなされる場合の当該届出の取扱い）

第三十四条 保険業法（平成七年法律第二百五十五号）第二百八十条第二項（変更等の届出等）の規定による登録のうち別表第一第三十七号の規定により同法第二百七十六条（登録）の特定保険募集人の登録とみなされるものに係る同法第二百八十五条第一項第一号の規定による届出については、これを当該登記に係る申請とみなして、この法律の規定を適用する。

（届出が有料職業紹介事業の許可とみなされる場合の当該届出の取扱い）

第三十四条の二 別表第一第八十一号の規定により職業安定法（昭和二十二年法律第二百四十一号）第三十条第一項（有料職業紹介事業の許可）の有料の職業紹介事業の許可とみなされる高年齢者等の雇用の安定等に関する法律（昭和四十六年法律第六十八号）第三十八条第二項（業務等）の規定による届出については、これを当該許可に係る申請とみなして、前章及びこの章の規定を適用する。

（認定が一般貨物自動車運送事業の許可等とみなされる場合の取扱い）

第三十四条の三 福島復興再生特別措置法（平成二十四年法律第二十五号）第七条第一項（福島復興再生計画の認定）に規定する福島復興再生計画の同条第十四項の認定（同法第七条の二第一項（東日本大震災復興特別区域法の準用）において読み替えて準用する東日本大震災復興特別区域法（平成二十三年法律第二百二十二号）第六条第一項（認定復興推進計画の変更）の変更の認定を含む。）が次の各号に掲げる規定により当該各号に定める登記等とみなされる場合における福島復興再生特別措置法第七十一条第三項（流通機能向上事業に係る許認可等の特例）の同意をした者については、当該福島復興再生計画に係る同法第七条第一項の規定による申請を当該同意をした者の当該登記等に係る申請とみなして、前章及びこの章の規定を適用する。

一 別表第一第一百二十五号 貨物自動車運送事業法（平成元年法律第八十三号）第三条（一般貨物自動車運送事業の許可）の一般貨物自動車運送事業の許可

二 別表第一第一百三十九号 貨物利用運送事業法（平成元年法律第八十二号）第三条第一項（登録）の第一種貨物利用運送事業の登録若しくは同法第二十五条第一項（事業計画及び集配事業計画）の事業計画の変更の認可、同法第三十五条第一項（登録）の第一種貨物利用運送事業の登録若しくは同法第三十九条第一項（変更登録等）の変更登録又は同法第四十五条第一項（許可）の第二種貨物利用運送事業の許可若しくは同法第四十六条第二項（事業計画）の事業計画の変更の認可

三 別表第一第一百四十号 倉庫業法（昭和三十一年法律第二百二十一号）第三条（登録）の倉庫業者の登録又は同法第七条第一項（変更登録等）の変更登録

(認定が旅行業者代理業の登録とみなされる場合の取扱い)

第三十四条の四 奄美群島振興開発特別措置法（昭和二十九年法律第八十九号）第十一条第一項（産業振興促進計画の認定）に規定する産業振興促進計画の同条第八項（同法第十三条第二項（認定産業振興促進計画の変更）において準用する場合を含む。）の認定が別表第一（百四十二号の規定により旅行業法（昭和二十七年法律第二百三十九号）第三条（登録）の旅行業者代理業の登録とみなされる場合における奄美群島振興開発特別措置法第十一条第五項の同意をした者については、当該産業振興促進計画に係る同条第一項の規定による申請を当該同意をした者の当該登録に係る申請とみなして、前章及びこの章の規定を適用する。

2 小笠原諸島振興開発特別措置法（昭和四十四年法律第七十九号）第十一条第一項（産業振興促進計画の認定）に規定する産業振興促進計画の同条第八項（同法第十三条第二項（認定産業振興促進計画の変更）において準用する場合を含む。）の認定が別表第一（百四十二号の規定により旅行業法（昭和二十七年法律第二百三十九号）第三条（登録）の旅行業者代理業の登録とみなされる場合における奄美群島振興開発特別措置法第十一条第五項の同意をした者については、当該産業振興促進計画に係る同条第一項の規定による申請を当該同意をした者の当該登録に係る申請とみなして、前章及びこの章の規定を適用する。

（認定等が鉄道事業の許可等とみなされる場合の取扱い）

第三十四条の五 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成十九年法律第五十九号）第二十七条の二第一項（地域旅客運送サービス継続事業の実施）に規定する地域旅客運送サービス継続実施計画の認定（同条第七項において準用する場合を含む。）の認定若しくは同法第二十七条の十四第一項（地域公共交通利便増進実施計画の認定）（同条第七項において準用する場合を含む。）に規定する地域公共交通利便増進実施計画の同法第二十七条の十五第二項（地域公共交通利便増進実施計画の認定）（同条第七項において準用する場合及びこれらの規定を同法第二十九条の九において準用する場合を含む。）に規定する地域公共交通利便増進実施計画の同法第二十七条の十五第二項（交通手段再構築実証事業計画の作成）に規定する交通手段再構築実証事業計画の同条第六項（同条第七項において準用する場合を含む。）の規定による公表が次の各号に掲げる規定により当該各号に定める登記等とみなされる場合における同法第二十七条の二第三項の同意をした者若しくは同法第二十七条の十四第四項の同意をした者若しくは同項に規定する協定締結実施主体（以下この条において「協定締結実施主体」という。）又は当該交通手段再構築実証事業計画に定められた同法第二十九条の四第一項に規定する交通手段再構築実証事業の同条第二項第二号の実施主体（以下この条において「実施主体」という。）については、当該地域旅客運送サービス継続実施計画に係る同法第二十七条の三第一項の規定による申請若しくは当該地域公共交通利便増進実施計画に係る同法第二十九条の四第四項の規定による協議の申出を、これらの同意をした者若しくは協定締結実施主体又は実施主体の当該登記等に係る申請とみなして、前章及びこの章の規定を適用する。

一 別表第一（百二十号）鉄道事業法（昭和六十一年法律第九十二号）第三条第一項（許可）の第一種鉄道事業、第二種鉄道事業若しくは第三種鉄道事業の許可又は軌道法（大正十年法律第七十六号）第三条（事業の特許）の軌道事業の特許

二 別表第一（百二十五号）道路運送法（昭和二十六年法律第一百八十三号）第四条第一項（一般旅客自動車運送事業の許可）的一般旅客自動車運送事業の許可又は同法第十五条第一項（事業計画の変更）の事業計画の変更の認可

三 別表第一（百二十五号）道路運送法第七十九条（登録）の自家用有償旅客運送者の登録又は同法第七十九条の七第一項（変更登録等）の変更登録

四 別表第一（百三十三号）海上運送法（昭和二十四年法律第一百八十七号）第三条第一項（一般旅客定期航路事業の許可）的一般旅客定期航路事業の許可又は同法第二十条第一項（貨客定期航路事業）の貨客定期航路事業の登録若しくは同法第二十二条第一項（一般不定期航路事業）的一般不定期航路事業の登録

（公表が自家用有償旅客運送者の登録とみなされる場合の取扱い）

第三十四条の六 地域再生法（平成十七年法律第二十四号）第十七条の三十六第一項（地域住宅団地再生事業計画の作成）に規定する地域住宅団地再生事業計画の同条第二十九項（同条第三十項において準用する場合を含む。）の規定による公表が別表第一（百二十五号）の規定により道路運送法第七十九条（登録）の自家用有償旅客運送者の登録又は同法第七十九条の七第一項（変更登録等）の変更登録とみなされる場合における地域再生法第十七条の三十六第十五項の同意をした者については、当該地域住宅団地再生事業計画に係る同条第二十七項の同意を得たための申出を同条第十五項の同意をした者の当該登録又は変更登録に係る申請とみなして、前章及びこの章の規定を適用する。

（電子情報処理組織等を使用した登記等の申請等）

第三十五条 登記等を受ける者又は官庁若しくは公署が電子情報処理組織を使用して当該登記等の申請又は嘱託を行つた場合には、当該登記等の申請又は嘱託は、書面により行われたものとみなして、この法律その他の登録免許税に関する法令の規定を適用する。

2 前項に規定する場合において、第四条第二項に規定する財務省令で定める書類の添付の方法その他前項の規定の適用に関し必要な事項は、財務省令で定める。

3 登記を受ける者又は官庁若しくは公署が不動産登記法（平成十六年法律第二百二十三号）第十八条（申請の方法）（他の法令において準用する場合を含む。）の規定により磁気ディスクを提出して登記の申請又は嘱託を行つた場合には、当該登記の申請又は嘱託（当該磁気ディスクに係る部分に限る。）は、書面により行われたものとみなして、この法律その他の登録免許税に関する法令の規定を適用する。

4 前項の場合（登記の申請に必要な情報の全部を記録した磁気ディスクを提出して登記の申請又は嘱託を行つた場合に限る。）において、当該登記につき課されるべき登録免許税の額に相当する登録免許税を第二十一条から第二十三条までの規定により国に納付するときは、第二十一条中「当該登記等に係る登記官署等の使用に係る電子計算機（入出力装置を含む。以下同じ。）と当該登記等の申請又は嘱託をする者の使用に係る電子計算機と電気通信回線で接続した電子情報処理組織（以下「電子情報処理組織」という。）を使用して」とあり、及び第二十三条第一項中「電子情報処理組織」という。）を使用して」と読み替えて適用するものとする。

5 第二項の規定は、第三項に規定する場合について準用する。

附 則 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して二月をこえない範囲内で政令で定める日から施行する。

(経過規定の原則)

第二条 この附則に別段の定めがあるものを除き、改正後の登録免許税法（以下「新法」という。）の規定は、昭和四十二年八月一日以後に受ける登記等につき課されるべき登録免許税について適用し、同前に受けた登記等につき課した又は課すべきであった登録税については、なお従前の例による。

(建物の床面積の増加に係る登記の登録税の免除)

第三条 所有権の登記のある建物につき昭和四十二年七月三十一日以前に受ける床面積の増加に係る登記の登録税は、同年八月一日以後最初に当該建物について権利に関する登記の申請（官庁又は公署の嘱託を含む。以下同じ。）をするときは、前条の規定にかかわらず、納付することを要しない。

(不服申立て等に係る免許等についての課税の特例)

第六条 前条の規定の適用がある場合を除き、同条に規定する登記等の申請をした者は、不服申立て又は訴えについての裁決又は判決により当該申請に係る登記等を受けるときは、当該登記等については、登録免許税を課さない。

(不動産登記に係る不動産価額の特例)

第七条 新法別表第一の第一号に掲げる不動産の登記の場合における新法第十条第一項の課税標準たる不動産の価額は、当分の間、当該登記の申請の日の属する年の前年十二月三十一日現在又は当該申請の日の属する年の一月一日現在において地方税法（昭和二十五年法律第二百一十六号）第三百四十二条第九号（固定資産税に関する用語の意義）に掲げる固定資産課税台帳に登録された当該不動産の価格を基礎として政令で定める価額によることができる。

(倉庫業法の改正に伴う許可に係る課税の特例)

第八条 倉庫業法の一部を改正する法律（昭和三十六年法律第百十八号）附則第二項（経過規定）に規定する倉庫業を営んでいる者で同項の規定により倉庫業法第三条（営業の許可）の許可の申請の手続をした者が、当該申請に係る新法別表第一の第三十八条号の（二）に掲げる倉庫業の許可を受ける場合における当該許可に係る登録免許税の課税標準及び税率は、新法第九条の規定にかかわらず、当該許可件数一件につき一万円とする。

(経過措置の政令への委任)

第十二条 附則第一条から前条までに定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 (昭和四十二年七月一三日法律第五六号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第六条及び附則第十三条から第三十一条までの規定は、公布の日から起算して三月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (昭和四十二年七月二九日法律第九七号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (昭和四二年八月一日法律第一二五号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、昭和四十二年十二月一日（以下「施行日」という。）から施行する。

附 則 (昭和四二年八月一日法律第一二二号) 抄

1 この法律は、公布の日から起算して一月を経過した日から施行する。

附 則 (昭和四二年八月一日法律第一二五号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和四二年八月一五日法律第一三四号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (昭和四二年八月一六日法律第一三五号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和四二年八月一九日法律第一三八号) 抄

(施行期日)

1 この法律は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和四三年五月一七日法律第五一号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して三月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和四三年五月二三日法律第六三号) 抄
 1 この法律は、公布の日から起算して百二十日を経過した日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和四三年五月二九日法律第七三号) 抄
 第一条 この法律は、昭和四十三年十月一日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和四三年五月三〇日法律第七四号) 抄
 第一条 この法律は、昭和四十三年六月一日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和四四年六月一日法律第八四号) 抄
 第一条 この法律は、公布の日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和四四年六月三日法律第九一號) 抄
 1 この法律は、公布の日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和四四年六月三日法律第三八号) 抄
 1 この法律は、公布の日から起算して六箇月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和四四年六月三日法律第三八号) 抄
 1 この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和四四年六月三日法律第三八号) 抄
 1 この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和四四年六月三日法律第三八号) 抄
 第一条 この法律は、都市計画法の施行の日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和四四年六月三日法律第三八号) 抄
 第二十二条 附則第四条第一項に規定する市街地改造事業並びに同条第二項に規定する防災建築街区造成組合、防災建築街区造成事業及び防災建築物に関しては、この法律の附則の規定による改正後の次の各号に掲げる法律の規定にかかわらず、なお従前の例による。

一から八まで 略
九 登録免許税法

2 前項の場合において、この法律の施行後の不動産の取得について附則第十条の規定による改正前の地方税法第七十三条の十四第七項の規定を適用するときは、同項中「その者が市街地改造事業又は防災建築街区造成事業を施行する土地の区域内に所有していた不動産の固定資産課税台帳に登録された価格（当該不動産の価格が固定資産課税台帳に登録されていない場合にあつては、政令で定めるところにより、道府県知事が第三百八十八条第一項の固定資産評価基準によつて決定した価格）に相当する額を」とあるのは、「当該建築施設の部分の価格に同法第四十六条（防災建築街区造成法第五十五条第一項において準用する場合を含む。）の規定により確定した当該建築施設の部分の価額に対するその者が市街地改造事業又は防災建築街区造成事業を施行する土地の区域内に有していた土地、借地権又は建築物の対償の額の割合を乗じて得た額を当該建築施設の部分の」とする。

附 則 (昭和四四年一二月一〇日法律第八六号) 抄
 (施行期日等)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる日から施行する。

一から三まで 略
四 目次の改正規定、第二十七条に一項を加える改正規定、第二十七条の次に一条を加える改正規定、第二十八条第三項の改正規定、第二十九条の四に一項を加える改正規定、第三十三条第一項の改正規定（同項中「第二十七条」の下に「第一項」を加える部分に限る。）、第五十条の改正規定、第五十二条の四に一項を加える改正規定、第五十二条の五を第五十二条の六とし、同条の前にもう一条を加える改正規定、第七十七条の改正規定（第二項に係る部分に限る。）、第八十七条の次に一条を加える改正規定、第九十五条の改正規定、同条の次に一条を加える改正規定、第一百十一条の次に一条を加える改正規定及び第九章の次に一章を加える改正規定並びに附則第十七条、附則第十九条から附則第二十三条まで、附則第二十六条及び附則第二十九条の規定 (昭和四十五年十月一日)
附 則 (昭和四五年三月二八日法律第八号) 抄
 (施行期日)

第一条 この法律は、昭和四十五年五月一日から施行する。

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して三月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日等)
附則 (昭和四六年六月一日法律第九六号) 抄
 1 この法律は、公布の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に掲げる日から施行する。

一 第十八条、第十九条及び第二十八条（港則法第二条の改正規定及び別表を削る改正規定に限る。）並びに附則第六項、第十八項、第二十六項及び第二十九項 公布の日から起算して一月を経過した日

二 略
 三 第二十四条及び第二十七条並びに附則第八項から第十四項まで、第十九項、第二十一項及び第二十七項 公布の日から起算して六月を経過した日

(施行期日)
附則 (昭和四六年六月三日法律第九九号) 抄
 1 この法律は、昭和四十七年四月一日から施行する。

(施行期日)
附則 (昭和四六年六月七日法律第一〇六号) 抄
 1 この法律は、公布の日から施行する。

(施行期日)
附則 (昭和四七年五月一三日法律第三一号) 抄
 1 この法律は、公布の日から起算して六箇月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附則 (昭和四七年五月二九日法律第四一号) 抄
 1 この法律は、公布の日から起算して三月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附則 (昭和四七年六月一二日法律第六二号) 抄
 1 この法律は、公布の日から起算して三月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

第一条 この法律は、昭和四十八年十月一日から施行する。ただし、目次の改正規定、第七十四条の次に二条を加える改正規定、第五章の次に一章を加える改正規定、第九十四条の七、第九十五条、第一百五条及び第一百九条から第百十二条までの改正規定並びに次条第五項、附則第三条、附則第七条（地方税法（昭和二十五年法律第二百二十六号）第六百九十九条の三第三項及び第六百九十九条の十一第一項の改正に係る部分を除く。）及び附則第九条から附則第十三条までの規定は、公布の日から施行する。

(施行期日)
附則 (昭和四七年六月一五日法律第六六号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附則 (昭和四七年六月一六日法律第七四号) 抄
 1 この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附則 (昭和四七年六月二二日法律第八八号) 抄
 1 この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附則 (昭和四八年五月一六日法律第一〇五号) 抄
 1 この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附則 (昭和四八年五月一一日法律第二五号) 抄
 1 この法律は、昭和四十八年七月一日から施行する。

(施行期日)
附則 (昭和四八年九月一四日法律第八〇号) 抄
 1 この法律は、昭和四十八年九月一日から施行する。

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から三月を経過した日から施行する。

附 則（昭和四八年九月二六日法律第九二号）抄

（施行期日） 第一条 この法律の規定は、次の各号に掲げる区分に従い、それぞれ当該各号に定める日から施行する。

第一条及び第二条並びに次条から附則第十一条まで、附則第二十二条から附則第二十八条まで、附則第三十一条及び附則第三十五条の規定 昭和四十八年十一月一日

附 則（昭和四八年一〇月一一日法律第一〇九号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則（昭和四九年三月二七日法律第八号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して三月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則（昭和四九年五月二九日法律第九号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、昭和四十九年四月一日から施行する。

附 則（昭和四九年五月二日法律第四三号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第十六条から第二十七条までの規定は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則（昭和四九年五月三一日法律第六二号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則（昭和四九年六月二日法律第六九号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則（昭和五〇年六月一九日法律第四一号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から施行する。

附 則（昭和五〇年七月一〇日法律第五七号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則（昭和五〇年七月一五日法律第四五号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則（昭和五〇年七月一五日法律第六五号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則（昭和五一年三月三一日法律第一一号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則（昭和五一年三月三一日法律第一一号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第八条に一項を加える改正規定及び別表第一中第三十三号の二を加える改正規定は、揮発油販売業法の施行の日から施行する。

2 1 この法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第八条に一項を加える改正規定及び別表第一中第三十三号の二を加える改正規定は、揮発油販売業法の施行の日から施行する。
2 2 この附則に別段の定めがあるものを除き、改正後の登録免許税法（以下「新法」という。）の規定は、昭和五十二年五月一日以後に受ける新法第二条に規定する登記等（以下「登記等」という。）につき課されるべき登録免許税について適用し、同日前に受けた登記等につき課された又は課されるべきであつた登録免許税については、なお従前の例による。

- 3** 昭和五十二年十二月三十一日までに受ける登記等で当該登記等に係る申請書（当該登記等が官署の嘱託による場合には、当該登記等の嘱託書。以下同じ。）が同年四月三十日以前に当該登記等に係る新法第八条第一項に規定する登記官署等（以下「登記官署等」という。）に提出されたものに係る登録免許税の課税標準及び税率は、新法第九条の規定にかかわらず、改正前の登録免許税法第九条に規定する課税標準及び税率とする。
- 4** 新法第二十二条及び第二十三条第二項の規定は、この法律の施行の日の翌日以後に登記等に係る申請書が登記官署等に提出される場合における当該登記等に係る登録免許税について適用する。
- 附 則** **（昭和五二年六月一〇日法律第七〇号）抄**
（施行期日）
- 第一条** この法律は、公布の日から施行する。ただし、第十九条に一項を加える改正規定、第二十六条第一項の改正規定、第二十九条の次に一条を加える改正規定及び第三十九条ただし書の改正規定並びに次条から附則第十五条までの規定は、昭和五十三年三月三十一日までの間ににおいて政令で定める日から施行する。
- 附 則** **（昭和五二年六月一〇日法律第七〇号）抄**
（施行期日）
- 第一条** この法律は、公布の日から起算して五月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
- 附 則** **（昭和五三年六月二三日法律第八四号）抄**
（施行期日）
- 1** この法律は、協定の効力発生の日から施行する。
- 附 則** **（昭和五三年六月二三日法律第八四号）抄**
（施行期日）
- 1** この法律は、昭和五十四年一月一日から施行する。
- 附 則** **（昭和五三年六月二七日法律第八三号）抄**
（施行期日等）
- 第一条** この法律は、公布の日から施行し、第二条の規定による改正後の石炭及び石油対策特別会計法の規定は、昭和五十三年度の予算から適用する。
- 附 則** **（昭和五四年三月三〇日法律第五五号）抄**
（施行期日）
- 1** この法律は、民事執行法（昭和五十四年法律第四号）の施行の日（昭和五十五年十月一日）から施行する。
- 附 則** **（昭和五四年三月三〇日法律第五五号）抄**
（施行期日）
- 1** この法律は、民事執行法（昭和五十四年法律第四号）の施行前に申し立てられた民事執行、企業担保権の実行及び破産の事件については、なお従前の例による。
- 2** この法律の施行前に申し立てられた民事執行、企業担保権の実行及び破産の事件については、同項の規定にかかわらず、最高裁判所規則の定めるところによる。
- 附 則** **（昭和五四年一二月二八日法律第七二二号）抄**
（施行期日等）
- 第一条** この法律は、昭和五十五年一月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。
- 第一項** 第一条の規定（同条中昭和四十二年度以後における国家公務員共済組合等からの年金の額の改定に関する法律第十一条第三項、第十一条の二第三項及び第十一条の三第四項の改正規定を除く。）、第二条中国家公務員共済組合法第二十一条第一項第三号及び第八十八条の五第一項の改正規定、同法第九十八条第二項を削る改正規定、同法第一百条第三項、第一百二条第三項、第一百十一条第四項及び第九項並びに附則第三条の二の改正規定、同条を附則第三条の三とし、附則第三条の次に一条を加える改正規定並びに同法附則第十四条の二を削り、附則第十四条の二とする改正規定、第三条中国家公務員共済組合法の長期給付に関する施行法第十二条第二項、第四項、第六項及び第七項、第二十二条第二項、第三項及び第五項、第三十一条第二項から第五項まで、第三十三条並びに第四十五条第二項、第六項及び第七項の改正規定並びに同法別表の改正規定（同表の備考四の改正規定を除く。）、第四条の規定並びに次項、附則第八条、第九条、第十六条、第十八条、第十九条、第二十一条、第二十二条、第二十四条及び第二十五条の規定 公布の日
- 附 則** **（昭和五四年一二月二八日法律第七六号）抄**
（施行期日等）
- 第一条** この法律は、昭和五十五年一月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。
- 第一項** 第一条の規定（同条中昭和四十二年度以後における公共企業体職員等共済組合法に規定する共済組合が支給する年金の額の改定に関する法律の改正規定（同法第三条の九第一項及び第三条の十第一項の改正規定を除く。）、第二条中公共企業体職員等共済組合法第四十九条の次に一条を加える改正規定、同法第五十九条の三第一項各号の改正規定、同法第六十三条第二項を削る改正規定及び同法附則第六条の二第一項から第八項までの改正規定並びに附則第七条、第十二条、第十五条、第二十条、第二十二条及び第二十三条の規定 公布の日
- 附 則** **（昭和五五年五月二〇日法律第五三号）抄**
（施行期日）
- 第一条** この法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第十六条から第三十六条までの規定は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

- 附 則** (昭和五五年五月三一日法律第七二号) 抄
 1 この法律は、公布の日から施行する。
附 則 (昭和五五年一月二七日法律第一一一号) 抄
 (施行期日等)
第一条 この法律は、公布の日から施行する。
- 第一条** この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
附 則 (昭和五六年四月二五日法律第二八号) 抄
 (施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
附 則 (昭和五六年五月二二日法律第四八号) 抄
 (施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第二十一条から第五十五条までの規定は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
附 則 (昭和五六六年六月一日法律第六一号) 抄
 (施行期日)
第一条 この法律は、銀行法(昭和五六年法律第五十九号)の施行の日から施行する。
- 附 則** (昭和五六六年六月一一日法律第六二号) 抄
 (施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
- 附 則** (昭和五六六年六月二日法律第六四号) 抄
 (施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
- 附 則** (昭和五六六年六月九日法律第七五号)
 この法律は、商法等の一部を改正する法律の施行の日(昭和五十七年十月一日)から施行する。ただし、第一条中非訟事件手続法第一百三十二条ノ一第一項の改正規定、第二条中担保附社債信託法第三十四条の改正規定、第三十三条、第四条及び第七条の規定、第八条中農業協同組合法第十条第七項の改正規定、第十二条中国有財産法第二条第一項第六号の改正規定(「を含む。」)の下に「新株引受権証券」を加える部分に限る。、第十三条中中小企業等協同組合法第九条の八第五項の改正規定、第二十四条中信用金庫法第五十三条第三項の改正規定、第二十六条中会社更生法第二百五十七条第四項の改正規定、第三十一条中労働金庫法第五十八条第六項の改正規定、第四十一条中商業登記法第八十二条の次に一条を加える改正規定及び同法第八十九条の改正規定並びに第四十五条及び第四十八条の規定は、商法等の一部を改正する法律附則第一条ただし書の政令で定める日から施行する。
- 附 則** (昭和五六六年六月一〇日法律第七六号) 抄
 (施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
- 附 則** (昭和五六六年六月一八日法律第八八号) 抄
 (施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から施行する。
- 附 則** (昭和五七年一月八日法律第一号) 抄
 (施行期日)
第一条 この法律は、昭和五十七年四月一日から施行する。
- 附 則** (昭和五七年五月一日法律第三九号) 抄
 (施行期日)
第一条 この法律は、昭和五八年四月二七日法律第二五号) 抄
 (施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
- 附 則** (昭和五八年五月一三日法律第三二号) 抄
 (施行期日)

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和五八年五月二七日法律第五九号) 抄

第一条 この法律は、昭和五十九年四月一日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和五八年一二月三日法律第八二号) 抄

第一条 この法律は、昭和五十九年四月一日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和五九年七月二〇日法律第五九号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和五九年八月七日法律第六四号) 抄

第一条 この法律は、昭和六十年四月一日から施行する。

(政令への委任)
第二十七条 附則第二条から前条までに定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

(施行期日)
附 則 (昭和五九年八月一四日法律第七五号) 抄

第一条 この法律は、昭和六十年一月一日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和五九年一二月一五日法律第八七号) 抄

第一条 この法律は、昭和六十年四月一日から施行する。

(政令への委任)
第二十八条 附則第二条から前条までに定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な事項は、政令で定める。

(施行期日)
附 則 (昭和六〇年五月三一四日法律第四三号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和六〇年六月八日法律第五六号) 抄

第一条 この法律は、昭和六十年十月一日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和六〇年六月一四日法律第六二号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第三項から第七項までの規定は、昭和六十一年三月三十一日までの間ににおいて政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和六〇年一二月六日法律第九二号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第十三条から第二十二条までの規定は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (昭和六〇年一二月二〇日法律第九五号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (昭和六一年四月一八日法律第二二号) 抄

(施行期日等)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和六一年五月二三日法律第六六号) 抄

1 この法律は、公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (昭和六一年五月二七日法律第七四号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して六年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (昭和六一年二月四日法律第九三号) 抄

第一条 この法律は、昭和六十二年四月一日から施行する。

(政令への委任)

第四十二条 附則第二条から前条までに定めるもののほか、この法律の施行に関する必要な事項は、政令で定める。

附 則 (昭和六二年五月二六日法律第三〇号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (昭和六二年五月二九日法律第四〇号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して六年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (昭和六二年五月二九日法律第四一號) 抄

第一条 この法律は、昭和六十三年四月一日から施行する。

(施行期日)

第三十一条 この附則に定めるもののほか、この法律の施行に伴い必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 (昭和六二年六月二日法律第四三号) 抄

第一条 この法律は、昭和六十二年十月一日から施行する。

(施行期日)

附 則 (昭和六二年六月二日法律第六〇号) 抄

第一条 この法律は、昭和六二年六月二日法律第六〇号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (昭和六二年六月二日法律第六一號) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (昭和六二年六月二日法律第一一四号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して六年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (昭和六三年四月二一日法律第一一八号) 抄

1 この法律は、公布の日から施行する。

(施行期日)

附 則 (昭和六三年五月一七日法律第四四号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(登録免許税法一部改正に伴う経過措置)

第十八条 施行日前に行われた旧法第十九条第一項第一号イ若しくはロ又は同項第二号に規定する事業の施行のため必要な土地又は建物に関する登記に係る登録免許税については、なお従前の例による。

2 新法附則第十九条第一項に規定する業務のうち旧法第十九条第一項第一号イ若しくはロ又は同項第二号の事業の施行のため必要な土地又は建物に関する登記についての前条の規定による改正後の登録免許税法第五条第六号の規定の適用については、同号中「規定する事業」とあるのは、「規定する事業、同法附則第十九条第一項に規定する業務のうち農用地開発公団法の一部を改正する法律(昭和六十三年法律第四十四号)による改正前の農用地開発公団法第十九条第一項第一号イ若しくはロ若しくは同項第二号(業務の範囲)に規定する事業」とする。

(施行期日) **（昭和六三年五月二四日法律第六六号）抄**

第一条 この法律は、公布の日から施行する。

附 則 **（昭和六三年五月三一日法律第七一号）抄**

第一条 この法律は、平成二年四月一日から施行する。

附 則 **（昭和六三年五月三一日法律第七二号）抄**

第一条 この法律は、平成二年四月一日から施行する。

附 則 **（昭和六三年五月三一日法律第七七号）抄**

第一条 この法律は、平成二年四月一日から施行する。

附 則 **（平成元年六月二八日法律第三一号）抄**

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 **（平成元年六月二八日法律第三九号）抄**

第一条 この法律は、平成二年一月一日から施行する。

附 則 **（平成元年六月二八日法律第五二号）抄**

第一条 この法律は、公布の日から起算して六年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 **（平成元年六月二八日法律第六一号）抄**

第一条 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 **（平成元年一二月一九日法律第八二号）抄**

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 **（平成元年一二月二二日法律第八六号）抄**

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 **（平成元年一二月二二日法律第八三号）抄**

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 **（平成元年一二月二二日法律第八六号）抄**

第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、それぞれ当該各号に定める日から施行する。
一から三まで 略

四 第一条中国民年金法目次の改正規定、同法第七条から第九条まで、第四十五条、第九十五条の二及び第一百一条の二の改正規定、同法第十章の章名の改正規定、同章第一節の節名の改正規定、同法第一百五十三条の前に款名を付する改正規定、同条の次に一条を加える改正規定、同法第一百六十六条の改正規定、同法第一百八十八条の次に一条及び款名を加える改正規定、同法第一百九十二条の改正規定、同法第一百九十九条の改正規定、同法第一百五十四条の次に四条及び款名を加える改正規定、同法第一百二十条、第一百二十二条、第一百二十四条及び第一百二十五条の改正規定、同法第一百二十六条の次に款名を付する改正規定、同法第一百二十七条の改正規定、同法第一百二十八条の改正規定、同条の次に一条を加える改正規定、同法第一百三十二条及び第一百三十三条の改正規定、同条の次に款名を付する改正規定、同法第一百三十四条の改正規定、同条の次に一条及び款名を加える改正規定、同法第一百三十六条及び第一百三十七条の改正規定、同法第十章中第一百三十七条の次に一節及び節名を加える改正規定、同法第一百三十八条の改正規定、同法第一百三十九条の次に一条を加える改正規定、同法第一百四十条から第一百四十二条までの改正規定、同法第十章第三節中同条の次に一条を加える改正規定、「第五節罰則」を「第四節罰則」に改める改正規定、同法第一百四十三条及び第一百四十五条から第一百四十八条までの改正規定並びに同法附則第五条、第六条及び第八条の改正規定並びに第四条中国民年金法等の一部を改正する法律附則第四条、第五条第九号、第三十二条第七項及び第三十四条第四項の改正規定並びに附則第三条、第四条、第六条及び第十六条の規定、附則第十七条の規定(前号に掲げる改正規定)

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成四年六月五日法律第七十七号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成四年六月二六日法律第八七号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成五年五月一九日法律第四六号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、第三条の改正規定並びに第七章中第四十三条の二を第四十三条の三とし、第四十三条の次に一条を加える改正規定は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から、第十八条第一項に一号を加える改正規定、第十九条の次に二条を加える改正規定、第二十六条第二項の改正規定(第一項第二号)の下に「及び第三号」を加える部分に限る)、第四十六条中第三号を第七号とし、第二号の次に四号を加える改正規定(同条第四号に係る部分に限る)及び附則第六条の規定は、この法律の施行の日から一年を経過した日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成五年一一月一九日法律第九〇号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して十日を経過した日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成六年六月二九日法律第五六号) 抄

第一条 この法律は、平成六年十月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第一条中健康保険法第二十三条の改正規定、同法第二十三条ノ二の改正規定、同法第三十七条ノ二の改正規定、同法第七十一条ノ三の改正規定、同法第七十一条ノ四の改正規定及び同法第七十六条の改正規定(同法附則第三条、第五条、第八条及び第九条第六項の改正規定を含む)並びに第一条中船員保険法の目次の改正規定(「福祉施設」を「福祉事業」に改める部分に限る)、同法第三章の章名の改正規定、同法第二十三条第二項の改正規定、同法第五十条ノ四の改正規定、同法第五十七条ノ二の改正規定、同法第五十九条ノ二第一項の改正規定及び同法第六十条の次に一条を加える改正規定並びに第三条中国民健康保険法の目次の改正規定(保健施設)を「保健事業」に改める部分に限る)、同法第六章の章名の改正規定、同法第八十二条の改正規定及び同法第一百六十六条の次に一条を加える改正規定並びに第四条中老人保健法第五条の改正規定、同法第二十二条の改正規定及び同法第二十五条に一項を加える改正規定並びに別表の改正規定並びに附則第三十条の規定並びに附則第五十六条の規定並びに附則第六十一条の規定 平成七年四月一日
 (その他の経過措置の政令への委任)

第六十七条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に伴い必要な経過措置は、政令で定める。

(施行期日)
附 則 (平成六年六月二九日法律第七六号) 抄

第一条 この法律の規定は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定める日から施行する。

一 略
 二 第二十四条、第二十五条第一項、第二十六条第二項、第二十八条第一項ただし書、第三十三条、第三十四条第一項及び第二項、第三十五条の二第一項、第六十五条第二項、第一百四十三条から第一百四十六条まで、第一百四十七条第一項、第一百四十八条、第一百四十八条の二第一項、第一百四十九条から第一百五十条まで、第一百五十三条並びに第一百五十四条第一項の改正規定、第一百五十五条の改正規定(「五十万円」を「三百万円」に改める部分に限る)、第一百五十六条の改正規定(「二十万円」を「百五十万円」に改める部分に限る)、第一百五十七条の改正規定(「五万円」を「五十万円」に改める部分に限る)、第一百五十七条の二及び第一百五十八条の改正規定、第一百六十条の改正規定(第二号に係る部分を除く)、第一百六十一条の改正規定(第二号に係る部分を除く)、第一百六十二条の改正規定並びに別表の改正規定並びに附則第四条から第十二条まで及び第十九条の規定 平成六年十一月十六日
附 則 (平成六年六月二九日法律第七七号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成六年一一月一四日法律第一一六号) 抄

第一条 この法律は、平成七年七月一日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成七年四月二一日法律第七五号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して九月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

第一条 この法律は、平成八年四月一日から施行する。

附 則 (平成七年五月八日法律第八四号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (平成七年五月八日法律第八七号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、更生保護事業法の施行の日から施行する。

附 則 (平成七年六月七日法律第一〇六号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、保険業法(平成七年法律第二百五号)の施行の日から施行する。

附 則 (平成七年六月一六日法律第一〇九号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十年四月一日から施行する。

附 則 (平成八年五月二九日法律第五一号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。

附 則 (平成八年六月一二日法律第六八号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成九年四月一日から施行する。

附 則 (平成八年六月一九日法律第八八号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成九年四月一日から施行する。

附 則 (平成九年五月一四日法律第八二号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成九年四月一日から施行する。

附 則 (平成九年五月九日法律第四八号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十年一月一日から施行する。

附 則 (平成九年五月二二日法律第五六号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十年四月一日から施行する。

附 則 (平成九年五月二三日法律第五九号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十年四月一日から施行する。

附 則 (平成九年六月四日法律第六八号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十年四月一日から施行する。

附 則 (平成九年五月二三日法律第五九号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十年四月一日から施行する。

附 則 (平成九年六月一三日法律第八三号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十年四月一日から施行する。

附 則 (平成九年六月一三日法律第八三号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十年四月一日から施行する。

附 則 (平成九年六月一三日法律第八三号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第十五条から第三十七条までの規定は、公布の日から起算して九月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (平成九年六月一〇日法律第一〇二号) 抄

(施行期日)

(施行期日)
第一条 この法律は、金融監督設置法（平成九年法律第二百一号）の施行の日から施行する。
 (政令への委任)

第六条 附則 第二条から前条までに定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附則 平成九年一二月一七日法律第一二四号 抄

この法律は、介護保険法の施行の日から施行する。

附則 平成九年一二月一九日法律第一三一号 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十年四月一日から施行する。

附則 平成九年一二月一九日法律第一三二号 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則 平成一〇年四月二二日法律第四二号 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則 平成一〇年五月二九日法律第八三号 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、千九百七十二年十一月十日、千九百七十八年十月二十三日及び千九百九十一年三月十九日にジュネーヴで改正された千九百六十一年十一月一日の植物の新品种の保護に関する国際条約が日本国について効力を生ずる日から施行する。

附則 平成一〇年六月三日法律第九〇号 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則 平成一〇年六月一五日法律第一〇六号 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、特定目的会社による特定資産の流动化に関する法律（平成十年法律第二百五号）の施行の日（平成十年九月一日）から施行する。

附則 平成一〇年六月一五日法律第一〇七号 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十年十一月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第一条中証券取引法第四章の次に一章を加える改正規定（第七十九条の二十九第一項に係る部分に限る。）並びに同法第二百八十九条第二項及び第四項の改正規定、第二十二条中保険業法第二編第十章第二節第一款の改正規定（第二百六十五条の六に係る部分に限る。）、第二十三条の規定並びに第二十五条の規定並びに附則第四十条、第四十二条、第五十八条、第一百四十条、第一百四十三条、第一百四十七条、第一百四十九条、第一百五十八条、第一百六十四条、第一百八十七条（大蔵省設置法（昭和二十四年法律第二百四十四号）第四条第七十九号の改正規定を除く。）及び第一百八十八条から第一百九十条までの規定 平成十年七月一日
 (その他の経過措置の政令への委任)

附則 第百九十条 附則第二条から第二百四十六条まで、第二百五十三条、第二百六十九条及び前条に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附則 平成一〇年一〇月一六日法律第一二六号 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、金融再生委員会設置法（平成十年法律第二百三十号）の施行の日から施行する。

附則 平成一〇年一〇月一六日法律第一三一号 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、金融再生委員会設置法（平成十年法律第二百三十号）の施行の日から施行する。

(経過措置)
第二条 この法律による改正前の担保附社債信託法、信託業法、農林中央金庫法、無尽業法、銀行等の事務の簡素化に関する法律、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律、農業協同組合法、証券取引法、損害保険料率算出団体に関する法律、水産業協同組合法、中小企業等協同組合法、協同組合による金融事業に関する法律、船主相互保険組合法、地方税法、証券投資信託及び証券投資法人に関する法律、信用金庫法、長期信用銀行法、貸付信託法、中小企業融資保証法、信用保証協会法、労働金庫法、自動車損害賠償保障法、農業信用保証保険法、地震保険に関する法律、登録免許税法、金融機関の合併及び転換に関する法律、外国証券業者に関する法律、農村地域工業等導入促進法、農水産業協同組合貯金保険法、銀行法、貸金業の規制等に関する法律、有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律、抵当証券業の規制等に関する法律、金融先物取引法、前払式証票の規制等に関する法律、商品投資に係る事業の規制に関する法律、国際的な協力の下に規制薬物に係る不正行為を助長する行為等の防止を図るための麻薬及び向精神薬取締法等の特例等に関する法律、特定債権等に係る事業の規制に関する法律、金融制度及び証券取引制度の改革のための関係法律の整備等に関する法律、協同組織金融機関の優先出資に関する法律、不動産特定共同事業法、保険業法、金融機関等の更生手続の特

例等に関する法律、農林中央金庫と信用農業協同組合連合会との合併等に関する法律、日本銀行法、銀行持株会社の創設のための銀行等に係る合併手続の特例等に関する法律、特定目的会社による特定資産の流動化に関する法律又は金融システム改革のための関係法律の整備等に関する法律（以下「旧担保附社債信託法等」という。）の規定により内閣総理大臣その他の国の機関がした免許、認可、承認、指定その他の処分又は通知その他の行為は、この法律による改正後の担保附社債信託法、信託業法、農林中央金庫法、無尽業法、銀行等の事務の簡素化に関する法律、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律、農業協同組合法、証券取引法、損害保険料率算出団体に関する法律、水産業協同組合法、中小企業等協同組合法、協同組合による金融事業に関する法律、船主相互保険組合法、地方税法、証券投資信託及び証券投資法人に関する法律、信用金庫法、長期信用銀行法、貸付信託法、中小漁業融資保証法、信用保証協会法、労働金庫法、自動車損害賠償保障法、農業信用保証保険法、地震保険に関する法律、登録免許税法、金融機関の合併及び転換に関する法律、外国証券業者に関する法律、農村地域工業等導入促進法、農水産業協同組合貯金保険法、銀行法、貸金業の規制等に関する法律、有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律、抵当証券業の規制等に関する法律、金融先物取引法、前払式証票の規制等に関する法律、商品投資に係る事業の規制に関する法律、国際的な協力の下に規制薬物に係る不正行為を助長する行為等の防止を図るための麻薬及び向精神薬取締法等の特例等に関する法律、特定債権等に係る事業の規制に関する法律、金融制度及び証券取引制度の改革のための関係法律の整備等に関する法律、協同組織金融機関の優先出資に関する法律、不動産特定共同事業法、保険業法、金融機関等の更生手続の特例等に関する法律、農林中央金庫と信用農業協同組合連合会との合併等に関する法律、日本銀行法、銀行持株会社の創設のための銀行等に係る合併手続の特例等に関する法律、特定目的会社による特定資産の流動化に関する法律又は金融システム改革のための関係法律の整備等に関する法律（以下「新担保附社債信託法等」という。）の相当規定に基づいて、金融再生委員会その他の相当の国の機関がした免許、認可、承認、指定その他の処分又は通知その他の行為とみなす。この法律の施行の際現に旧担保附社債信託法等の規定により内閣総理大臣その他の他の国の機関に対してされている申請、届出その他の行為は、新担保附社債信託法等の相当規定に基づいて、金融

再生委員会その他の相当の国の機関に対してされた申請、届出その他の行為とみなす。

第三条 この去罪の施行の基準は、新規保険料の支拂いを有する日程をもつて、新規保険料の支拂いを有するものとする。

(政令への委任) 第五条 前三条に定めるもののほか、この法律の施行に関する必要な経過措置は、政令で定める。

附 則（平成一年三月三一日法律第一九号）抄
（施行期日）

第一条 この法律は平成十一年七月一日から施行する。
附則 (平成一年三月三一日法律第二〇号)
(施行期日)
抄

第一条 本法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第十二条から第四十九条までの規定は、公布の日から起算して九月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第十五条から第三十四条までの規定は、平成十一年十月一日から施行する。

（施行期日）平成二年五月四日法律第四号抄
（附則）（平成二年五月四日法律第四号）
（第一条）去聿は、平成十二年一月一日から施行する。こゝ、次の各号に属する見定は、当該各号に定める日から施行する。

第一條 この法律は、昭和二年一月一日から施行する。ただし、この名号における「大日本」は、三語名号に定むる日本から施行する。

力を生ずる日
附 則（平成一年五月一日法律第四八号）抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十二年一月一日から施行する。
附則(立式一月一日去律旨申シテ)少

(施行期日) 平成二年五月一日(法律第四十九号) 批

（施行期日）
附 則
（平成二年五月二八日法律第五六号）抄

第一条 この法律は、平成十一年十月一日から施行する。
附則 (平成十一年六月一日法律第七〇号) 抄
(直了附則)

第一条 〔施行期日〕この法律は、平成十一年十月一日から施行する。

(登録免許税法の一部改正に伴う経過措置)

第二十六条 施行日前に行われた旧農用地整備公団法第十九条第一項第一号、第二号又は第四号に規定する事業の施行のため必要な土地又は建物に関する登記に係る登録免許税については、なお従前の例による。

2 新法附則第十三条第一項の業務のうち旧農用地整備公団法第十九条第一項第一号、第二号又は第四号に規定する事業の施行のため必要な土地又は建物に関する登記についての前条の規定による改正後の登録免許税法第五条第六号の規定の適用については、同号中「土地改良事業」とあるのは、「土地改良事業、緑資源公団法（昭和三十一年法律第八十五号）附則第十三条第一項に規定する業務のうち旧農用地整備公団法（昭和四十九年法律第四十三号）第十九条第一項第一号、第二号若しくは第四号（業務の範囲）に規定する事業」とする。

附 則 (平成一一年六月一一日法律第七一号) 抄

第一条 この法律は、平成十二年十月一日から施行する。

附 則 (平成一一年六月一一日法律第七二号) 抄

第一条 この法律は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定める日から施行する。

一 略

二 第一条、第二条、第七十二条、第七十六条の二、第七十七条、第一百条から第二百二条まで及び第百四条から第百七条までの改正規定、同条の次に二条を加える改正規定、第一百八条から第二百十一条の二まで、第二百十二条及び第二百十三条の改正規定、同条の次に一条を加える改正規定、第二百四十四条から第二百二十五条まで、第二百二十九条、第二百三十六条、第二百五十条及び第二百五十五条から第二百五十七条の二までの改正規定、同条を第二百五十七条の三とし、第二百五十七条の次に一条を加える改正規定、第二百六十条の改正規定並びに附則第八条から第二十二条まで、第二百六条、第二百八条、第二百九条、第二十条（登録免許税法（昭和四十二年法律第三十五号）別表第一第四十一号の改正規定に限る。）及び第二十二条から第二十三条までの規定 平成十二年二月一日

三 第二十四条、第二十五条及び別表の改正規定並びに次条から附則第六条まで及び附則第二十条（登録免許税法別表第一第二十三号の改正規定に限る。）の規定 平成十二年九月一日

附 則 (平成一一年六月一一日法律第七三号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第十七条から第十九条まで及び第二十一条から第六十六条までの規定は、平成十一年十月一日から施行する。

附 則 (平成一一年六月一六日法律第七六号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第十七条から第七十二条までの規定は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (平成一一年七月一六日法律第八七号) 抄

第一条 この法律は、平成十二年四月一日から施行する。

(検討)

第二百五十条 新地方自治法第二条第九項第一号に規定する第一号法定受託事務については、できる限り新たに設けることのないようになるとともに、新地方自治法別表第一に掲げるもの及び新地方自治法に基づく政令に示すものについては、地方分権を推進する観点から検討を加え、適宜、適切な見直しを行うものとする。

第二百五十二条 政府は、地方公共団体が事務及び事業を自主的かつ自立的に執行できるよう、国と地方公共団体との役割分担に応じた地方税財源の充実確保の方途について、経済情勢の推移等を勘案しつつ検討し、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。

附 則 (平成一一年七月一六日法律第一〇四号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、内閣法の一部を改正する法律（平成十一年法律第八十八号）の施行の日から施行する。

第四条 (政令への委任)
前二条に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な事項は、政令で定める。

附 則 (平成一一年七月三〇日法律第一一七号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (平成一一年一二月二二日法律第一六〇号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律（第二条及び第三条を除く。）は、平成十三年一月六日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第九百九十五条（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の一部を改正する法律附則の改正規定に係る部分に限る。）、第二百三十五条、第二百三十六条、第二百二十四条第一項、第二百三十六条第二項及び第二百四十四条の規定 公布の日

附 則 (平成一一年三月三一日法律第二〇号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十四年四月一日から施行する。

附 則 (平成一二年四月七日法律第三八号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十三年一月六日から施行する。

附 則 (平成一二年五月一七日法律第六七号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (平成一二年五月二六日法律第四九号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十三年一月六日から施行する。

附 則 (平成一二年五月一七日法律第六七号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十三年一月六日から施行する。

附 則 (平成一二年五月三一日法律第九六号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十四年三月三十一日までの間ににおいて政令で定める日から施行する。

附 則 (平成一二年五月三一日法律第九六号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十二年十二月一日（以下「施行日」という。）から施行する。

(処分等の効力)

第四十九条 この法律（附則第一条各号に掲げる規定にあっては、当該規定）の施行前に改正前のそれぞれの法律の規定によつてした処分、手続その他の行為であつて、改正後のそれぞれの法律の規定によつてしたものとみなす。

規定に相当の規定があるものは、この附則に別段の定めがあるものを除き、改正後のそれぞれの法律の相当の規定によつてしたものとみなす。

（その他の経過措置の政令への委任）

第五十一条 附則第二条から第十二条まで及び前条に定めるもののほか、この法律の施行に際し必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 (平成一二年五月三一日法律第九七号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十二年五月三一日（以下「施行日」という。）から施行する。

(処分等の効力)

第六十四条 この法律（附則第一条ただし書の規定にあっては、当該規定）の施行前に改正前のそれぞれの法律（これに基づく命令を含む。以下この条において同じ。）の規定によつてした処分、手続その他の行為であつて、改正後のそれぞれの法律の規定に相当の規定があるものは、この附則に別段の定めがあるものを除き、改正後のそれぞれの法律の相当の規定によつてしたものとみなす。

（その他の経過措置の政令への委任）

第六十七条 この附則に規定するものほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 (平成一二年六月七日法律第一一一号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。

附 則 (平成一二年六月七日法律第一一一号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 略

二 第三条、第四条、第五章（第三十九条並びに第五十六条第一項第三号及び第四号並びに第二項第一号を除く。）、第六章、第八十九条第六号、第九十条第四号及び第五号並びに第九十一条から第九十四条まで並びに附則第六条から第八条まで、第十一条及び第十三条から第十五回までの規定

（平成一二年一月二九日法律第一三一号）抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十三年十月一日から施行する。

附 則 (平成一二年一二月八日法律第一四九号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して九月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (平成一三年三月三〇日法律第六号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十三年三月三十一日から施行する。ただし、次に掲げる規定は、同年四月一日から施行する。
一及び二 略

三 第四条から第十条までの規定並びに附則第十九条、第二十条、第二十六条、第二十七条及び第二十八条（会社更生法（昭和二十七年法律第百七十二号）第一百六十九条第三項に係る部分を除く。）の規定

(政令への委任)

第二十三条 附則第二条から前条までに定めるもののほか、この法律の規定の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十四年一月一日から施行する。

附 則 (平成一三年六月六日法律第三九号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十四年一月一日から施行する。

附 則 (平成一三年六月八日法律第四二号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日（以下「施行日」という。）から施行する。

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (平成一三年六月一五日法律第五〇号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十四年四月一日から施行する。

第三十八条 この法律は、平成十四年四月一日から施行する。

附 則 (平成一三年六月二〇日法律第五五号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十四年四月一日から施行する。

附 則 (平成一三年六月二九日法律第八五号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (平成一三年六月二九日法律第八七号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十四年四月一日から施行する。

附 則 (平成一三年六月二九日法律第九四号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十四年十月一日から施行する。

附 則 (平成一三年七月四日法律第一〇一号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十四年四月一日から施行する。

附 則 (平成一三年一月九日法律第一一七号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日（以下「施行日」という。）から施行する。

附 則 (平成一三年一月二八日法律第一二九号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十四年四月一日から施行する。

附 則 (平成一三年一二月一二日法律第一五三号) 抄

1 この法律は、平成十四年四月一日から施行する。

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(処分、手続等に関する経過措置)

第四十二条 この法律の施行前に改正前のそれぞれの法律（これに基づく命令を含む。以下この条において同じ。）の規定によつてした処分、手続その他の行為であつて、改正後のそれぞれの法律の規定に相当の規定があるものは、この附則に別段の定めがあるものを除き、改正後のそれぞれの法律の相当の規定によつてしたものとみなす。
(経過措置の政令への委任)

第四十四条 この附則に規定するものほか、この法律の施行に関する必要な経過措置は、政令で定める。

附則 (平成一四年五月七日法律第三三三号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十五年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第三条並びに附則第七条、第八条、第十一条（登録免許税法（昭和四十二年法律第三十五号）別表第一第二十三号（三）の改正規定に限る。）、第十二条及び第十三条（中央省庁等改革関係法施行法（平成十一年法律第六百六十号）第千三百八十九条の改正規定に限る。）の規定 平成十五年八月一日

附則 (平成一四年五月一〇日法律第三九号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して九月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則 (平成一四年五月二九日法律第四五号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則 (平成一四年六月七日法律第六〇号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則 (平成一四年七月一六日法律第九三号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則 (平成一四年七月三一日法律第九八号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して三年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則 (平成一四年七月三一日法律第一〇〇号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公社法の施行の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第一条（第二号に係る部分に限る。）、第六条並びに附則第六条、第七条、第九条（及び第六条の規定による改正後の石油公团法第十九条第一号に掲げる公团所有資産の処分の業務）に係る部分に限る。）、第十六条（金属鉱業事業團に係る部分に限る。）及び第十八条（石油及びエネルギー需給構造高度化対策特別会計法附則に一項を加える改正規定を除く。）から第二十一条までの規定、附則第二十二条、第二十三条及び第二十五条から第二十七条までの規定（これらの規定中金属鉱業事業團に係る部分に限る。）並びに附則第二十八条及び第三十条（金属鉱業事業團に係る部分に限る。）の規定 公布の日から起算して一年九月を超えない範囲内において政令で定める日

附則 (平成一四年七月三一日法律第一〇〇号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、民間事業者による信書の送達に関する法律（平成十四年法律第九十九号）の施行の日から施行する。

第一条 (第一章第一節（別表第一から別表第四までを含む。）並びに附則第二十八条第二項、第三十三条第二項及び第三項並びに第三十九条の規定 公布の日
(その他の経過措置の政令への委任)

第三十九条 この法律に規定するもののほか、公社法及びこの法律の施行に関する必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

附則 (平成一四年八月二日法律第一〇二号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十四年十月一日から施行する。

附則 (平成一四年八月二日法律第一〇三号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十四年十月一日から施行する。

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して九月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、第九条及び附則第八条から第十九条までの規定は、公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (平成一四年一二月一三日法律第一五二号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律(平成十四年法律第二百五十一号)の施行の日から施行する。

(登録免許税に関する経過措置)

第三条 公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日までの間における納付すべき登録免許税についての第四十六条の規定による改正後の登録免許税法(以下この条において「新登録免許税法」という)第二十四条の二の規定の適用については、同条第一項中「第二十一条から前条までに定める方法によるほか、財務省令で定める方法により国に納付することができる」とあるのは、「第二十一条から前条までに定める方法により国に納付しなければならない」とし、新登録免許税法第二十六条第四項並びに第三十一条第六項及び第七項の規定は、適用しない。(その他の経過措置の政令への委任)

第五条 前三条に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 (平成一四年一二月一三日法律第一五七号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十五年十月一日から施行する。

附 則 (平成一五年三月三一日法律第八号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十五年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一から三まで 略

四 次に掲げる規定 平成十五年十月一日

イから二まで 略

六 第五条中登録免許税法第五条第六号の改正規定(雇用・能力開発機構の項を削る部分、帝都高速度交通営団の項を削る部分、「として」を「のうち」に改める部分及び労働福祉事業団の項を削る部分を除く)及び同法別表第三の改正規定(十九の項を改める部分及び二十三の項の次に一項を加える部分を除く)並びに附則第二十四条第二項の規定

五及び六 略

七 次に掲げる規定 平成十六年三月一日

イ及びロ 略

八 次に掲げる規定 平成十六年四月一日

イ及びロ 略

ハ 第五条中登録免許税法別表第二の改正規定(帝都高速度交通営団の項を削る部分及び労働福祉事業団の項を削る部分に限る。)

九 次に掲げる規定 中小企業総合事業団法及び機械類信用保険法の廃止等に関する法律(平成十四年法律第二百四十六号)の施行の日

イ及びロ 略

ハ 第五条中登録免許税法別表第三の改正規定(十九の項を改める部分に限る。)

(登録免許税法の一部改正に伴う経過措置)

第二十四条 第五条の規定による改正後の登録免許税法(以下この条において「新登録免許税法」という)第五条第六号の規定は、平成十五年十月一日以後に受ける登記に係る登録免許税について適用する。

第二独立行政法人緑資源機構法(平成十四年法律第二百三十号)附則第八条第一項に規定する業務のうち旧農用地整備公団法(昭和四十九年法律第四十三号)第十九条第一項第一号又は第二号に規定する事業の施行のため必要な土地又は建物に関する登記についての新登録免許税法第五条第六号の規定の適用については、同号中「事業又は」とあるのは、「事業、同法附則第八条第一項(業務の特例)に規定する業務のうち旧農用地整備公団法(昭和四十九年法律第四十三号)第十九条第一項第一号、第二号又は第四号(業務の範囲)に規定する事業又は」とする。

第三新登録免許税法第十七条の規定は、施行日以後に新登録免許税法別表第一第一号(九)イからホまでに掲げる仮登記を受けた者が、同号に掲げる不動産について、当該仮登記に基づき施行日以後に受ける所有権の保存若しくは移転の登記、地上権、永小作権、賃借権若しくは採石権の設定、転貸若しくは移転の登記、信託の登記又は相続財産の分離の登記に係る登録免許税について適用し、施行日前に第五条の規定による改正前の登録免許税法(以下この条において「旧登録免許税法」という)別表第一第一号(九)イに掲げる仮登記を受けた者が、同号に規定する不動産について、当該仮登記に基づき施行日前に受けた所有権の移転の登記に係る登録免許税については、なお従前の例による。

第四 施行日前に旧登録免許税法別表第一第一号(九)イに掲げる仮登記を受けた者が、同号に規定する不動産について、当該仮登記に基づき施行日以後に所有権の移転の登記を受ける場合における新登録免許税法第十七条の規定の適用については、同条中「千分の二」とあり、及び「千分の十」とあるのは、「千分の四」とする。

第五 施行日前に旧登録免許税法別表第一第一号(九)ロに掲げる仮登記を受けた者が、同号に掲げる不動産について、当該仮登記に基づき施行日以後に所有権の保存の登記、地上権、永小作権、賃借権若しくは採石権の設定、転貸若しくは移転の登記、信託の登記又は相続財産の分離の登記を受ける場合における登録免許税については、新登録免許税法第十七条の規定は、適用しない。

6 新登録免許税法第十七条の二の規定は、施行日以後に事業協同組合、企業組合若しくは協同組合又は農事組合法人が受ける組織変更による株式会社又は有限会社の設立の登記に係る登録免許税について適用し、施行日前に事業協同組合、企業組合若しくは協同組合又は農事組合法人が受けた組織変更による株式会社又は有限会社の設立の登記に係る登録免許税については、なお従前の例による。

7 新登録免許税法別表第一第一号の規定は、施行日以後に受けた登記に係る登録免許税について適用し、施行日前に受けた登記に係る登録免許税については、なお従前の例による。

(政令への委任)

新登録免許税法別表第一第一号の規定は、施行日以後に受けた登記に係る登録免許税については、なお従前の例による。

附 則

(平成一五年五月一六日法律第四三号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第十八条から第二十七条まで及び第二十九条から第三十六条までの規定は、平成十六年四月一日から施行する。

附 則

(平成一五年五月三〇日法律第五一号) 抄

第一条 この法律は、平成十五年十月一日(以下「施行日」という。)から施行する。

附 則

(平成一五年五月三〇日法律第五四号) 抄

第一条 この法律は、平成十六年四月一日から施行する。

附 則

(平成一五年六月六日法律第六七号) 抄

第一条 この法律に規定するもののほか、この法律の施行に伴い必要な経過措置は、政令で定める。

附 則

(平成一五年六月六日法律第六七号) 抄

第一条 この法律は、平成十六年四月一日から施行する。ただし、附則第二十八条の規定は公布の日から、第一条、次条、附則第三条、附則第五条、附則第六条、附則第八条から第十条まで、附則第三十条、附則第三十二条、附則第三十六条から第四十五条まで、附則第四十七条、附則第五十条、附則第五十二条及び附則第五十三条(金融庁設置法(平成十年法律第百三十号)第四条第十八条の改正規定に限る。)の規定は平成十八年一月一日から施行する。

第四十三条 第二条の規定の施行の日以後に附則第二条の規定によりなおその効力を有することとされる第二条の規定による改正前の公認会計士法第十七条の規定による会計士補の登録を受ける者については、前条の規定による改正前の登録免許税法別表第一第二十三号(四)の規定は、なおその効力を有する。この場合において、同号(四)中「公認会計士法(昭和二十三年法律第百三号)第十七条第一項」とあるのは、「公認会計士法の一部を改正する法律(平成十五年法律第六十七号)附則第二条の規定によりなおその効力を有することとされる同法第二条の規定による改正前の公認会計士法(昭和二十三年法律第百三号)第十七条」とする。

(政令への委任)
第五十五条 附則第二条から第三十条まで、附則第三十三条、附則第三十八条、附則第四十条、附則第四十三条、附則第四十五条及び前条に定めるもののほか、この法律の施行に係る登記に係る登録免許税については、前条の規定による改正前の登録免許税法別表第一第二十三号(四)の規定は、なおその効力を有する。この場合において、同号(四)中「公認会計士法(昭和二十三年法律第百三号)第十七条第一項」とあるのは、「公認会計士法の一部を改正する法律(平成十五年法律第六十七号)附則第二条の規定によりなおその効力を有することとされる同法第二条の規定による改正前の公認会計士法(昭和二十三年法律第百三号)第十七条」とする。

第一条 この法律は、平成十五年十二月一日から施行する。

附 則 (平成一五年六月一八日法律第九四号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十六年七月一日から施行する。

附 則 (平成一五年六月一八日法律第九四号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十六年七月一日から施行する。

附 則 (平成一五年六月一八日法律第九四号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第十二条、第十五条から第十八条まで及び第二十一条から第二十三条までの規定は、平成十六年四月一日から施行する。

附 則 (平成一五年六月二〇日法律第一〇〇号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十六年七月一日から施行する。

附 則 (平成一五年七月一六日法律第一一七号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十六年四月一日から施行する。

附 則 (平成一五年七月一六日法律第一一九号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十六年四月一日から施行する。

附 則 (平成一五年七月一六日法律第一一九号) 抄

第一条 この法律は、地方独立行政法人法(平成十五年法律第百十八号)の施行の日から施行する。

(政令への委任)
第三十九条 附則第二条から第十三条まで、附則第十五条、附則第十六条及び附則第十九条に定めるもののほか、管理運用法人の設立に伴い必要な経過措置その他この法律の施行に關し必要な経過措置は、政令で定める。

(施行期日) 附則 (平成一六年六月一八日法律第一二四号) 抄

(施行期日) 附則 (平成一六年一ニ月一八日法律第一四七号) 抄

(施行期日) 附則 (平成一七年三月三一日法律第二一号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

第一条 この法律は、平成十七年七月一日から施行する。

第一条 この法律は、平成十七年七月一日から施行する。

(施行期日)

二 次に掲げる規定 平成十七年十月一日

イ 第四条中登録免許税法別表第一第三十四号の三の次に次のように加える改正規定 (同表第三十四号の六(二)に掲げる登録に係る部分に限る。)

三 略

四 第四条中登録免許税法別表第一第四十六号の次に次のように加える改正規定 (同表第四十六号の三に係る部分に限る。)

五 第四条中登録免許税法別表第一第八号の次に次のように加える改正規定 (同表第八号の二(一)に掲げる登記に係る部分並びに同号(三)及び(四)に掲げる登記に係る部分のうち同号(一)に掲げる登記に係る部分に限る。)

六 次に掲げる規定 平成十八年四月一日

イ 第四条中登録免許税法別表第一第八号の次に次のように加える改正規定 (同表第八号の四に係る部分に限る。)

八号) 附則第二条第三項の改正規定

七 略

八 次に掲げる規定 債権譲渡の対抗要件に関する民法の特例等に関する法律の一部を改正する法律の施行の日

イ 第四条中登録免許税法別表第一第八号の次に次のように加える改正規定 (同表第八号の二(一)に掲げる登記に係る部分並びに同号(三)及び(四)に掲げる登記に係る部分のうち同号(一)に掲げる登記に係る部分に限る。)

九 第四条中登録免許税法別表第一第二十九号の二の次に次のように加える改正規定 放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律の一部を改正する法律 (平成十六年法律第六十九号) の施行の日

十 第四条中登録免許税法別表第一第二十九号の四の次に次のように加える改正規定 (同表第二十九号の十に係る部分に限る。) 薬事法及び採血及び供血あつせん業取締法の一部を改正する法律 (平成十四年法律第九十六号) の施行の日

十一 第四条中登録免許税法別表第一第三十一号の改正規定及び同号の次に次のように加える改正規定 商品取引所法の一部を改正する法律 (平成十六年法律第四十三号) の施行の日

十二 第四条中登録免許税法別表第一第三十三号の二の改正規定 (同号(二)に掲げる揮発油等の品質の確保等に関する法律 (昭和五十一年法律第八十八号) 第十七条の十二第一項において準用する同法第十七条の三第二項の登録に係る部分及び同法第十七条の十二第二項又は第三項において準用する同法第十七条の四第三項の登録に係る部分に限る。) 海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律等の一部を改正する法律 (平成十六年法律第三十六号) の施行の日

十三 第四条中登録免許税法別表第一第三十四号の三の次に次のように加える改正規定 (同表第三十四号の七に係る部分に限る。) 公益法人に係る改革を推進するための経済産業省関係法律の整備に関する法律 (平成十五年法律第七十六号) 附則第一条第三号に定める日

十四 削除

十五 第四条中登録免許税法別表第一第四十一号の二の次に次のように加える改正規定 自動車関係手続における電子情報処理組織の活用のための道路運送車両法等の一部を改正する法律 (平成十六年法律第五十五号) 附則第一条ただし書に規定する日

十六 第四条中登録免許税法別表第一第四十三号の改正規定 旅行業法の一部を改正する法律 (平成十六年法律第七十二号) の施行の日

十七 第四条中登録免許税法別表第一第四十七号の二及び第四十八号の改正規定 (同号(二)に掲げる登記に係る部分に限る。) 電波法及び有線電気通信法の一部を改正する法律 (平成十六年法律第四十七号) 附則第一条第三号に定める日

十八 第四条中登録免許税法別表第一に次のように加える改正規定 (同表第五十四号に係る部分に限る。) 警備業法の一部を改正する法律 (平成十六年法律第五十号) の施行の日

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成一七年五月六日法律第四号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成一七年五月二〇日法律第四五号) 抄

第一条 この法律は、平成十七年十一月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

第一条 第二条並びに次条から附則第四条まで及び附則第八条から第十三条までの規定 公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日

(施行期日)
附 則 (平成一七年五月二〇日法律第四六号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成一七年五月二五日法律第五〇号) 抄

第一条 この法律は、平成十七年十月一日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成一七年六月一七日法律第六二号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して九月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成一七年六月二二日法律第六七号) 抄

第一条 この法律は、平成十八年三月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成一七年六月二九日法律第七四号) 抄

第一条 この法律は、平成十九年四月一日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成一七年七月二二日法律第八五号) 抄

第一条 この法律は、平成十九年四月一日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成一七年七月六日法律第八二号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成一七年七月六日法律第八二号) 抄

第一条 この法律は、平成十九年四月一日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成一七年七月二二日法律第八五号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成一七年七月二二日法律第八五号) 抄

第一条 この法律は、平成十九年四月一日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成一七年七月二二日法律第八五号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成一七年七月二二日法律第八五号) 抄

第一条 この法律は、登録免許税法の一部改正に伴う経過措置

第八条 施行日前に受けた附則第二条の規定による廃止前の中小企業流通業務効率化促進法第十二条第一項の規定により第一種貨物利用運送事業の登録を受けたものとみなされる場合における同法

第四条 第一条の規定による効率化計画の認定に係る当該第一種貨物利用運送事業の登録に係る登録免許税については、なお従前の例による。

附 則 (平成一七年七月二六日法律第八七号) 抄

この法律は、会社法の施行の日から施行する。

(施行期日)
附 則 (平成一七年一〇月二一日法律第一〇一号) 抄

第一条 この法律は、郵政民営化法の施行の日から施行する。

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十八年十月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 略

二 第一条中港湾法第五十六条の二の改正規定、同条の次に十八条を加える改正規定並びに同法第五十六条の三第二項及び第四項並びに第六十一条から第六十三条までの改正規定並びに第三条の規定並びに附則第六条、第八条、第九条、第十条第一項、第十二条、第十七条、第十九条及び第二十条の規定 平成十九年四月一日

附 則 (平成一八年五月一九日法律第四〇号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して十月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一及び二 略

三 第二条中道路運送車両法の目次の改正規定、同法第二十二条の見出しの改正規定及び同条に四項を加える改正規定、同法第九十六条の四第一項の改正規定、同法第六章の二の次に一章を加える改正規定、同法第一百条第一項の改正規定、同法第一百一条第一項及び第二項の改正規定(同条第一項(第三号)の改正規定を除く。)、同法第七条第七号の改正規定、同法第一百十条第一項の改正規定(同項第三号中「第九十六条の九」の下に「(第九十六条の十九において準用する場合を含む。)」を加える部分及び同項第十号に係る部分に限る。)並びに同法第一百十三条の改正規定並びに附則第十六条及び第二十六条(登録免許税法(昭和四十二年法律第三十五号)別表第一第一百二十四号の改正規定に限る。)の規定 公布の日から起算して一年六月を超えない範囲内において政令で定める日

附 則 (平成一八年六月七日法律第五四号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (平成一八年六月一四日法律第六六号) 抄

この法律は、平成十八年証券取引法改正法の施行の日から施行する。

附 則 (平成一八年六月二二日法律第八〇号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十九年四月一日から施行する。

附 則 (平成一八年六月二二日法律第八三号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十八年十月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、それぞれ当該各号に定める日から施行する。

一 第十条並びに附則第四条、第三十三条から第三十六条まで、第五十二条第一項及び第二項、第一百五十五条並びに第百三十二条から第百三十三条までの規定 公布の日

二から四まで 略

五 第四条、第八条及び第二十五条並びに附則第十六条、第十七条、第十八条第一項及び第二項、第十九条から第三十一条まで、第八十条、第八十二条、第八十八条、第九十二条、第一百八十八条、第一百八十九条、第一百九十条、第一百九十二条、第一百九十三条、第一百九十四条、第一百九十五条、第一百九十六条、第一百九十七条、第一百九十八条、第一百九十九条の規定 平成二十年十月一日

(处分 手続等に関する経過措置)

第一百三十二条 この法律の施行前に改正前のそれぞれの法律(これに基づく命令を含む。以下この条において同じ。)の規定によつてした処分、手続その他の行為であつて、改正後のそれぞれの法律の規定に相当の規定があるものは、この附則に別段の定めがあるものを除き、改正後のそれぞれの法律の相当の規定によつてしたものとみなす。

2 この法律の施行前に改正前のそれぞれの法律の規定により届出その他の手續をしなければならない事項で、この法律の施行の日前にその手續がされていないものについては、この法律及びこれに基づく命令に別段の定めがあるものを除き、これを、改正後のそれぞれの法律中の相当の規定により手續がされていないものとみなして、改正後のそれぞれの法律の規定を適用する。(その他の経過措置の政令への委任)

第一百三十三条 附則第三条から前条までに規定するもののほか、この法律の施行に伴い必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 (平成一八年一二月一〇日法律第一一四号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (平成一八年一二月一〇日法律第一一五号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日(以下「施行日」という。)から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一及び二 略

三 第三条の規定並びに附則第十六条、第四十条、第四十二条及び第六十五条の規定 施行日から起算して一年六月を超えない範囲内において政令で定める日

附 則 (平成一九年三月三〇日法律第六号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十九年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一から六まで 略

七 次に掲げる規定 信託法（平成十八年法律第百八号）の施行の日

イから二まで 略

ホ 第五条中登録免許税法第十四条第一項の改正規定、同法別表第一第三号の改正規定、同表第二十八号の次に次のように加える改正規定、同表第三十五号（九）の改正規定、同表第三十八号

の改正規定及び同表第三十九号の改正規定

（登録免許税法の一部改正に伴う経過措置）

第五十一条 第五条の規定による改正後の登録免許税法（第十四条第一項、別表第一第三号、同表第二十八号の二、同表第三十五号（九）及び同表第三十八号を除く。）の規定は、施行日以後に受け

る登記、登録又は認定に係る登録免許税について適用し、施行日前に受けた登記、登録又は認定に係る登録免許税については、なお従前の例による。

（その他の経過措置の政令への委任）

第一百五十八条 この附則に規定するものほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 （平成一九年五月一日法律第三六号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、第一条中産業活力再生特別措置法第二条に五項を加える改正規定（同条第二十項及び第二十一項に係る部分に限る。）及び同法第四章中第三十二条を第五十七条とし、同条の次に一節を加える改正規定（同章中第三十三条を第五十七条とする部分を除く。）並びに附則第九条及び第十二条の規定は、公布の日から起算して一年六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 （平成一九年五月二五日法律第五八号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、平成二十年十月一日から施行する。

（政令への委任）

第九条 附則第二条から前条までに定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

（調整規定）

第十条 この法律及び株式会社商工組合中央金庫法（平成十九年法律第七十四号）、株式会社日本政策投資銀行法（平成十九年法律第八十五号）又は地方公営企業等金融機関法（平成十九年法律第六十四号）に同一の法律の規定についての改正規定がある場合において、当該改正規定が同一の日に施行されるときは、当該法律の規定は、株式会社商工組合中央金庫法、株式会社日本政策投資銀行法又は地方公営企業等金融機関法によつて改正され、次いでこの法律によつて改正されるものとする。

附 則 （平成一九年五月二五日法律第五九号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 （平成一九年五月三〇日法律第六四号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、第四十六条及び第四十七条並びに附則第六条、第七条第四項、第五項及び第七項、同条第八項（同条第七項に関する部分に限る。）、第八条、第九条第六項、第七項、第十一項及び第十二項、第十三条第五項、第十六条、第二十六条から第二十九条まで、第三十一条から第三十四条まで、第三十六条から第四十一条まで並びに第四十七条の規定は、平成二十年十月一日から施行する。

附 則 （平成一九年六月一三日法律第八三号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 （平成一九年六月一三日法律第八四号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 （平成一九年六月一三日法律第八五号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一及び二 略

三 附 則 第二十六条から第六十条まで及び第六十二条から第六十五条までの規定 平成二十年十月一日

附 則 （平成一九年六月一五日法律第八七号）抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
(施行期日)

(施行期日)

（平成一九年六月二七日法律第九九号）
抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日（以下「施行日」という。）から施行する。

第二十九条 附則第一条から第十九条まで及び前条に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

(施行期日) 第二条 本法律は、公布の日から起算して十日を経過の日から

附 則（平成十九年一二月五日法律第一二五号）抄

第一条 この法律は、平成二十九年四月一日から施行する。
(施行期日)

六 第三条の二の規定並びに附則第七条、第十条及び第十二条の規定 令和四年四月一日

(施行期日) 附則(平成九年二月八日)

第一条 この法律は、平成二十年一月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

第三章の次に「章を加える改正規定」
での規定 平成二十年四月一日

(施行期日) 附則(平成二九年二月八日法律第一三六号)抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日（以下「施行日」という。）から施行する。

(施行期日) 阿見金(平成二〇年三月三一日法律第八号)

第一条 この法律は、平成二十年四月一日から施行する。
（登録免許税法の一部改正に伴う経過措置）

第二十五条 新研究所法附則第九条第一項に

第六号中に「土地改良事業」とあるのは、「土地改良事業」の立派な行政法人森林総合研究所法(平成廿一年法律第九百八十九号)附則第九条第一項(業務の特例)に規定する業務のうち独立行政法人綠資

源機構法を廃止する法律(平成二十年法律第八号)による廃止前の独立行政法人緑資源機構法(平成十四年法律第百三十号)第十一條第一項第七号イ若しくはロ若しくは第八号(業務の範囲)に規定する事業若しくは独立行政法人森林総合研究所所附則第十一條第一項(業務の特例)に規定する業務のうち森林開発公團法の一部を改正する法律(平成十一年法律第七十号)附則第八条の規定による廃止前の農用地整備公團法(昭和四十九年法律第四十三号)第十九條第一項第一号若しくは第二号(業務の範囲)に規定する事業とする。

^(原書第3回)の法律は、平成二十年四月一日から施行する。ただし、次条の規定は、所得税法等の一部を改正する法律(平成二十年法律第二十三号)の公布の日から施行する。

(施行期日) 平成二〇年三月一日

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
（四）附則
（平成一〇年四月三〇日法律第二二三号）抄

第一条 この法律は、平成二十年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

五 次に掲げる規定
一般社団法人及び一般財団法人に関する法律(平成十八年法律第四十八号)の施行の日(平成二十一年十一月一日)

イから二まで 略

ホ 第五条中登録免許税法別表第二の改正規定
 ホ 第五条中登録免許税法別表第三の二十五の項に掲げる法人であつて整備法第四十条第一項の規定により一般社団法人又は一般財団法人として存続するもののうち、
 ホ の項の改正規定及び同表の二十五の項を削る改正規定並びに附則第二十七条の規定
 ホ 次に掲げる規定 日本金機構法（平成十九年法律第九号）の施行の日

ハ 第五条中登録免許税法別表第二の改正規定

（登録免許税法の一部改正に伴う経過措置）

第二十七条 第五条の規定による改正前の登録免許税法別表第三の二十五の項に掲げる法人であつて整備法第四十条第一項の規定により一般社団法人又は一般財団法人として存続するもののうち、
 ホ 整備法第六条第一項（整備法第二十一条第一項において読み替えて準用する場合を含む。）の登記をしていないものは、第五条の規定による改正後の登録免許税法（以下この条において「新登
 ホ 錄免許税法」という。別表第三の五の二の項に掲げる法人とみなして、新登録免許税法その他登録免許税に関する法令の規定を適用する。）

2 次に掲げる登記等（新登録免許税法第二条に規定する登記等をいう。第五号において同じ。）については、登録免許税を課さない。

一 整備法第三十三条第一項に規定する登記

二 整備法第六条第一項（整備法第二十一条第一項において読み替えて準用する場合を含む。）に規定する登記

三 整備法第二条第一項に規定する旧有限責任中間法人が同項に規定する施行日の属する事業年度の終了後最初に招集される定時社員総会の終結後最初に一般社団法人への名称の変更（整備法第
 ホ 三条第一項ただし書に規定する定款の変更に基づく名称の変更を含む。）を行う場合の登記で次に掲げるもの

イ 一般社団法人及び一般財團法人に関する法律第三百一十二条第二項第二号に掲げる事項の変更の登記並びに同項第四号、第七号及び第九号から第十七号までに掲げる事項（同項第四号に掲げる

ロ 事項にあつては、一般社団法人の存続期間に限る。）の変更の登記（同項第二号に掲げる事項の変更の登記と併せてするものに限る。）

ハ 整備法第二十二条第四項に規定する登記

口 一般社団法人及び一般財團法人に関する法律第三百十二条第二項第一号に掲げる事項の変更の登記

ハ 整備法第三十三条第一項の規定により一般社団法人又は一般財團法人が整備法第四十五条の認可を取り消されて整備法第四十二条第二項に規定する特例民法法人（次号において「特例民法

法人」という。）となる場合における当該一般社団法人又は一般財團法人の解散の登記

五 次に掲げる場合における登記等に係る名義人の名称の変更の登記等

イ 整備法第二十五条第二項に規定する特例無限責任中間法人が整備法第三十二条の規定による手続を終了して一般社団法人となる場合

ロ 特例民法法人が整備法第四十四条の認定を受けて公益社団法人又は公益財團法人となる場合

ハ 特例民法法人が整備法第四十五条の認可を受けて通常の一般社団法人又は一般財團法人となる場合

ニ 前二号に規定する場合のいずれかに該当するとき。

（この法律の公布の日が平成二十年四月一日後となる場合における経過措置）

第一百九条の二 この法律の公布の日が平成二十年四月一日後となる場合における手続を終了して一般社団法人となる場合のこの法律の円滑な施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

（その他の経過措置の政令への委任）

第一百二十条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 （平成二十一年五月二日法律第二六号） 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、平成二十一年十月一日から施行する。

附 則 （平成二十一年五月三〇日法律第四七号） 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、平成二十一年四月一日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
 ホ 月一日から施行する。

附 則 （平成二十一年五月三〇日法律第四八号） 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して九月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 （平成二十一年五月三〇日法律第四九号） 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則
(平成二〇年六月六日法律第五二号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

第一条 この法律は、(平成二〇年六月六日法律第五三号)抄

(施行期日)
附 則 (平成二〇年六月一三日法律第六五号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
(施行期日)

第一条 この法律は、(平成二〇年六月一八日法律第七四号)抄

(施行期日)
附 則 (平成二〇年六月一八日法律第七五号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
(施行期日)

第一条 この法律は、(平成二一年三月三一日法律第一〇号)抄

(施行期日)
附 則 (平成二一年三月三一日法律第一三号) 抄

第一条 この法律は、(平成二一年三月三一日法律第一三号)抄

(施行期日)
附 則 (平成二一年三月三一日法律第一三号) 抄

七 地方税制については、地方分権の推進及び国と地方を通じた社会保険制度の安定財源の確保の観点から、地方消費税の充実を検討するとともに、地方法人課税の在り方を見直すことにより、税源の偏在性が小さく、税収が安定的な地方税体系の構築を進めること。

八 低炭素化を促進する観点から、税制全体のグリーン化（環境への負荷の低減に資するための見直しをいう。）を推進すること。

附 則 **（平成二一年四月三〇日法律第二九号）抄**

第一条 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 **（平成二一年五月一日法律第三三号）抄**

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から施行する。

（登録免許税法の一部改正に伴う経過措置）

第六条 附則第二条第一項の規定によりなおその効力を有することとされる旧特区法第十一条第一項各号に掲げる事務の委託に係る同項の規定による登録については、前条の規定による改正前の登録免許税法別表第一第六十二号の規定は、なおその効力を有する。この場合において、同号中「構造改革特別区域法」とあるのは、「構造改革特別区域法及び競争の導入による公共サービスの改革に関する法律の一部を改正する法律（平成二十一年法律第三十三号）附則第二条第一項（構造改革特別区域法の一部改正に伴う経過措置）」の規定によりなおその効力を有することとされる同法第一条（構造改革特別区域法の一部改正）の規定による改正前の構造改革特別区域法」とする。

（政令への委任）

第七条 この附則に定めるものほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 **（平成二一年六月二十四日法律第五八号）抄**

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

（政令への委任）

第二十条 附則第一条から第五条まで及び前条に定めるものほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 **（平成二一年六月二十四日法律第五九号）抄**

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

（政令への委任）

第三十五条 附則第一条から第五条まで及び前条に規定するものほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

附 則 **（平成二一年六月二十四日法律第六四号）抄**

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日（以下「施行日」という。）から施行する。

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日（以下「施行日」という。）から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 及び二 略

三 第二条並びに附則第四条、第七条第一項及び第二項、第八条（第一項及び第七項を除く。）、第十四条、第十七条第三項及び第四項、第十八条から第二十条まで並びに第二十六条の規定並びに附則第三十二条中住民基本台帳法（昭和四十二年法律第八十一号）別表第一の改正規定（八十の項中「第八十五条第一項の届出、同法」の下に「第九十六条の十九第一項の認可、同条第三項（同法第九十六条の二十五第四項及び第九十六条の三十一第四項において準用する場合を含む。）の届出、同法第九十六条の二十五第一項若しくは第三項ただし書の認可、同法第九十六条の二十八第三項若しくは第九十六条の二十九の届出、同法第九十六条の三十一第一項、」を加える部分に限る。）並びに附則第四十二条の規定 公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 **（平成二一年七月一七日法律第八四号）抄**

（施行期日）

第一条 この法律は、日本国とイスラエルとの間の自由な貿易及び経済上の連携に関する協定の効力発生の日から施行する。

附 則 **（平成二二年五月一〇日法律第三〇号）抄**

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 **（平成二二年五月一九日法律第三二号）抄**

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第一条中金融商品取引法第二条第二十八項の改正規定（「デリバティブ取引その他の」を「若しくはデリバティブ取引（取引の状況及び我が国の資本市場に与える影響その他の事情を勘案し、公益又は投資者保護のため支障を生ずることがないと認められるものとして政令で定める取引を除く。）又はこれらに付随し、若しくは関連する取引として」に改める部分に限る。）及び同法第二百五条の二の三第三項の改正規定、第四条の規定、第五条中信託業法第四十九条第一項及び第二項の改正規定並びに附則第十三条及び第十四条の規定（政令への委任）

第十四条 附則第一条から第五条まで及び前条に定めるもののほか、この法律の施行に関する経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

(施行期日) 附則第一条から第五条まで及び前条に定めるもののほか、この法律の施行に関する経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日) 附則第一条から第五条まで及び前条に定めるもののほか、この法律の施行に関する経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して六年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日) 附則第一条から第五条まで及び前条に定めるもののほか、この法律の施行に関する経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して三年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日) 附則第一条から第五条まで及び前条に定めるもののほか、この法律の施行に関する経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）抄

(附 則) (平成二十三年五月二五日法律第五〇号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(登録免許税法の一部改正に伴う経過措置)

第六条 この法律の施行の日から一部施行日の前日までの間に受ける前条の規定による改正後の登録免許税法別表第一第三十一号(三十)に掲げる認定に係る同号の規定の適用については、同号(三十)中「同法第七十一条の三第一項(特定操縦技能の審査)の操縦技能審査員の認定」とあるのは「航空法の一部を改正する法律(平成二十三年法律第五十号)附則第二条第一項(操縦技能審査員の認定に相当する認定)に規定する相当認定(以下単に「相当認定」という。)」と、同号(三十)カ中「操縦技能審査員の認定」とあるのは「相当認定」とする。

(附 則) (平成二十三年五月二七日法律第五六号) 抄

第一条 この法律は、平成二十三年六月一日から施行する。

(登録免許税法の一部改正に伴う経過措置)

第四十四条 存続共済会が受けける前条の規定による改正前の登録免許税法別表第三の十六の項の第三欄に掲げる登記に係る登録免許税については、なお従前の例による。

(附 則) (平成二三年六月八日法律第六三号) 抄

第一条 この法律は、存続共済会が受けける前条の規定による改正前の登録免許税法別表第三の十六の項の第三欄に掲げる登記に係る登録免許税については、なお従前の例による。

(附 則) (平成二三年六月一五日法律第六七号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(附 則) (平成二三年六月一五日法律第六七号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(附 則) (平成二三年六月一五日法律第六七号) 抄

第一条 この法律は、平成二十三年十月一日から施行する。ただし、第十条の次に一条を加える改正規定、第十二条の改正規定(同条第一項中「国民、民間団体等」を「企業、大学の設置者その他の事業者、国民及びこれらの者の組織する民間の団体(第七項及び第十七条において「民間の団体等」という。)」に改める部分及び同条第七項中「国民、民間団体等」を「民間の団体等」に改める部分を除く。)、第二十条の改正規定、第二十条の次に九条及び節名を加える改正規定(節名を加える部分を除く。)、第二十二条の次に五条を加える改正規定(第二十二条の二及び第二十二条の三を加える部分を除く。)、第二十五条の改正規定及び第二十八条の改正規定並びに附則第三条の規定は、平成二十四年十月一日から施行する。

(附 則) (平成二三年六月二二日法律第七二号) 抄

第一条 この法律は、平成二十四年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第二条(老人福祉法目次の改正規定、同法第四章の二を削る改正規定、同法第四章の三を第四章の二とする改正規定及び同法第四十条第一号の改正規定(「第二十八条の十二第一項若しくはを削る部分に限る。)に限る。)、第四条、第六条及び第七条の規定並びに附則第九条、第十一条、第十五条、第二十二条、第四十一条、第四十七条(東日本大震災に対処するための特別の財政援助及び助成に関する法律(平成二十三年法律第四十号)附則第一条ただし書の改正規定及び同条各号を削る改正規定並びに同法附則第十四条の改正規定に限る。)及び第五十条から第五十二条までの規定

(附 則) (平成二三年六月三〇日法律第八二号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。

(登録免許税法の一部改正に伴う経過措置)

第二十一条 第五条の規定による改正後の登録免許税法の規定は、施行日の翌日以後に受ける登記、登録、特許、免許、許可、認可、認定、指定及び技能証明(以下この条において「登記等」といいう。)に係る登録免許税について適用し、同日前に受けた登記等に係る登録免許税については、なお従前の例による。(その他の経過措置の政令への委任)

第九十三条 この附則に規定するものほか、この法律の施行に關し必要な経過措置は、政令で定める。

(附 則) (平成二三年一一月二日法律第一四号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。

(登録免許税法の一部改正に伴う経過措置)

第三十一条 第五条の規定による改正後の登録免許税法の規定は、施行日の翌日以後に受ける登記、登録、特許、免許、許可、認可、認定、指定及び技能証明(以下この条において「登記等」といいう。)に係る登録免許税について適用し、施行日以前に受けた登記等に係る登録免許税については、なお従前の例による。

(登録免許税法の一部改正に伴う経過措置)

第二十条 附則第一条第三号に掲げる規定の施行の日から発効日の前日までの間に受けた前条の規定による改正後の登録免許税法別表第一第百三十七号の二に掲げる登録に係る同号の規定の適用について、同号中「船員法（昭和二十二年法律第百号）」第百条の二第一項（登録検査機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）とあるのは、「船員法の一部を改正する法律（平成二十四年法律第八十七号）附則第七条第一項（登録検査機関の登録）」の規定による登録」とする。

附 則 (平成二十四年九月一二日法律第八九号) 抄
(施行期日)

第一条 この法律は、平成二十五年一月一日から施行する。

附 則 (平成二四年一月二六日法律第九八号) 抄
(施行期日)

第一条 この法律は、平成二十七年十月一日から施行する。

附 則 (平成二五年三月三〇日法律第五号) 抄
(施行期日)

第一条 この法律は、平成二十五年四月一日から施行する。

(登録免許税法の一一部改正に伴う経過措置)

第十五条 第四条の規定による改正後の登録免許税法（次項において「新登録免許税法」という。）の規定は、施行日以後に受ける登記に係る登録免許税について適用し、施行日前に受けた登記に係る登録免許税については、なお従前の例による。

2 施行日から子ども・子育て支援法及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成二四年法律第六十七号）の施行の日の前日までの間における新登録免許税法別表第三の一の項の第三欄の第三号の規定の適用については、同号中「児童福祉法（昭和二十二年法律第百六十四号）」とあるのは、「児童福祉法」とする。

(政令への委任)
第一百七条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

(検討)
第一百八条 政府は、次に掲げる基本的方向性により、第一号、第三号及び第四号に関連する税制上の措置については平成二十一年度中に、第一号に関連する税制上の措置については平成二十六年度中に財源も含め検討を加え、その結果に基づき、必要な措置を講ずるものとする。

一 大学に対する寄附金その他の寄附金に係る税制上の措置の在り方について、これまで講じられた措置の効果等を踏まえつつ、対象範囲を含め、検討すること。
二 給与所得者の特定支出の控除の特例の在り方について、給与所得者の負担軽減及び実額控除の観点から、これまで講じられた措置の効果等を踏まえつつ、適用判定の基準（所得税法第五十七条の二第一項各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める金額をいう。）及び控除対象の範囲を含め、検討すること。
三 交際費等の課税の特例の在り方について、当該特例が租税特別措置法で定められていることと踏まえ、消費の拡大を通じた経済の活性化を図る観点から、その適用範囲を含め、検討すること。
四 贈与税について、高齢者が保有する資産の若年世代への早期移転を促し、消費の拡大を通じた経済の活性化を図る観点、格差の固定化の防止等の観点から、結婚、出産又は教育に要する費用等の非課税財産の範囲の明確化も含め、検討すること。

附 則 (平成二五年五月一〇日法律第一二号) 抄
(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。

附 則 (平成二五年五月三一日法律第二三号) 抄
(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (平成二五年五月三一日法律第二五号) 抄
(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (平成二五年五月三一日法律第二九号) 抄
(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 附則第六条第八条及び第十二条から第十六条までの規定 平成二十六年四月一日

附 則 (平成二五年六月五日法律第三一号) 抄
(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して二月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第二条の次に一条を加える改正規定、第五十条の四を第五十条の五とし、同条の次に十条を加える改正規定（第五十条の四を第五十条の五とする部分を除く。）並びに第五十六条の二の二、第五十六条の二の三第一項及び第二項第三号並びに第五十六条の二の二十第一項の改正規定並びに附則第四条の規定 公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日

附 則（平成二五年六月一二日法律第三九号）抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則（平成二五年六月一九日法律第四五号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。
 一 第一条中金融商品取引法第百九十七条の二の次に一条を加える改正規定、同法第百九十八条第二号の次に二号を加える改正規定並びに同法第百九十八条の三、第百九十八条の六第二号、第二百五十四条並びに第二百七条第一項第二号及び第二項の改正規定、第三条の規定、第四条中農業協同組合法第十一条の四第四項の次に一項を加える改正規定、第五条のうち水産業協同組合法第十二条の十一中第五項を第六項とし、第四項の次に一項を加える改正規定、第八条の規定（投資信託及び投資法人に関する法律第二百五十二条の改正規定を除く。）、第十四条のうち銀行法第十三条中第五項を第六項とし、第四項の次に一項を加える改正規定及び同法第五十二条の二十二第四項中「前三項」を「前各項」に改め、同項を同条第五項とし、同条第三項の次に一項を加える改正規定、第十九条のうち農林中央金庫法第五十八条中第五項を第六項とし、第四項の次に一項を加える改正規定、第十五条の規定、第十九条のうち農林中央金庫法第五十八条第一項の改正規定 第二十二条の規定並びに附則第三十条（株式会社地域経済活性化支援機構法（平成二十三年法律第百十三号）第十七条第二項の改正規定に限る。）、第三十二条、第三十六条及び第三十七条の規定 公布の日から起算して二十日を経過した日

（政令への委任）

第三十七条 附則第二条から第十五条まで及び前条に定めるもののほか、この法律の施行に関する必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

附 則（平成二五年六月二一日法律第五六号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則（平成二五年六月二六日法律第六三号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第四条中国民年金法等の一部を改正する法律附則第二十条及び第六十四条の改正規定、第五条中国民年金法等の一部を改正する法律附則第十九条第二項の改正規定並びに次条並びに附則第三十九条、第一百四十三条、第一百四十六条及び第一百五十三条の規定 公布の日

（登録免許税法の一部改正に伴う経過措置）

第一百四条 存続連合会が受けける前条の規定による改正前の登録免許税別表第三の二の二の項の第三欄に掲げる登記に係る登録免許税については、なお従前の例による。
 2 存続厚生年金基金が受ける前条の規定による改正前の登録免許税別表第三の六の項の第三欄に掲げる登記に係る登録免許税については、なお従前の例による。

（その他の経過措置の政令への委任）

第一百五十三条 この附則に定めるもののほか、この法律の施行に關し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

附 則（平成二五年六月二八日法律第七〇号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則（平成二五年一一月二七日法律第八三号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して二月を経過した日から施行する。

附 則（平成二五年一一月二七日法律第八四号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、附則第六十四条、第六十六条及び第一百二条の規定は、公布の日から施行する。

（登録免許税法の一部改正に伴う経過措置）

第七十九条 前条の規定による改正後の登録免許税法の規定は、施行日以後に受ける許可、認定又は登録（附則第六十三条の規定によりなお従前の例によることとされる同条第一号に掲げる申請に係る許可及び同条第三号に掲げる申請に係る認定を除く。）に係る登録免許税について適用し、施行日前に受けた許可又は認定（施行日以後に受ける許可及び認定で、附則第六十三条の規定によりなお従前の例によることとされる同条第一号及び第三号に掲げる申請に係るもの）に係る登録免許税については、なお従前の例による。

（处分等の効力）
第一百条 この法律の施行前に改正前のそれぞれの法律（これに基づく命令を含む。以下この条において同じ。）の規定によつてした処分、手続その他の行為であつて、改正後のそれぞれの法律の相当の規定によつてしたものとみなす。

第一百条 この法律の施行前に改正前のそれぞれの法律（これに基づく命令を含む。以下この条において同じ。）の規定によつてした処分、手続その他の行為であつて、改正後のそれぞれの法律の規定に相当の規定があるものは、この附則に別段の定めがあるものを除き、改正後のそれぞれの法律の相当の規定によつてしたものとみなす。

(政令への委任)

第一百二条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に伴い必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

（施行期日）
附 則（平成二五年一月二七日法律第八五号）抄

（登録免許税法の一部改正に伴う経過措置）

第十一条 この法律の公布の日から施行日の前日までの間に受ける前条の規定による改正後の登録免許税法別表第一第七十七号の二（二）に掲げる許可及び同号（二）に掲げる認定に係る同号の規定の適用については、同号（一）中「第三十五条第一項（特定細胞加工物の製造の許可）の特定細胞加工物の製造の許可（更新の許可を除く。）」とあるのは「附則第八条第二項前段（施行前の準備の許可）と、同号（二）中「第三十九条第一項（外国における特定細胞加工物の製造の認定）の外国における特定細胞加工物の製造の認定（更新の認定を除く。）」とあるのは「附則第八条第四項前段の認定」とする。

（政令への委任）

第十三条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に關し必要な経過措置は、政令で定める。

附 則（平成二五年六月一日法律第九六号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して三年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

（施行期日）

附 則（平成二五年一月一一日法律第九八号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して三年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

（施行期日）

附 則（平成二六年三月三一日法律第一〇三号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、平成二十六年四月一日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

（施行期日）

附 則（平成二六年三月三一日法律第六号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、平成二十六年三月三一日から施行する。

（施行期日）

附 則（平成二六年三月三一日法律第一〇号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、平成二十六年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

（一）略

第十四条 第六条の規定及び附則第三十八条の規定 子ども・子育て支援法（平成二十四年法律第六十五号）の施行の日

（登録免許税法の一部改正に伴う経過措置）

第三十八条规定による改正後の登録免許税法の規定は、附則第一条第十四号に定める日以後に受けた登記に係る登録免許税について適用し、同日前に受けた登記に係る登録免許税については、なお従前の例による。

（政令への委任）

第一百六十五条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に關し必要な経過措置は、政令で定める。

附 則（平成二六年四月二十五日法律第三〇号）抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

（施行期日）

附 則（平成二六年五月一四日法律第三六号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

（一）略

第三十三条 中意匠法目次の改正規定、同法第二十六条の二第三項の改正規定、同法第六十条の三を同法第六十条の二十四とする改正規定並びに同法第六十七条第一項及び第七十三条の二第一項の改正規定並びに第六条中弁理士法第二条、第四条第一項、第五条第一項、第六条及び第七十五条の改正規定並びに附則第十条及び第十二条の規定並びに附則第十二条中工業所有権に関する手続等の特例に関する法律（平成二年法律第三十号）第十二条第一項第二号の改正規定 意匠の国際登録に関するハーゲ協定のジュネーブ改正協定が日本国について効力を生ずる日

「限る。」又は電気事業法等改正法附則第六条第一項の登録」と、「許可件数」とあるのは「許可件数又は登録件数」と、同号（二）ハ中「又は」とあるのは「若しくは」と、「限る。」とあるのは「若しくは」と、「限る。」とする。

（処分、手続等に関する経過措置）

第八条 この法律の施行前にこの法律による改正前のそれぞれの法律（これに基づく命令を含む。以下この条において同じ。）の規定によってした処分、手続その他の行為であつて、この法律による改正後のそれぞれの法律の規定に相当の規定があるものは、この附則に別段の定めがあるものを除き、この法律による改正後のそれぞれの法律の相当の規定によつしたものとみなす。

（政令への委任）この附則に定めるもののほか、この法律の施行に関する必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

第十一条 附則（平成二十六年六月二十五日法律第八三号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

第一条 この法律は、公布の日又は平成二十六年四月一日のいずれか遅い日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第十二条中診療放射線技師法第二十六条第二項の改正規定及び第二十四条の規定並びに次条並びに附則第七条、第十三条ただし書、第十八条、第二十条第一項ただし書、第二十二条、第二十五条、第二十九条、第三十一条、第六十一条、第六十二条、第六十四条、第六十七条、第七十一条及び第七十二条の規定 公布の日

二 略

三 第二条の規定、第四条の規定（第五号に掲げる改正規定を除く。）、第五条のうち、介護保険法の目次の改正規定、同法第七条第五項、第八条、第八条の二、第十三条、第二十四条の二第五項、第三十二条第四項、第四十二条の二、第四十二条の三第二項、第五十三条、第五十四条第三項、第五十四条の二、第五十四条の三第二項、第五五十八条第一項、第六十八条第五項、第六十九条の三十四、第六十九条の三十八第二項、第六十九条の三十九第二項、第七十八条の二、第七十八条の十四第一項、第一百五十五条の二十二第一項及び第一百五十五条の四十五の改正規定、同法第一百五十五条の四十五の次に十条を加える改正規定、同法第一百五十五条の四十六及び第一百五十五条の四十七の改正規定、同法第一百五十五条の四十八を同法第一百五十五条の四十九とし、同法第一百五十五条の四十七の次に一条を加える改正規定、同法第一百七十七条、第一百八十八条、第一百二十二条の二、第一百二十四条第三項及び第一百二十四条の次に二条を加える改正規定、同法第一百二十六条第一項、第一百二十七条、第一百二十八条、第一百四十二条の見出し及び同条第一項、第一百四十八条第二項、第一百五十二条及び第一百五十三条並びに第一百七十六条の改正規定、同法第十一章の章名の改正規定、同法第一百七十九条から第八百八十二条までの改正規定、同法第二百二条の次に一条を加える改正規定、同法第二百二条第一項、第二百三条及び第二百五十五条並びに附則第九条第一項ただし書の改正規定並びに同法附則に一条を加える改正規定、第七条の規定（次号に掲げる改正規定を除く。）、第九条及び第十条の規定、第十二条の規定（第一号に掲げる改正規定を除く。）、第十三条及び第十四条の規定、第十五条の規定（第六号に掲げる改正規定を除く。）、第十六条の規定（第六号に掲げる改正規定を除く。）、第十七条の規定、第十八条の規定（第六号に掲げる改正規定を除く。）、第十九条の規定並びに第二十一条中看護師等の人材確保の促進に関する法律第二条第二項の改正規定並びに附則第五条、第八条第二項及び第四项、第九条から第十二条まで、第十三条（ただし書を除く。）、第十四条から第十七条まで、第二十八条、第三十条、第三十二条第一項、第三十三条から第三十九条まで、第四十四条、第四十六条並びに第四十八条の規定、附則第五十条の規定（第六号に掲げる改正規定を除く。）、附則第五十二条の規定（第六号に掲げる改正規定を除く。）、附則第五十三条の規定、附則第五十五条の規定（第六号に掲げる改正規定を除く。）、附則第五十四条、第五十五条及び第五十八条の規定、附則第五十九条中高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（平成十七年法律第二百二十四号）第二条第五項第二号の改正規定（同条第十四項）を「同条第十二項」に、「同条第十八項」を「同条第十六項」に改める部分に限る。）並びに附則第六十五条、第六十六条及び第七十条の規定 平成二十七年四月一日

四 及び五 略

六 第六条の規定（次号に掲げる改正規定を除く。）、第十二条の規定、第十五条中国民健康保険法第五十五条第一項の改正規定、同法第一百六十六条の二第一項第六号の改正規定（同法第八条第二十四项）を「同条第二十五項」に改める部分に限る。）及び同法附則第五条の二第一項の改正規定、第十六条中老人福祉法第五条の二第三項の改正規定（「居宅介護サービス費、」の下に「地域密着型通所介護若しくは」を加える部分に限る。）、同条第七項の改正規定、同法第十条の四第一項第二号の改正規定（「規定する通所介護」の下に「地域密着型通所介護」を加える部分に限る。）及び同法第二十条の八第四項の改正規定（「、小規模多機能型居宅介護」の下に「、地域密着型通所介護」を加える部分に限る。）、第十八条中高齢者の医療の確保に関する法律第五十五条第一項第五号の改正規定（同法第八条第二十四項）を「同条第二十五項」に改める部分に限る。）並びに同法附則第二条及び第十三条の十一第一項の改正規定並びに第二十二条の規定並びに附則第二十条（第一項ただし書を除く。）、第二十一条、第四十二条、第四十三条並びに第四十九条の規定、附則第五十条中国有財産特別措置法（昭和二十七年法律第二百十九号）第二条第二項第四号ロの改正規定（「居宅サービス、」の下に「地域密着型通所介護若しくは」を加える部分に限る。）、附則第五十二条中登録免許税法（昭和四十二年法律第三十五号）別表第三の二十四の項の改正規定、附則第五十五条及び第五十六条の規定、附則第五十九条の規定（第三号に掲げる改正規定を除く。）並びに附則第六十条の規定 平成二十八年四月一日までの間ににおいて政令で定める日

（政令への委任）

第七十二条 附則第三条から第四十一条まで及び前条に定めるもののほか、この法律の施行に伴い必要な経過措置は、政令で定める。

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、附則第六条の規定は、公布の日から施行する。

（政令への委任）

第六条 附則第三条に定めるもののほか、この法律の施行に関する必要な事項は、政令で定める。

附 則 (平成二六年六月二七日法律第九一號) 抄
この法律は、会社法の一部を改正する法律の施行の日から施行する。

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
附 則 (平成二七年五月七日法律第二〇号) 抄
(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。
附 則 (平成二七年五月二九日法律第三一號) 抄
(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
附 則 (平成二七年五月二九日法律第三一號) 抄
(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
附 則 (平成二七年六月二四日法律第四七号) 抄
(施行期日)

第一条 この法律は、平成三十年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、それぞれ当該各号に定める日から施行する。

第一条 第一条の規定、第五条中健康保険法第九十条第二項及び第九十五条第六号の改正規定、同法附則第四条の四の改正規定、同法附則第五条の改正規定、同法附則第四条の四の改正規定、同法附則第五条の改正規定、第七条中船員保険法第七十条第四項の改正規定及び同法第八十五条第二項第三号の改正規定、第八条の規定並びに第十二条中社会保険診療報酬支払基金法第十一条第二項の改正規定並びに次条第一項並びに附則第六条から第九条まで、第十五条、第十八条、第二十六条、第五十九条、第六十二条及び第六十七条から第六十九条までの規定 公布の日

第二条 第五条(前号に掲げる改正規定を除く。)、第七条(前号に掲げる改正規定を除く。)及び第十四条の規定並びに附則第十六条、第十七条、第十九条、第二十一条から第二十五条まで、第三十三条から第三十五条まで、第五十六条及び第六十四条の規定 平成二十八年四月一日

第十八条 第十九条、第二十一条から第二十五条まで、第五十六条、第五十八条及び第六十四条の規定 平成二十八年四月一日

附 則 (平成二七年六月二四日法律第四七号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、令和二年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

第一及び二 略

第三 第二条中電気事業法目次の改正規定、同法第三十五条第一項の改正規定、同法第五章の章名の改正規定及び同法第六十六条の二の改正規定並びに第四条、第七条、第十一条及び第十四条の規定並びに次条、附則第二十二条第六項、第二十八条第五項、第三十五条、第三十六条(附則第十八条第一項及び第四項、第十九条第二項及び第四項、第二十六条第一項及び第四項並びに第三十二条第一項及び第四項に係る部分に限る。)、第三十九条、第四十条、第四十九条、第五十条(第五項を除く。)、第五十二条から第五十三条まで、第五十五条から第六十二条まで、第六十三条(第四項を除く。)、第六十四条から第六十八条まで及び第七十六条の規定、附則第七十七条の規定(第五号に掲げる改正規定を除く。)、附則第七十八条第七項から第十項までの規定、附則第八十三条の規定(第五号に掲げる改正規定を除く。)、附則第八十四条の規定並びに附則第八十五条中登録免許税法(昭和四十二年法律第三十五号)別表第一第一百三号の改正規定 公布の日から起算して一年六月を超えない範囲内において政令で定める日

第四 附則第十六条及び第八十六条の規定 公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日

第五 第二条の規定(第三号に掲げる改正規定を除く。)及び第五条の規定並びに附則第十二条から第十五条まで、第十七条、第二十条、第二十一条、第二十二条(第六項を除く。)、第二十三条から第二十五条まで、第二十七条(附則第二十四条第一項に係る部分に限る。)、第二十八条(第五項を除く。)、第二十九条から第三十一条まで、第三十三条、第三十四条、第三十六条(附則第二十二条第一項及び第二項、第二十九条第一項、第三十条第一項及び第三十一条に係る部分に限る。)、第三十七条、第三十八条、第四十一条(第四項を除く。)、第四十二条、第四十三条、第四十五条(第四号から第六号までに係る部分に限る。)に係る部分に限る。)、第四十七条、第四十八条及び第七十五条の規定、附則第七十七条中地方税法(昭和二十五年法律第二百二十六号)第三百四十九条の三第三項及び第七百一条の三十四第三項第十七号の改正規定、附則第七十八条第一項から第六項まで及び第七十九条から第八十二条までの規定、附則第八十三条中法人税法(昭和四十年法律第三十四号)第四十五条第一項の改正規定(同項第二号に係る部分に限る。)、附則第八十五条中登録免許税法別表第一第一百一号の改正規定及び同表第一百四号(八)の改正規定、附則第八十七条の規定、附則第八十八条中電源開発促進税法(昭和四九年法律第七十九号)第二条第三号イの改正規定(「発電量調整供給」を「電力量調整供給」に改める部分に限る。)並びに附則第九十条から第九十五条まで及び第九十七条の規定 公布の日から起算して二年六月を超えない範囲内において政令で定める日

(登録免許税法の一部改正に伴う経過措置)

第八十六条 附則第一条第四号に掲げる規定の施行の日から第五号施行日の前日までの間に受けた附則第十六条第二項の規定による登録に係る前条の規定による改正前の登録免許税法別表第一第一号の規定の適用については、同号中「ガス事業の許可」とあるのは「ガス事業の許可、ガス小売事業の登録」と、同号(二)中「又は」とあるのは「若しくは」と、「除く。」とあるのは「除く。」又は電気事業法等の一部を改正する等の法律(平成二十七年法律第四十七号)附則第十六条第二項(ガス小売事業の登録等に関する経過措置)の登録」と、「許可件数」とあるのは「許可件数」とする。

附 則 (平成二七年七月八日法律第五三号)

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 附則第十条の規定 公布の日

二 第八条から第十条まで、第三章、第三十条第八項及び第九項、第六章、第六十三条、第六十四条、第六十七条から第六十九条まで、第七十条第一号（第三十八条第一項に係る部分を除く。）、第七十条第二号及び第三号、第七十一条（第一号を除く。）、第七十三条（第六十七条第二号、第六十八条、第六十九条、第七十条第一号（第三十八条第一項に係る部分を除く。）、第七十条第二号及び第三号並びに第七十一条（第一号を除く。）に係る部分に限る。）並びに第七十四条並びに次条並びに附則第三条及び第五条から第九条までの規定 公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日

(政令への委任)

第十条 この附則に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 (平成二七年九月四日法律第六三号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成二十八年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 附則第二十八条、第二十九条第一項及び第三項、第三十条から第四十条まで、第四十七条（都道府県農業会議及び全国農業会議所の役員に係る部分に限る。）、第五十条、第一百九条並びに第五百十五年の規定 公布の日（以下「公布日」という。）

(政令への委任)

第一百五条 この附則に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

附 則 (平成二七年九月九日法律第六五号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (平成二七年九月一六日法律第六八号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成二十七年十月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 附則第三条、第四条及び第十九条の規定 公布の日

二 略

三 第三条の規定、第四条中職業安定法第二十六条第三項の改正規定及び同法第三十三条の二の改正規定（「昭和四十四年法律第六十四号」）を削る部分に限る。）、第五条の規定（職業能力開発促進法の目次の改正規定（「第十五条の五」）を「第十五条の六」に、「第十五条の六」を「第十五条の七」に改める部分に限る。）、同法第三条の二の次に一条を加える改正規定、同法第九条、第十条の二第二項第一号、第十五条の二第一項第八号及び第十五条の三の改正規定、同法第十五条の七に一項を加える改正規定、同法第十五条の八とし、同法第十五条の六を同法第十五条の七とする改正規定、同法第三章第二節中第十五条の五を第十五条の六とし、第十五条の四を第十五条の五とする改正規定、同法第十五条の三の次に一条を加える改正規定、同法第十六条第四項の改正規定、同法第二十七条第五項の改正規定（第十五条の六第二項）を「第十五条の七第二項」に改める部分に限る。）並びに同法第九十六条の改正規定を除く。）並びに附則第五条、第六条及び第九条の規定 平成二十八年四月一日

(政令への委任)

第十九条 この附則に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 (平成二七年九月一八日法律第七三号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成二十九年九月三十日から施行する。

附 則 (平成二八年三月三一日法律第一七号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成二十九年一月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 略

二 第一条中雇用保険法第六十二条第一項及び第六十三条第一項の改正規定、第三条中労働保険の保険料の徴収等に関する法律第十二条第四項、第五項及び第九項の改正規定並びに第四条の規定並びに附則第十条、第十五条、第二十六条、第二十八条及び第三十一条の規定 平成二十八年四月一日

附 則 (平成二八年三月三一日法律第二二号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成二十九年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- 一 第五条及び第六条の規定並びに附則第五条、第七条、第九条、第三十一条、第三十二条、第三十四条及び第三十五条の規定 公布の日
 附 則 (平成二八年四月二二日法律第三一号) 抄
 (施行期日)
- 第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
- 第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
 (登録免許税法の一部改正に伴う経過措置)
- 第五条 附則第二条の規定によりなお従前の例によることとされる旧法第四条第一項に規定する総合効率化計画の変更の認定に係る変更登録又は事業計画の変更の認可に係る登録免許税については、なお従前の例による。
- (政令への委任)
- 第七条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。
- 附 則 (平成二八年五月二〇日法律第四八号) 抄
 (施行期日)
- 1 この法律は、公布の日から起算して一年を超えた日から施行する。
- 附 則 (平成二八年六月三日法律第六二号) 抄
 (施行期日)
- 第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
 (その他の経過措置の政令への委任)
- 第十九条 附則第一条から第八条まで及び前条に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置 (罰則に関する経過措置を含む。) は、政令で定める。
- 附 則 (平成二八年一月二八日法律第八九号) 抄
 (施行期日)
- 第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、第一章、第三章、第一百三条、第一百六条、第一百七条、第一百十条 (第八十条及び第八十八条第二項において準用する場合を含む。) に係る部分に限る。), 第百十二条 (第十二号に係る部分に限る。), 第百十四条及び第一百十五条の規定並びに附則第五条から第九条まで、第十一条、第十四条から第十七条まで、第十八条 (登録免許税法 (昭和四十二年法律第三十五号) 別表第三の改正規定に限る。), 第二十条から第二十三条まで及び第二十六条の規定は、公布の日から施行する。
- (政令への委任)
- 第二十六条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に伴い必要な経過措置 (罰則に関する経過措置を含む。) は、政令で定める。
- 附 則 (平成二八年一二月九日法律第九九号) 抄
 (施行期日)
- 第一条 この法律は、公布の日から起算して一年六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
- 附 則 (平成二八年一二月九日法律第一〇〇号) 抄
 (施行期日)
- 第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、第八条の改正規定並びに附則第三条及び第八条の規定は、平成二十九年四月一日から施行する。
- 附 則 (平成二九年四月一四日法律第一五号) 抄
 (施行期日)
- 第一条 この法律は、公布の日から起算して三年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。
- 一 及び二 略
- 三 第四条の規定及び附則第二十三条の規定 公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
- 附 則 (平成二九年五月一二日法律第二八号) 抄
 (施行期日)
- 第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
- 附 則 (平成二九年五月二四日法律第三七号) 抄
 (施行期日)
- 第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、附則第八条、第二十四条及び第二十六条の規定は、公布の日から施行する。
- 第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、附則第八条、第二十四条及び第二十六条の規定は、公布の日から施行する。

(その他の経過措置の政令への委任)

第二十六条 附則第二条から第四条まで及び前条に定めるもののほか、この法律の施行に関する必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

(施行期日)

附則 (平成二十九年六月二日法律第四六号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して六年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、附則第十六条の規定は、公布の日から施行する。

(政令への委任)

第十六条 この附則に定めるもののほか、この法律の施行に関する必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

(施行期日)

附則 (平成二九年六月二日法律第四九号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、附則第十条、第十一条及び第二十条の規定は、公布の日から施行する。

(その他の経過措置の政令への委任)

第二十条 附則第一条から第九条までに定めるもののほか、この法律の施行に関する必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

(施行期日)

附則 (平成二九年六月二日法律第五〇号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して九月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次条並びに附則第四条及び第二十四条の規定は、公布の日から施行する。

(政令への委任)

第二十四条 この附則に定めるもののほか、この法律の施行に関する必要な経過措置は、政令で定める。

(施行期日)

附則 (平成二九年六月二日法律第五一号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附則 (平成二九年六月二日法律第五二号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附則 (平成二九年六月二日法律第五三号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附則 (平成二九年六月二日法律第五四号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関する必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

(施行期日)

附則 (平成二九年六月二日法律第六四号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附則 (平成二九年六月二日法律第六五号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附則 (平成二九年六月二日法律第七〇号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附則 (平成二九年六月二三日法律第七四号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成三十年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

(政令への委任)

附則 (平成二九年六月二三日法律第七〇号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関する必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

(施行期日)

附則 (平成三〇年五月二三日法律第二四号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して九月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附則 (平成三〇年五月二三日法律第二六号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- (施行期日)
第一条 この法律は、令和二年四月一日から施行する。
- (施行期日)
附 則 **(令和元年五月三一日法律第一六号)** 抄
- 第一条** この法律は、公布の日から起算して九月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
- (施行期日)
第三十一条 この附則に規定するものほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。
- (施行期日)
附 則 **(令和元年六月一二日法律第三〇号)** 抄
- 第一条** この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
- (施行期日)
附 則 **(令和元年六月二二日法律第三一号)** 抄
- 第一条** この法律は、平成三十二年四月一日から施行する。
- (施行期日)
附 則 **(令和元年六月二八日法律第五〇号)** 抄
- 第一条** この法律は、公布の日から起算して三年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
- (施行期日)
附 則 **(令和元年一一月二七日法律第五七号)** 抄
- 第一条** この法律は、令和二年四月一日から施行する。
- (施行期日)
附 則 **(令和元年一一月四日法律第六二号)** 抄
- 第一条** この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
- (施行期日)
附 則 **(令和元年一一月四日法律第六三号)** 抄
- 第一条** この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
- (施行期日)
附 則 **(令和元年一一月六日法律第六六号)** 抄
- 第一条** この法律は、公布の日から起算して一月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
- (施行期日)
附 則 **(令和元年一一月六日法律第六七号)** 抄
- 第一条** この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
- (施行期日)
附 則 **(令和元年一一月一一日法律第七一号)** 抄
- 第一条** この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。
- (施行期日)
附 則 **(令和元年一一月一一日法律第七二号)** 抄
- 第一条** この法律は、会社法改正法の施行の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。
- 一 第九条中社債、株式等の振替に関する法律第二百六十九条の改正規定（「第六十八条第二項」を「第八十六条第一項」に改める部分に限る。）、第二十一条中民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律第五十六条第二項及び附則第四条の改正規定、第四十一条中保険業法附則第一条の二の十四第一項の改正規定、第四十七条中保険業法等の一部を改正する法律附則第十六条第一項の改正規定、第五十一条中株式会社海外通信・放送・郵便事業支援機構法第二十七条の改正規定、第七十八条及び第七十九条の規定、第八十九条中農林中央金庫及び特定農水産業協同組合等による信用事業の再編及び強化に関する法律附則第二十六条第一項の改正規定並びに第百二十四条及び第百二十五条の規定 公布の日

同法第二十七条の二十九の改正規定、同法第二章第七節第一款の款名の改正規定、同法第二十八条の四十第五号の改正規定、同法第三十一條の前に見出しを付する改正規定、同節第六款中第三十四条を第三十四条の二とする改正規定、同節第五款に一条を加える改正規定、同法第百十九条第九号の改正規定及び同法第百二十条第四号の改正規定、第五条の規定（第三号に掲げる改正規定を除く。）並びに第六条中電気事業法等の一部を改正する法律附則第十六条第四項の改正規定（第六十六条の十一）を「第六十六条の十」に改める部分に限る。）及び同法附則第二十三条第三項の改正規定並びに附則第六条、第七条、第九条から第十二条まで及び第二十八条の規定 公布の日

附 則（令和二年六月一二日法律第五〇号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 附則第二十七条の規定 公布の日

二 第三条中金融商品取引法第百五十六条の六十三から第百五十六条の六十六までの改正規定、同法第百五十六条の七十四第一項第一号の改正規定、同法第百五十六条の七十五の改正規定、同法第一百九十八条の六の改正規定及び同法第二百八条第二十六号の二の改正規定並びに第十四条の規定並びに附則第三条から第十六条まで、第二十条（登録免許税法（昭和四十二年法律第三十五号）別表第一第一号の改正規定に限る。）、第二十一条（住民基本台帳法（昭和四十二年法律第八十一号）別表第一の十一の項の改正規定に限る。）、第二十五条（金融庁設置法（平成十年法律第三十号）第四条第一項第三号ナの改正規定に限る。）及び第二十六条の規定 公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日

（政令への委任） 第二十七条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

第二十七条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

附 則（令和二年六月一二日法律第五二号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、令和三年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第三条中介護保険法附則第十三条（見出しを含む。）及び第十四条（見出しを含む。）の改正規定、第四条中健康保険法等の一部を改正する法律附則第百三十条の二第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた同法第二十六条の規定による改正前の介護保険法附則第十一条（見出しを含む。）及び第十二条（見出しを含む。）の改正規定、第六条及び第八条の規定並びに附則第六条の規定、附則第七条の規定（介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律（平成二十三年法律第七十二号）附則第十条第三項及び第四項の改正規定を除く。）並びに附則第八条及び第九条の規定 公布の日

附 則（令和二年六月一九日法律第六〇号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則（令和二年六月一四日法律第六四号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、令和三年四月一日から施行する。

附 則（令和二年六月一四日法律第七四号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則（令和三年五月二一日法律第四三号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 略

二 第一条及び第四条の規定並びに附則第六条、第十三条及び第十四条（登録免許税法（昭和四十二年法律第三十五号）別表第一第一百二十八号の改正規定に限る。）の規定 公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日

三 第二条、第五条及び第六条の規定並びに附則第十四条（登録免許税法別表第一第一百二十八号の改正規定を除く。）及び第十五条の規定 公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日

附 則（令和三年五月二六日法律第四四号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則（令和三年六月一一日法律第六〇号）抄

（施行期日）

1 附 則（令和三年六月一一日法律第六五号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一及び二 略

三 附則第三条から第九条まで及び第十六条の規定 公布の日から起算して一年三月を超えない範囲内において政令で定める日

四 第二条及び第三条並びに附則第十三条、第十五条、第十七条、第十八条及び第二十一条の規定 公布の日から起算して一年六月を超えない範囲内において政令で定める日

附 則 (令和三年六月一日法律第六六号) 抄

(施行期日) この法律は、令和四年一月一日から施行する。

第一条 附 則 (令和三年六月一八日法律第八〇号) 抄

(施行期日) この法律は、令和四年一月一日から施行する。

第一条 附 則 (令和四年三月三一日法律第七号) 抄

(施行期日) この法律は、令和四年四月一日から施行する。

第一条 附 則 (令和四年五月一日法律第三六号) 抄

(施行期日) この法律は、令和四年四月一日から施行する。

第一条 附 則 (令和四年五月一八日法律第四一号) 抄

(施行期日) この法律は、令和四年四月一日から施行する。

第一条 附 則 (令和四年五月一八日法律第四九号) 抄

(施行期日) この法律は、令和四年五月一日から施行する。

第一条 附 則 (令和四年五月一五日法律第五九号) 抄

(施行期日) この法律は、令和四年五月一日から施行する。

第一条 附 則 (令和四年六月一日法律第五九号) 抄

(施行期日) この法律は、令和四年六月一日から施行する。

第一条 附 則 (令和四年五月二〇日法律第四六号) 抄

(施行期日) この法律は、令和五年四月一日から施行する。

第一条 附 則 (令和四年五月二五日法律第四九号) 抄

(施行期日) この法律は、令和五年五月二五日から施行する。

一 附則第二十九条の規定 公布の日
(政令への委任)

第二十九条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関する必要な経過措置は、政令で定める。

(施行期日) 附 則 (令和四年六月一〇日法律第六三号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して九月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日) 附 則 (令和四年六月一七日法律第六九号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して三年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 から三まで 略

四 第一条(建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律の題名の改正規定、同法の目次の改正規定(「特定建築主の新築する分譲型一戸建て規格住宅」を「分譲型一戸建て規格住宅及び分譲型規格共同住宅等」に、「特定建設工事業者の新たに建設する請負型規格住宅」を「請負型一戸建て規格住宅及び請負型規格共同住宅等」に改める部分を除く)、同法第一条の改正規定、同法第三条の次に「一章を加える改正規定、同法第四条の改正規定、同法第五条の改正規定、同法第六条第二項の改正規定、同法第七十四条の改正規定、同法第七十三条の改正規定、同法第六项の改正規定、同法第七十七条の改正規定、同法第六章の次に「一章を加える改正規定、同法第七十二条の改正規定、同法第七十三条の改正規定、同法第七十五条の改正規定、同法第七十六条の改正規定、同法第七十七条の改正規定、同法第七章の次に「一章を加える改正規定、同法第七十八条の改正規定に限る)、第四条(建築基準法第二条の改正規定(同条第十七号の改正規定を除く)、同法第二十一条の改正規定、同法第二十三条の改正規定、同法第二十六条の改正規定、同法第二十七条の改正規定、同法第五十二条第十四項第三号の改正規定、同法第六十一条に一項を加える改正規定、同法第八十六条の七の改正規定、同法第八十七条第四項の改正規定及び同法第八十八条第一項の改正規定(「から第三号まで」を「又は第一号」に、「同項第四号」を「同項第三号」に改める部分及び「それぞれ」を削る部分を除く)に限る)及び第七条の規定並びに附則第四条、第八条(登録免許税法(昭和四十一年法律第三十五号)別表第一百五十五号の二(一)の改正規定(第十五条第一項)を「第十四条第一項」に改める部分を除く)及び同号(二)の改正規定(第二十四条第一項)を「第十七条第一項」に改める部分を除く)に限る)及び第九条の規定 公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日

附 則 (令和四年六月一七日法律第七〇号) 抄

(施行期日) 附 則 (令和四年六月二二日法律第七四号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日) 附 則 (令和四年六月二二日法律第七四号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 附則第十九条の規定 公布の日
(施行期日)

二 第四条の規定(電気事業法目次の改正規定(「第五款 承継(第五十五条の二)」を「第五款 承継(第五十五条の二)／第六款 認定高度保安実施設置者(第五十五条の三～第五十五条の十三)／」に改める部分に限る)、同法第三章第二節に一款を加える改正規定、同法第一百五十五条の次に一条を加える改正規定、同法第一百十二条第一項第五号を同項第六号とし、同項第四号の次に二号を加える改正規定(同項第四号の二に係る部分に限る)、同法第一百二十一条第一号の改正規定(第五十五条の二第三項)の下に「、第五十五条の七」を加える部分に限る)、同条第五号の改正規定及び同条第八号の次に一号を加える改正規定を除く)並びに附則第四条、第五条、第八条から第十条まで、第十五条及び第十八条の規定 公布の日から起算して三年を経過した日

三 第四条の規定(電気事業法目次の改正規定(「第五款 承継(第五十五条の二)／第六款 認定高度保安実施設置者(第五十五条の三～第五十五条の十三)／」に改める部分に限る)、同法第三章第二節に一款を加える改正規定、同法第一百十二条规定(第五十五条の二第三項)の下に「、第五十五条の七」を加える部分に限る)、同条第五号の改正規定及び同条第八号の次に一号を加える改正規定を除く)並びに附則第四条、第五条、第八条から第十条まで、第十五条及び第十八条の規定 公布の日から起算して九月を超えない範囲内において政令で定める日

四 第二条の規定並びに附則第三条、第十二条及び第十三条の規定、附則第十四条中液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律(昭和四十一年法律第百四十九号)第三十七条の六第一項ただし書の改正規定並びに附則第十七条の規定 この法律の施行の日から起算して三年を経過した日

五 第十九条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関する必要な経過措置(罰則に関する経過措置を含む)は、政令で定める。

(政令への委任)
第一条 この法律は、令和五年四月一日から施行する。

六 第七十九条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関する必要な経過措置は、政令で定める。

(施行期日)
附 則 (令和五年四月一八日法律第十八号) 抄

七 第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 略
二 第一条及び附則第七条の規定 公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日

附 則 (令和五年五月八日法律第二二号) 抄

(施行期日) 第一条 この法律は、令和七年四月一日から施行する。

第一条 この法律は、公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (令和五年五月一一日法律第二二号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (令和五年五月一一日法律第二四号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一から三まで 略

四 第三条の規定（次号に掲げる改正規定を除く。）並びに附則第六条、第七条、第十三条、第十四条及び第十六条から第十八条までの規定、附則第十九条の規定（外国人観光旅客の来訪の促進等による国際観光の振興に関する法律（平成九年法律第九十一号）第六条第二項の改正規定（「第二十三条」を「第二十一条の五」に改める部分に限る。）を除く。）、附則第二十条の規定（中心市街地の活性化に関する法律（平成十年法律第九十二号）第四十条第二項の改正規定（「第二十三条」を「第二十一条の五」に改める部分に限る。）を除く。）、附則第二十二条の規定、附則第二十二条の規定（流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律（平成十七年法律第八十五号）第十二条第二項の改正規定を除く。）、附則第二十三条の規定、附則第二十四条の規定（地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成十九年法律第五十九号）第二十七条の五第二項の改正規定（「第十五条第一項」を「第十六条第一項」に改める部分に限る。）同法第二十七条の十九の改正規定（「第十五条」を「第十六条」に改める部分に限る。）及び同法第三十五条第二項の改正規定（「第十五条第一項」を「第十六条第一項」に改める部分に限る。）を除く。）、附則第二十五条の規定（観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律（平成二十年法律第三十九号）第十三条第二項の改正規定（「第二十三条」を「第二十一条の五」に改める部分に限る。）を除く。）、附則第二十六条の規定（総合特別区域法（平成二十三年法律第八十一号）第十九条の三の改正規定（「第八条第一項」を「第六条」に改める部分に限る。）を除く。）、附則第二十七条及び第二十八条の規定、附則第二十九条の規定（文化観光拠点施設を中心とした地域における文化観光の推進に関する法律（令和二年法律第十八号）第八条第二項の改正規定（「第二十三条」を「第二十一条の五」に改める部分に限る。）を除く。）並びに附則第三十条及び第三十一条の規定（公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。）

附 則 (令和五年五月二六日法律第三四号) 抄

(施行期日)

附 則 (令和五年五月二六日法律第三五号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (令和五年五月二六日法律第三七号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (令和五年五月二六日法律第三九号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (令和五年五月二六日法律第四七号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (令和五年六月七日法律第四七号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (令和五年六月七日法律第四八号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (令和五年六月一六日法律第五八号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (令和五年六月一六日法律第五九号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (令和五年六月一六日法律第六〇号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (令和五年六月一六日法律第六一号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (令和五年六月一六日法律第六二号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (令和五年六月一六日法律第六三号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (令和五年六月一六日法律第六四号) 抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日)

附 則 (令和五年六月一六日法律第六五号) 抄

条第一項及び第一百十七条第二項の改正規定、第七条中協同組合による金融事業に関する法律第四条の四第一項、第六条の四及び第六条の五の十第二項の改正規定、第八条中投資信託及び投資法人に関する法律第九十八条第五号、第一百条第五号及び第一百三十六条第一項の改正規定、第九条中信用金庫法第五十四条の二十三第一項、第八十五条の二の二及び第八十九条第十項の改正規定、第十条中長期信用銀行法第十三条の二第二項及び第十六条の七の改正規定、第十一条中労働金庫法第五十八条の五第一項、第八十九条の四及び第九十四条第六項の改正規定、第十二条中銀行法第十六条の二第一項、第五十二条の五十二第六号、第五十二条の六十一の五第一項の改正規定、第十四条中保険業法第一百六条第一項、第二百七十二条の四第一項、第二百七十二条の三十三第一項、第二百七十九条第一項、第二百八十条第一項、第二百八十九条第一項及び第二百九十条第一項の改正規定、第十五条中資産の流動化に関する法律第七十条第一項の改正規定、第十七条中農林中央金庫法第五十四条第三項、第七十二条第一項、第九十五条の三第一項及び第九十五条の五の十第二項の改正規定並びに第十九条中株式会社商工組合中央金庫法第二十一条第三項、第三十九条第一項及び第六十条の六第一項の改正規定並びに附則第十四条から第十七条まで、第二十三条第一項、第三十四条、第三十七条から第三十九条まで及び第四十一条から第四十三条までの規定、附則第四十四条登録免許税法（昭和四十二年法律第三十五号）別表第一第四十八条の改正規定並びに附則第四十五条から第四十八条まで、第五十二条、第五十四条、第五十五条、第五十八条から第六十三条まで及び第六十五条の規定（政令への委任）（政令への委任）（この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。）

第六十八条 附 則（令和六年三月三〇日法律第六号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、令和六年四月一日から施行する。

（附 則）

（令和六年三月三〇日法律第八号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、令和六年四月一日から施行する。

（政令への委任）

第七十三条 附 則（令和六年四月一九日法律第一七号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、令和六年四月一日から施行する。

（政令への委任）

第一条 この法律は、令和六年四月一日から施行する。

（附 則）

（令和六年四月一九日法律第一三三号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

（一から三まで 略）

四 第三条の規定（前号に掲げる改正規定を除く。）並びに附則第五条の規定及び附則第十一条中登録免許税法（昭和四十二年法律第三十五号）別表第一第一百一十五号の改正規定（「流通業務総合効率促進法第十条第一項」を「物資流通効率化法第十二条第一項」、「流通業務総合効率化促進法第四条第一項」を「物資流通効率化法第六条第一項」に改める部分を除く。）公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日

附 則（令和六年五月一二日法律第三三号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

（一 附則第十八条の規定 公布の日）

第十八条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

附 則（令和六年五月一四日法律第三八号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

（一 附則第二十二条の規定 公布の日）

附 則（令和六年五月一四日法律第三八号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

（二 略）

三 第二章第一節（試掘に係る部分に限る。）、同章第二節（試掘及び試掘権に係る部分に限る。）、同章第三節第三款、第六十五条（試掘に係る部分に限る。）、同章第四節（試掘に係る部分に限る。）、第五章及び第六章（試掘に係る部分に限る。）、第一百三十二条（第一号（第四条第一項、第十二条第一項、第十四条第一項及び第一百二十条第一項に係る部分に限る。）に係る部分に限る。）、第一百三十二条第二項（試掘者に係る部分に限る。）、第一百三十三条（前号に掲げる規定及び第十条第一項に係る部分を除き、試掘に係る部分に限る。）、第一百三十四条（試掘に係る部分に限る。）並びに第百三十七条第二項の規定（これらの規定に係る罰則を含む。）並びに附則第七条、第八条、第十条から第十二条まで、第十七条及び第十九条から第二十一条までの規定（政令への委任）（政令への委任）（この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。）

第二十二条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

附則（令和六年五月二九日法律第四〇号）抄

（旅行其間、云甚也、六月）一、（日記）

（施行期日）
附 則
（令和六年五月二九日法律第四一號）抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(施行期日) 附則(令和六年六月一四日法律第五一号)抄

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、附則第八条、第九条、第十二条及び第十三条の規定は、公布の日から施行する。

(登場人物) 沢村(左近) 郡家三(半四郎) 越後吉置(一

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して二年六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

(政令への委任)

別表第一
概説範用、概説票集及び説率の表（第二条、第五条、第九条、第十条、第十三条、第十五条—第十七条、第十七条の二—第十九条、第二十三条、第二十四条、第三十四条—第三十四条の二—第三十六条）

六關例

不動産の登記（不動産の信託の登記を含む。）

（一）（二）（三）（四）（五）

(二)
所有権の移転登記

口
共有物の分割による移転の登記 不動産の面額

その他的原因による移転の差額不動産の借客

イ
設定又は転貸の登記
不動産の価額

、
共にこの系の権利の分割による多云の登記

不動産の価額

(四) 地役権の設定の登記

（三）其外物种の保有権は、いわば公私共に同一のものであつて、公私共に同一の権利を有するものである。但し、公有地の場合は、公有地の所有者としての権利と、公有地の占有者としての権利とは、別個のものである。

え
そ
の
他
権
利
の
処
分
の
制
限
の
登
話

相続又は法人の合併による移転の登記

(七) 根抵当権の一部譲渡又は法人の分割による移転の登記	千分の一 額を除して計算した金額
(八) 抵当権の順位の変更の登記	千分の四 一件につき千円
(九) 貸借権の先順位抵当権に優先する同意の登記	千分の二 一件につき千円
(十) 信託の登記	千分の二 不動産の価額
イ 所有権の信託の登記	千分の四 不動産の価額
ロ 先取特権、質権又は抵当権の信託の登記	千分の二 債権金額又は極度金額
ハ その他の権利の信託の登記	千分の二 不動産の価額
(十一) 相続財産の分離の登記	千分の二 不動産の価額
イ 所有権以外の権利の分離の登記	千分の二 不動産の価額
(十二) 仮登記	千分の二 不動産の価額
イ 所有権の保存の仮登記又は保存の請求権の保全のための仮登記	千分の二 不動産の価額
ロ 所有権の移転の仮登記又は移転の請求権の保全のための仮登記	千分の二 不動産の価額
(一) 相続又は法人の合併による移転の仮登記又は移転の請求権の保全のための仮登記	千分の二 不動産の価額
(二) 共有物の分割による移転の仮登記又は移転の請求権の保全のための仮登記	千分の二 不動産の価額
(三) その他の原因による移転の仮登記又は移転の請求権の保全のための仮登記	千分の二 不動産の価額
ハ 地上権、永小作権、賃借権若しくは採石権の設定、転貸若しくは移転の仮登記又は設定、転貸若しくは移転の請求権の保全のための仮登記	千分の二 不動産の価額
(四) 設定若しくは転貸の仮登記又は設定若しくは転貸の請求権の保全のための仮登記	千分の二 不動産の価額
ニ 配偶者居住権の設定の仮登記	千分の二 不動産の価額
ホ 信託の仮登記又は信託の設定の請求権の保全のための仮登記	千分の二 不動産の価額
(一) 所有权の信託の仮登記又は信託の設定の請求権の保全のための仮登記	千分の二 不動産の価額
(二) 先取特権、質権若しくは抵当権の信託の仮登記又は信託の設定の請求権の保全のための仮登記	千分の二 不動産の価額
(三) その他の権利の信託の仮登記又は信託の設定の請求権の保全のための仮登記	千分の二 不動産の価額
ヘ 相続財産の分離の仮登記又は移転の請求権の保全のための仮登記	千分の二 不動産の価額
(一) 所有权の分離の仮登記又は移転の請求権の保全のための仮登記	千分の二 不動産の価額
(二) 所有权以外の権利の分離の仮登記又は移転の請求権の保全のための仮登記	千分の二 不動産の価額
ト その他の仮登記	千分の二 不動産の価額
(十三) 所有权の登記のある不動産の表示の変更の登記で次に掲げるもの イ 土地の分筆又は建物の分割若しくは区分による登記事項の変更の登記	千分の二 不動産の価額
ロ 土地の合筆又は建物の合併による登記事項の変更の登記	千分の二 不動産の価額
(十四) 付記登記、抹消された登記の回復の登記又は登記事項の更正若しくは変更の登記 (これらの登記のうち、(一) から(十三)までに掲げるもの及び土地又は建物の表示に関するものを除く。)	千分の二 不動産の価額
(十五) 登記の抹消 (土地又は建物の表題部の登記の抹消を除く。)	千分の二 不動産の価額
二 船舶の登記 (船舶の信託の登記を含む。)	千分の二 不動産の価額
(一) 所有权の保存の登記	千分の二 不動産の価額
(二) 所有权の移転の登記	千分の二 不動産の価額
イ 相続又は法人の合併による移転の登記	千分の二 不動産の価額
ロ 遺贈、贈与その他無償名義による移転の登記	千分の二 不動産の価額
船舶の価額	千分の四 千分の四十
船舶の価額	千分の二 千分の二十

ハ その他の原因による移転の登記	船舶の価額	千分の二十八
(三) 委付の登記	船舶の価額	千分の四
(四) 貸借権の設定、転貸又は移転の登記	船舶の価額	千分の一・五
(五) 抵当権の設定、強制競売若しくは競売に係る差押え、仮差押え、仮処分又は抵当付債権の差押えその他権利の処分の制限の登記	債権金額又は極度金額	千分の四
(六) 抵当権の移転の登記	債権金額又は極度金額	千分の二
イ 相続又は法人の合併による移転の登記	債権金額又は極度金額	千分の一
ロ その他の原因による移転の登記	債権金額又は極度金額	千分の一
(七) 根抵当権の一部譲渡又は法人の分割による移転の登記	債権金額又は極度金額	千分の四
(八) 抵当権の順位の変更の登記	債権金額又は極度金額	千分の一
(九) 貸借権の先順位抵当権に優先する同意の登記	債権金額又は極度金額	千分の二
(十) 信託の登記	債権金額又は極度金額	千分の一
イ 所有権の信託の登記	船舶の価額	千分の四
ロ 抵当権の信託の登記	船舶の価額	千分の一
ハ その他の権利の信託の登記	船舶の価額	千分の四
(十一) 仮登記	船舶の価額	千分の一
イ 所有権の移転の仮登記又は所有権の移転請求権の保全のための仮登記	船舶の価額	千分の四
ロ その他の仮登記	船舶の価額	千分の一
(十二) 付記登記、抹消された登記の回復の登記又は登記事項の更正若しくは変更の登記 (これらの登記のうち(一)から(十一)までに掲げるものを除く。)	船舶の価額	千分の二
(十三) 登記の抹消	船舶の価額	千分の一
三 航空機の登録 (航空機の信託の登録を含む。)	船舶の隻数	千分の一
(一) 新規登録又は移転登録	船舶の隻数	千分の四
(二) 抵当権の設定の登録	船舶の隻数	千分の二
(三) 抵当権の移転の登録	船舶の隻数	千分の一・五
(四) 根抵当権の一部譲渡又は法人の分割による移転の登録	船舶の隻数	千分の一
(五) 抵当権の順位の変更の登録	船舶の隻数	千分の一
(六) 信託の登録	船舶の隻数	千分の一
イ 抵当権の信託の登録	船舶の隻数	千分の一
ロ 抵当権以外の権利の信託の登録	船舶の隻数	千分の一
(七) 仮登記	船舶の隻数	千分の一
イ 所有権の移転の仮登記又は所有権の移転請求権の保全のための仮登記	船舶の隻数	千分の一
ロ その他の仮登記	船舶の隻数	千分の一
(八) 登記事項の変更の登録	船舶の隻数	千分の一
(九) 付記登記、抹消した登記の回復の登記又は登記の更正の登録 (これらの登記のうち(一)から(八)までに掲げるものを除く。)	船舶の隻数	千分の一
(十) 登記の抹消	船舶の隻数	千分の一
四 ダム使用権の登録 (ダム使用権の信託の登録を含む。)	ダム使用権の価額	千分の一
イ 相続又は法人の合併による移転の登録	ダム使用権の価額	千分の一
ロ その他の原因による移転の登録	ダム使用権の価額	千分の一
(三) 抵当権の設定、強制競売、競売、強制管理若しくは担保不動産収益執行に係る差押え、仮差押え、仮処分又は抵当付債権の差押えその他権利の処分の制限の登記	債権金額又は極度金額	千分の四

			□ 抵当権以外の権利の信託の登録
(八)	付記登録、仮登録、抹消した登録の回復の登録又は登録の更正若しくは変更の登録（これらの登録のうち（一）から（七）までに掲げるものを除く。）		□ 付記登録、仮登録、抹消した登録の回復の登録又は登録の更正若しくは変更の登録（これらの登録のうち（一）から（七）までに掲げるものを除く。）
(九)	登録の抹消		□ 登録の抹消
四の四	漁港水面施設運営権の登録（漁港水面施設運営権の信託の登録を含む。）		□ 漁港水面施設運営権の登録（漁港水面施設運営権の信託の登録を含む。）
(一)	設定の登録		□ 設定の登録
(二)	移転の登録		□ 移転の登録
(三)	相続又は法人の合併による移転の登録		□ 相続又は法人の合併による移転の登録
(四)	その他の原因による移転の登録		□ その他の原因による移転の登録
(五)	抵当権の設定、強制競売、競売、強制管理若しくは担保不動産収益執行に係る差押え、仮差押え、仮処分又は抵当付債権の差押えその他権利の処分の制限の登録		□ 抵当権の設定、強制競売、競売、強制管理若しくは担保不動産収益執行に係る差押え、仮差押え、仮処分又は抵当付債権の差押えその他権利の処分の制限の登録
(六)	抵当権の移転の登録		□ 抵当権の移転の登録
(七)	相続又は法人の合併による移転の登録		□ 相続又は法人の合併による移転の登録
(八)	その他の原因による移転の登録		□ その他の原因による移転の登録
(九)	根抵当権の一部譲渡又は法人の分割による移転の登録		□ 根抵当権の一部譲渡又は法人の分割による移転の登録
(一)	抵当権の順位の変更の登録		□ 抵当権の順位の変更の登録
(二)	信託の登録		□ 信託の登録
(三)	抵当権以外の権利の信託の登録		□ 抵当権以外の権利の信託の登録
(四)	抵当権の登録		□ 抵当権の登録
(五)	付記登録、仮登録、抹消した登録の回復の登録又は登録の更正若しくは変更の登録（これらの登録のうち（一）から（七）までに掲げるものを除く。）		□ 付記登録、仮登録、抹消した登録の回復の登録又は登録の更正若しくは変更の登録（これらの登録のうち（一）から（七）までに掲げるものを除く。）
(六)	登録の抹消		□ 登録の抹消
五	工場財団、鉱業財団、漁業財団、港湾運送事業財団、道路交通事業財団、自動車交通事業財団又は観光施設財団の登記		□ 工場財団、鉱業財団、漁業財団、港湾運送事業財団、道路交通事業財団、自動車交通事業財団又は観光施設財団の登記
(一)	所有権の保存の登記		□ 所有権の保存の登記
(二)	抵当権の設定、強制競売、競売、強制管理若しくは担保不動産収益執行に係る差押え、仮差押え、仮処分又は抵当付債権の差押えその他権利の処分の制限の登記		□ 抵当権の設定、強制競売、競売、強制管理若しくは担保不動産収益執行に係る差押え、仮差押え、仮処分又は抵当付債権の差押えその他権利の処分の制限の登記
(三)	抵当権の移転の登記		□ 抵当権の移転の登記
(四)	根抵当権の一部譲渡又は法人の分割による移転の登記		□ 根抵当権の一部譲渡又は法人の分割による移転の登記
(五)	抵当権の順位の変更の登記		□ 抵当権の順位の変更の登記
(六)	信託の登記		□ 信託の登記
(七)	付記登記、仮登記、抹消された登記の回復の登記又は登記事項の更正若しくは変更の登記（これらの登記のうち（一）から（六）までに掲げるものを除く。）		□ 付記登記、仮登記、抹消された登記の回復の登記又は登記事項の更正若しくは変更の登記（これらの登記のうち（一）から（六）までに掲げるものを除く。）
(八)	登記の抹消		□ 登記の抹消
六	企業担保権の登記（企業担保権の登記を含む。）		□ 企業担保権の登記（企業担保権の登記を含む。）
(一)	企業担保権の設定の登記		□ 企業担保権の設定の登記
(二)	企業担保権の移転の登記		□ 企業担保権の移転の登記
(三)	企業担保権の件数		□ 企業担保権の件数
(四)	信託の登記		□ 信託の登記
(五)	付記登記、仮登記、抹消された登記の回復の登記又は登記事項の更正若しくは変更の登記（これらの登記のうち（一）から（四）までに掲げるものを除く。）		□ 付記登記、仮登記、抹消された登記の回復の登記又は登記事項の更正若しくは変更の登記（これらの登記のうち（一）から（四）までに掲げるものを除く。）
(六)	登記の抹消		□ 登記の抹消
六の二	企業価値担保権の登記（企業価値担保権の信託の登記を含む。）		□ 企業価値担保権の登記（企業価値担保権の信託の登記を含む。）
(一)	企業価値担保権の設定の登記		□ 企業価値担保権の設定の登記
(二)	企業価値担保権の移転の登記		□ 企業価値担保権の移転の登記
(三)	申請件数		□ 申請件数
	債権金額 債権金額 企業担保権の件数 債権金額 申請件数		□ 債権金額 債権金額 企業担保権の件数 債権金額 申請件数
	千分の二・五 千分の一・五 千分の六千円 千分の一・五 千分の六千円 一件につき六千円		□ 千分の二・五 千分の一・五 千分の一・五 千分の一・五 千分の六千円 一件につき六千円
企业価値担保権の件数	申請件数		□ 申請件数
一件につき三万円	申請件数		□ 申請件数
	千分の二・五 千分の一・五 千分の六千円 千分の一・五 千分の六千円 一件につき六千円		□ 千分の二・五 千分の一・五 千分の一・五 千分の一・五 千分の六千円 一件につき六千円
企业価値担保権の件数	申請件数		□ 申請件数
一件につき千円	申請件数		□ 申請件数

(六) 登録の抹消

(十三) 特許権の登録(特許権の信託の登録を含む。)

(二) 特許権の移転の登録

イ 相続又は法人の合併による移転の登録

ロ その他の原因による移転の登録

(二) 専用実施権(仮専用実施権を含む。以下この号において同じ。)の設定又は保存の登録(仮専用実施権に係る特許出願について特許権の設定の登録があつたことに伴い当該仮専用実施権の設定行為で定めた範囲内において受けるものを除く。)

(三) 特許権若しくは専用実施権を目的とする質権の設定又は特許権、専用実施権若しくは当該質権の処分の制限の登録

(四) 専用実施権の移転又は特許権若しくは専用実施権を目的とする質権の設定又は特許権、専用実施権若しくは当該質権の処分の制限の登録

(五) 信託の登録

イ 質権の信託の登録

ロ 質権以外の権利の信託の登録

(六) 付記登録、仮登録、抹消した登録の回復の登録又は登録の更正若しくは変更の登録(これらの登録のうち(一)から(五)までに掲げるものを除く。)

(七) 登録の抹消

ロ その他の原因による移転の登録

(八) 実用新案権の登録(実用新案権の信託の登録を含む。)

(九) 実用新案権の移転の登録

イ 相続又は法人の合併による移転の登録

ロ その他の原因による移転の登録

(十) 専用実施権の設定又は保存の登録

(十一) 専用実施権の移転の登録

イ 相続又は法人の合併による移転の登録

(十二) 専用新案権若しくは専用実施権を目的とする質権の設定又は実用新案権、専用実施権若しくは当該質権の処分の制限の登録

(十三) 専用実施権の移転又は実用新案権若しくは専用実施権を目的とする質権の設定又は実用新案権、専用実施権若しくは当該質権の処分の制限の登録

(十四) 専用新案権の登録(実用新案権の信託の登録を含む。)

(十五) 意匠権の登録(意匠権の信託の登録を含み、国際登録簿への登録を除く。)

著作隣接権の件数

一件につき千円

一件につき三千円
一件につき一万五千円
一件につき一万五千円

千分の四

一件につき五百円
一件につき三千円
一件につき三千円

千分の四

一件につき五千円
一件につき五千円
一件につき五千円

千分の二

一件につき九千円
一件につき九千円
一件につき九千円

千分の四

一件につき三千円
一件につき三千円
一件につき三千円

千分の四

一件につき五百円
一件につき五百円
一件につき五百円

千分の四

一件につき三千円
一件につき三千円
一件につき三千円

千分の四

特許権の件数

特許権の件数

専用実施権の件数

特許権等の件数

特許権又は専用実施権(以下この号において「特許権等」という。)の件数

特許権等の件数

特許権又は専用実施権(以下この号において「特許権等」という。)の件数

特許権等の件数

一件につき千円

一件につき三千円

一件につき一万五千円

一件につき一万五千円

千分の四

一件につき千円

(八) 登録の抹消		回路配置利用権等の件数	
(一) 育成者権の登録	(育成者権の信託の登録を含む。)	育成者権の件数	育成者権の件数
(二) 育成者権の移転の登録	イ 相続又は法人の合併による移転の登録	育成者権の件数	育成者権の件数
(三) 専用利用権の設定又は保存の登録	ロ その他の原因による移転の登録	専用利用権の件数	専用利用権の件数
(四) 専用利用権の移転又は育成者権若しくは専用利用権を目的とする質権の設定又は育成者権、専用利用権若しくは当該質権の処分の制限の登録	イ 相続又は法人の合併による移転の登録	育成者権の件数	育成者権の件数
(五) 信託の登録	ロ その他の原因による移転の登録	専用利用権の件数	専用利用権の件数
イ 質権の信託の登録	イ 質権の信託の登録	債権金額	債権金額
ロ 質権以外の権利の信託の登録	ロ 質権以外の権利の信託の登録	育成者権等の件数	育成者権等の件数
(六) 付記登録、仮登録、抹消した登録の回復の登録又は登録の更正若しくは変更の登録 (これらの登録のうち (一) から (七) 登録の抹消	(六) 付記登録、仮登録、抹消した登録の回復の登録又は登録の更正若しくは変更の登録 (これらの登録のうち (一) から (五) までに掲げるものを除く。)	育成者権等の件数	育成者権等の件数
(七) 登録の抹消	(七) 登録の抹消	千分の二	千分の四
(八) 鉱業権又は租鉱権 (砂鉱を目的とするものを除く。以下この号において同じ。) の登録 (鉱業権又は租鉱権の信託の登録を含む。)	(一) 試掘権の設定の登録	一件につき三千円	一件につき九千円
(九) 鉱区の増減による試掘権の変更の登録	(二) 鉱区の増減による試掘権の変更の登録	一件につき五千円	一件につき九千円
(十) イ 鉱区の増加又は鉱区の増加及び減少による変更の登録 ロ 鉱区の減少による変更の登録	(三) イ 鉱区の増加又は鉱区の増加及び減少による変更の登録 ロ 鉱区の減少による変更の登録	一件につき三千円	一件につき九千円
(十一) (一) 試掘権の移転の登録	(四) 放棄による試掘権の消滅の登録	千分の二	千分の四
(十二) (二) 採掘権の設定の登録	(五) 採掘権の移転の登録	一件につき三千円	一件につき九千円
(十三) (三) 相続又は法人の合併による移転の登録	(六) 鉱区の増減、合併又は分割による採掘権の変更の登録	一件につき三千円	一件につき九千円
(十四) (四) その他の原因による移転の登録	(七) ハ 鉱区の合併による変更の登録	一個につき九千円	一個につき三千円
(十五) (五) 採掘権の移転の登録	(八) 放棄による採掘権の消滅の登録	一個につき九万円	一個につき五千円
(十六) (六) 相続又は法人の合併による移転の登録	(九) 租鉱権の設定の登録	一個につき四万五千円	一個につき三千円
(十七) (七) その他の原因による移転の登録	(十) 租鉱区の増減による移転の登録	一個につき一万八千円	一個につき五千円
(十八) (八) 放棄による採掘権の消滅の登録	(十一) 租鉱権の移転の登録	一個につき六千円	一個につき三千円
(十九) (九) 租鉱権の設定の登録	(十二) 存続期間の満了前の租鉱権の消滅の登録	一個につき九千円	一個につき五千円
(二十) (十) 相続又は法人の合併による移転の登録	(二十一) 租鉱区の増減による移転の登録	一個につき千八百円	一個につき三百円
(二十一) (十一) その他の原因による移転の登録	(二十二) 租鉱区の増減による変更の登録	一個につき六千円	一個につき一千円
(二十二) (十二) 存続期間の満了前の租鉱権の消滅の登録	(二十三) 抵当権の設定又は鉱業権若しくは抵当権の処分の制限の登録	一個につき九千円	一個につき一千円
(二十三) (十三) 抵当権の設定又は鉱業権若しくは抵当権の処分の制限の登録	(二十四) 債権金額又は極度金額	千分の四	千分の四

（十六）付記登録、仮登録、抹消した登録の回復の登録又は登録の更正若しくは変更の登録（これらの登録のうち （二）から（十五）までに掲げるものを除く。）		鉱区又は租鉱区の数
（十七）登録の抹消		一個につき千円
（二十一）鉱業法第一百四条第二項（予定された損害賠償額の登録）の規定による登録	損害賠償の支払金額 不動産の個数 不動産の個数	十萬平方メートルにつき三百円 一個につき十二万円
（二）新規登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき三十円
（二）抹消した登録の回復又は登録の更正若しくは変更の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき百五十円
（三）登録の抹消	共同開発鉱区の面積	一個につき六万円
（二十二）特定鉱業権の登録（特定鉱業権の信託の登録を含む。）	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき一千四百円
（一）探査権の設定の登録	共同開発鉱区の面積	百円
（二）探査権の共同開発鉱区の減少の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二十四万円
（三）探査権の移転の登録	共同開発鉱区の面積	一個につき二十四万円
（四）相続又は法人の合併による移転の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき一百四十円
（五）放棄による探査権の消滅の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき一千四百円
（六）探掘権の存続期間の延長の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき三百円
（七）探掘権の共同開発鉱区の減少の登録	共同開発鉱区の面積	一個につき十二万円
（八）探掘権の移転の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき三十円
（九）相続又は法人の合併による移転の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき百五十円
（十）放棄による探掘権の消滅の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき一千四百円
（十一）抵当権の設定又は特定鉱業権若しくは抵当権の処分の制限の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二千四百円
（十二）順位の変更による抵当権の変更の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二百四十円
（十三）順位の変更による抵当権の変更の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき一百四十円
（十四）抵当権の移転の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二千四百円
（十五）相続又は法人の合併による移転の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二千四百円
（十六）放棄による移転の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二千四百円
（十七）抵当権の信託の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二千四百円
（十八）抵当権以外の権利の信託の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二千四百円
（十九）その他の原因による移転の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二千四百円
（二十）特定鉱業権共有者の脱退の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二千四百円
（二十一）付記登録、仮登録、抹消した登録の回復の登録又は登録の更正若しくは変更の登録（これらの登録のうち （二）から（十五）までに掲げるものを除く。）	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二千四百円
（二十二）登録の抹消	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二千四百円
（二十二の二）試掘権又は貯留権の登録（試掘権又は貯留権の信託の登録を含む。）	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二千四百円
（一）試掘権の設定の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二千四百円
（二）試掘権の増減による試掘権の変更の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二千四百円
（三）試掘権の移転の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二千四百円
（四）相続又は法人の合併による移転の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二千四百円
（五）放棄による移転の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二千四百円
（六）貯留権の設定の登録	共同開発鉱区の面積	十萬平方メートルにつき二千四百円
（七）試掘区域の数	試掘区域の数	一個につき九万円
（八）試掘区域の数	試掘区域の数	一個につき四万五千円
（九）試掘区域の数	試掘区域の数	一個につき六千円
（十）試掘区域の数	試掘区域の数	一個につき二万円
（十一）試掘区域の数	試掘区域の数	一個につき九千円
（十二）試掘区域の数	試掘区域の数	一個につき四万五千円
（十三）試掘区域の数	試掘区域の数	一個につき十八万円

(五) 貯留区域の増減、合併又は分割による貯留権の変更の登録	貯留区域の数
(六) 貯留権の移転の登録	貯留区域の数
(イ) 貯留区域の減少による変更の登録	貯留区域の数
(ロ) 貯留区域の合併による変更の登録	合併後の貯留区域の数
(ハ) 貯留区域の分割による変更の登録	分割後の貯留区域の数
(九) 順位の変更による抵当権の変更の登録 (八) に掲げる登録を除く。)	一個につき九万円
(十) 抵当権の設定又は試掘権、貯留権若しくは抵当権の処分の制限の登録	一個につき一万二千円
(イ) 相続又は法人の合併による移転の登録	一個につき四万五千円
(ロ) その他の原因による移転の登録	一個につき四万五千円
(十一) 順位の変更による抵当権の変更の登録	一個につき九万円
(十二) 信託の登録	一個につき三万円
(イ) 抵当権の移転の登録	一個につき一万余円
(ロ) 相続又は法人の合併による移転の登録	一個につき九万円
(ハ) 二酸化炭素の貯留事業に関する法律第十六条第五項(許可貯留区域の分割及び合併の許可の申請)の承諾及び協定に係る抵当権の変更の登録	一個につき三万円
(十三) 順位の変更による抵当権の変更の登録	一個につき六千円
(十四) 登録の抹消	一個につき一千円
(二十三) 漁業権又は入漁権の登録(漁業権又は入漁権の信託の登録を含む。)	一個につき四千五百円
(二) 漁業権の移転の登録	一個につき九千円
(イ) 相続又は法人の合併による移転の登録	一個につき九千円
(ロ) その他の原因による移転の登録	一個につき九千円
(二) 漁業権の持分の移転の登録	一個につき三千円
(イ) 相続又は法人の合併による移転の登録	一個につき三千円
(ロ) その他の原因による移転の登録	一個につき三千円
(三) 入漁権の設定の登録	一個につき六千円
(四) 入漁権の保存の登録	一個につき一千円
(五) 入漁権の移転の登録	一個につき一千五百円
(イ) 相続又は法人の合併による移転の登録	一個につき一千五百円
(ロ) その他の原因による移転の登録	一個につき一千五百円
(六) 入漁権の持分の移転の登録	一個につき五百円
(イ) 相続又は法人の合併による移転の登録	一個につき五百円
(ロ) その他の原因による移転の登録	一個につき五百円
(七) 先取特権の保存、抵当権の設定、強制競売、競売、強制管理若しくは担保不動産収益執行に係る差押え、仮処分、仮処分又は抵当債権の差押えその他権利の処分の制限の登録	一件につき千五百円
(イ) 相続又は法人の合併による移転の登録	一件につき三千円
(ロ) その他の原因による移転の登録	一件につき三千円
(九) 抵当権の順位の変更の登録	千分の四
(十) 信託の登録	千分の二
(イ) 先取特権及び抵当権の信託の登録	千分の二
(ロ) 先取特権及び抵当権以外の権利の信託の登録	千分の二
(十一) 債権金額又は極度金額	一件につき四千五百円
(イ) 債権金額又は極度金額	一件につき四千五百円
(ロ) 債権金額又は極度金額	一件につき四千五百円
(十二) 漁業権の件数	一個につき一千五百円
(イ) 漁業権の件数	一個につき一千五百円
(ロ) 漁業権の件数	一個につき一千五百円
(十三) 入漁権の件数	一個につき五百円
(イ) 入漁権の件数	一個につき五百円
(ロ) 入漁権の件数	一個につき五百円
(十四) 入漁権の件数	一個につき五百円
(イ) 入漁権の件数	一個につき五百円
(ロ) 入漁権の件数	一個につき五百円
(十五) 金額	一千円
(イ) 金額	一千円
(ロ) 金額	一千円
(十六) 漁業権の件数	一千円
(イ) 漁業権の件数	一千円
(ロ) 漁業権の件数	一千円
(十七) 債権金額、極度金額又は工事費用の予算	一千円
(イ) 債権金額、極度金額又は工事費用の予算	一千円
(ロ) 債権金額、極度金額又は工事費用の予算	一千円

(十一) 付記登録、仮登録、抹消した登録の回復の登録又は登録の更正若しくは変更の登録 (これらの登録のうち （一）から（十）までに掲げるものを除く。)		漁業権又は入漁権の件数	一件につき千円
(十二) 登録の抹消			
ロ 合名会社又は外國会社の商業登記（保険業法の規定によつてする相互会社及び外国相互会社の登記並びに一般社団法人及び一般財團法人（公益社団法人を除く。以下この号において同じ。）及び一般財團法人（公益財團法人を除く。以下この号において同じ。）の登記を含む。）	資本金の額 (これによつて計算した税額が十五万円に満たないときは、申請件数一件につき十五万円) 申請件数	一千分の七 一件につき六万円	一件につき千円
ハ 合同会社の設立の登記（ホ及びトに掲げる登記を除く。）	資本金の額 (これによつて計算した税額が六万円に満たないときは、申請件数一件につき六万円) 申請件数	一千分の七 一件につき六万円	一件につき千円
二 株式会社又は合同会社の資本金の増加の登記（ヘ及びチに掲げる登記を除く。）	資本金の額 (これによつて計算した税額が三万円に満たないときは、申請件数一件につき三万円) 申請件数	一千分の七 一千分の七 一件につき六万円	一件につき千円
ホ 新設合併又は組織変更若しくは種類の変更による株式会社又は合同会社の設立の登記	資本金の額 (これによつて計算した税額が六万円に満たないときは、申請件数一件につき六万円) 申請件数	一千分の七 一千分の七 一件につき六万円	一件につき千円
チ 吸收合併による株式会社又は合同会社の資本金の増加の登記	資本金の額 (これによつて計算した税額が三万円に満たないときは、申請件数一件につき三万円) 申請件数	一千分の七 一千分の七 一千分の七 一千分の七 一千分の七 一千分の七	一件につき千円
ト 新設分割による株式会社又は合同会社の設立の登記	資本金の額 (これによつて計算した税額が三万円に満たないときは、申請件数一件につき三万円) 申請件数	一千分の七 一千分の七 一千分の七 一千分の七 一千分の七 一千分の七	一件につき千円
チ 吸收分割による株式会社又は合同会社の資本金の増加の登記	資本金の額 (これによつて計算した税額が三万円に満たないときは、申請件数一件につき三万円) 申請件数	一千分の七 一千分の七 一千分の七 一千分の七 一千分の七 一千分の七	一件につき千円
ト 新設予約権の発行による変更の登記	資本金の額 (これによつて計算した税額が三万円に満たないときは、申請件数一件につき三万円) 申請件数	一千分の七 一千分の七 一千分の七 一千分の七 一千分の七 一千分の七	一件につき千円
支店又は従たる事務所の設置の登記	支店又は従たる事務所の数 本店若しくは主たる事務所又は支店若しくは従たる事務所の移転の登記	支店又は従たる事務所の数 本店若しくは主たる事務所又は支店若しくは従たる事務所の数	

	申請件数	申請件数	申請件数	申請件数
(一) 個人につきその支店の所在地においてする登記	一件につき九千円	一件につき六千円	一件につき三万円	一件につき六千円
イ (二) イから三までに掲げる登記				
ロ (二) 本に掲げる登記又は登記の抹消				
三十 船舶管理人の登記				
(一) 船舶管理人の選任又はその代理権の消滅の登記				
(二) 抹消された登記の回復の登記又は登記事項の更正若しくは変更の登記				
三十一 夫婦財産契約の登記				
(一) 民法(明治二十九年法律第八十九号)第七百五十六条(夫婦財産契約の対抗要件)の登記	一件につき一万八千円	一件につき六千円	一件につき三千円	一件につき六千円
(二) 登記事項の更正又は変更の登記				
(三) 登記の抹消				
三十二 人の資格の登録若しくは認定又は技能証明				
(注) 社会保険労務士法(昭和四十三年法律第八十九号)第十四条の十一の三第一項(紛争解決手続代理業務の付記)の規定により社会保険労務士の登録にする紛争解決手続代理業務試験に合格した旨の付記は、新たな当該登録とみなし、作業環境測定法(昭和五十年法律第二十八号)第七条(登録)の第二種作業環境測定士の登録を受けている者が、同法第五条(作業環境測定士の資格)の規定により第一種作業環境測定士となる資格を有することとなつたことに伴い作業環境測定士登録証の書換えの申請をした場合における当該書換えは、新たな同法第七条の第一種作業環境測定士の登録とみなす。				
(一) 公認会計士の登録				
イ 公認会計士法(昭和二十三年法律第三号)第十七条(登録)の公認会計士の登録	一件につき六万円	一件につき六万円	一件につき六万円	一件につき六万円
ロ 公認会計士法第十六条の二第一項(外国で資格を有する者の特例)の外国公認会計士の登録	一件につき六万円	一件につき六万円	一件につき六万円	一件につき六万円
(二) 行政書士法(昭和二十六年法律第四号)第六条第一項(登録)の行政書士の登録	一件につき三万円	一件につき三万円	一件につき三万円	一件につき三万円
(二の二) 政治資金規正法(昭和二十三年法律第九十四号)第十九条の十八(登録)の登録政治資金監査人の登録	一件につき一万五千円	一件につき一万五千円	一件につき一万五千円	一件につき一万五千円
(三) 弁護士法(昭和二十四年法律第二百五号)第八条(弁護士の登録)の弁護士の登録	一件につき六万円	一件につき六万円	一件につき六万円	一件につき六万円
(四) 外国弁護士による法律事務の取扱い等に関する法律(昭和六十一年法律第六十六号)第二十五条第一項(登録)の外国法事務弁護士の登録	一件につき六万円	一件につき六万円	一件につき六万円	一件につき六万円
(五) 司法書士の登録又は認定				
イ 司法書士法(昭和二十五年法律第一百九十七号)第八条第一項(司法書士名簿の登録)の司法書士の登録	登録件数	登録件数	登録件数	登録件数
ロ 司法書士法第三条第二項第二号(簡裁訴訟代理等関係業務の認定)の認定	登録件数	登録件数	登録件数	登録件数
(六) 土地家屋調査士の登録又は認定				
イ 土地家屋調査士法(昭和二十五年法律第二百二十八号)第八条第一項(土地家屋調査士名簿の登録)の土地家屋調査士の登録	登録件数	登録件数	登録件数	登録件数
ロ 土地家屋調査士法第三条第二項第二号(民間紛争解決手続代理関係業務の認定)の認定	登録件数	登録件数	登録件数	登録件数
(七) 税理士法(昭和二十六年法律第二百三十七号)第十八条(登録)の税理士の登録	登録件数	登録件数	登録件数	登録件数
(八) 技術士法(昭和五十八年法律第二十五号)第三十二条第一項又は第二項(登録)の技術士又は技術士補の登録	登録件数	登録件数	登録件数	登録件数
イ 技術士の登録				
ロ 技術士補の登録				
(八の二) 公認心理師法(平成二十七年法律第六十八号)第二十八条(登録)の公認心理師の登録	一件につき三万円	一件につき三万円	一件につき三万円	一件につき三万円
(九) 法令の規定により国の行政機関に備える名簿にする次に掲げる登録	一件につき五千円	一件につき五千円	一件につき五千円	一件につき五千円
イ 次に掲げる者の新規登録				
(一) 医師又は歯科医師の登録	一件につき六万円	一件につき六万円	一件につき六万円	一件につき六万円
(2) 薬剤師の登録				
(3) 保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士、診療放射線技師、臨床検査技師、視能訓練士、臨床工学	一件につき六万円	一件につき六万円	一件につき六万円	一件につき六万円
(十) 技士又は義肢装具士の登録	一件につき九千円	一件につき九千円	一件につき九千円	一件につき九千円
イ 歯科衛生士法(昭和二十三年法律第二百四号)による歯科衛生士名簿にする登録	一件につき九千円	一件につき九千円	一件につき九千円	一件につき九千円
ロ 登録事項の変更の登録				
(十一) 歯科技工士法(昭和三十年法律第六十八号)による歯科技工士名簿にする登録	一件につき千円	一件につき千円	一件につき千円	一件につき千円

(二十四) 弁理士法(平成十二年法律第四十九号)第十七条第一項(登録)の弁理士の登録

(二十五) 船舶職員及び小型船舶操縦者法(昭和二十六年法律第二百四十九号)による海技士免許原簿にする登録
イ 船舶職員及び小型船舶操縦者法第七条第一項(登録及び海技免状)の海技士で次に掲げるものの新規登録
(1) 一級海技士(航海)の登録

(2) 二級海技士(航海)又は三級海技士(航海)の登録

(3) 四級海技士(航海)の登録

(4) 五級海技士(航海)の登録

(5) 六級海技士(航海)の登録

(6) 一級海技士(機関)の登録

(7) 二級海技士(機関)又は三級海技士(機関)の登録

(8) 四級海技士(機関)の登録

(9) 五級海技士(機関)の登録

(10) 六級海技士(機関)の登録

(11) 一級海技士(通信)の登録

(12) 二級海技士(通信)の登録

(13) 三級海技士(通信)の登録

(14) 一級海技士(電子通信)、二級海技士(電子通信)又は三級海技士(電子通信)の登録

(15) 四級海技士(電子通信)の登録

ロ イに規定する者に係る登録事項の変更の登録

(一) 一級水先人の登録

(2) 二級水先人の登録

(3) 三級水先人の登録

ロ イに規定する者に係る登録事項の変更の登録

(三十八) 海難審判法(昭和二十二年法律第三百三十五号)第二十一条第一項(登録)の海事補佐人の登録

(三十九) 海事代理士法(昭和二十六年法律第三十二号)第九条第一項(登録)の海事代理士の登録

(四十) 航空法(昭和二十七年法律第二百三十一号)第二十二条(航空従事者技能証明)の航空従事者技能証明、同法第二百三十二条の四十(技能証明の実施)の無人航空機操縦者技能証明、同法第十条の二第一項(耐空証明)の耐空検査員の認定又は同法第七十一条の三第一項(特定操縦技能の審査)の操縦技能審査員の認定定期運送用操縦士の技能証明

イ 事業用操縦士の技能証明

ハ 自家用操縦士の技能証明

ニ 準定期運送用操縦士の技能証明

ト 一等航空士又は航空機関士の技能証明

ヌ 二等航空整備士の技能証明

チ 二等航空通信士の技能証明

リ 二等航空整備士の技能証明

ヌ 二等航空運航整備士の技能証明

ト 二等航空工場整備士の技能証明

ワ一等無人航空機操縦士の技能証明（更新の技能証明を除く。）

カ力耐空検査員の認定
ヨ操縦技能審査員の認定

(三十二) 不動産鑑定士の登録

イ 不動産の鑑定評価に関する法律（昭和三十八年法律第百五十二号）第十五条（登録）の不動産鑑定士の登録

ロ 不動産の鑑定評価に関する法律第十八条（変更の登録）の変更の登録

(三十三) 建築士法（昭和二十五年法律第二百二号）第五条第一項（登録）の一級建築士の登録

(三十四) 建築基準法（昭和二十五年法律第二百一号）第七十七条の五十八第一項（登録）の建築基準適合判定資格者の登録又は同法第七十七条の六十六第一項（構造計算適合判定資格者の登録）の構造計算適合判定資格者の登録

ハ 構造計算適合判定資格者の登録

(三十五) マンションの管理の適正化の推進に関する法律（平成十二年法律第百四十九号）第三十条第一項（登録）のマンション管理士の登録

(三十六) 測量法（昭和二十四年法律第百八十八号）第四十九条第一項（測量士及び測量士補の登録）の測量士又は測量士補の登録

イ 測量士の登録

ロ 測量士補の登録

(三十七) 認定匿名加工医療情報作成事業者、認定仮名加工医療情報作成事業者、認定匿名加工医療情報利用事業者又は認定医療情報等取扱受託事業者の認定

(一) 医療分野の研究開発に資するための匿名加工医療情報及び仮名加工医療情報に関する法律（平成二十九年法律第二十八号）第九条第一項（認定）の認定匿名加工医療情報作成事業者の認定

(二) 医療分野の研究開発に資するための匿名加工医療情報及び仮名加工医療情報に関する法律第三十三条（認定）の認定仮名加工医療情報作成事業者の認定

(三) 医療分野の研究開発に資するための匿名加工医療情報及び仮名加工医療情報に関する法律第四十一条（認定）の認定仮名加工医療情報利用事業者の認定

(四) 医療分野の研究開発に資するための匿名加工医療情報及び仮名加工医療情報に関する法律第四十五条（認定）の認定医療情報等取扱受託事業者の認定

(三十八) 認定個人情報保護団体の認定

個人情報の保護に関する法律（平成十五年法律第五十七号）第四十七条第一項（認定）の認定個人情報保護団体の認定（政令で定めるものに限る。）

(三十九) 警備員等に係る登録講習機関の登録

警備業法（昭和四十七年法律第百十七号）第二十三条第三項（登録講習機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）

(四十) インターネット異性紹介事業者に係る登録誘引情報提供機関の登録

インターネット異性紹介事業を利用して児童を誘引する行為の規制等に関する法律（平成十五年法律第八十三号）第十八条第一項（登録誘引情報提供機関の登録）の登録誘引情報提供機関の登録

(四十一) カジノ事業若しくはカジノ施設供用事業の免許、カジノ関連機器等製造業等の許可又はカジノ関連機器等輸入業、カジノ関連機器等販売業又はカジノ関連機器等修理業の許可（更新の許可を除く。）

(四十二) 特定複合観光施設区域整備法（平成三十年法律第八十号）第三十九条（免許等）のカジノ事業の免許（更新の免許を除く。）

(四十三) 特定複合観光施設区域整備法第二十四条（免許）のカジノ施設供用事業の免許（更新の免許を除く。）

(四十四) 特定複合観光施設区域整備法（平成三十年法律第八十号）第三十九条（免許等）のカジノ事業の免許（更新の免許を除く。）

(四十五) 銀行等の営業若しくは事業の免許若しくはその支店その他の営業所等に係る認可若しくは登録又は銀行持株会社等に係る認可

技能証明の件数
認定件数
認定件数

登録件数
登録件数
登録件数

(三) 労働金庫法第八十九条の五第一項（登録）の労働金庫電子決済等代行業者の登録	登録件数	一件につき九万円
(四) 協同組合による金融事業に関する法律第六条の五の二第一項（信用協同組合電子決済等代行業の登録）の信用協同組合電子決済等代行業者の登録	登録件数	一件につき九万円
(五) 銀行法第五十二条の六十一の十九（認定電子決済等代行業者協会の認定）の認定電子決済等代行業者協会の認定	登録件数	一件につき十五万円
(六) 信用金庫法第八十五条の九（認定信用金庫電子決済等代行業者協会の認定）の認定信用金庫電子決済等代行業者協会の認定	登録件数	一件につき十五万円
(七) 労働金庫法第八十九条の十（認定労働金庫電子決済等代行業者協会の認定）の認定労働金庫電子決済等代行業者協会の認定	登録件数	一件につき十五万円
(八) 協同組合による金融事業に関する法律第六条の五の七（認定信用協同組合電子決済等代行業者協会の認定）の認定信用協同組合電子決済等代行業者協会の認定	登録件数	一件につき十五万円
三十七 保険会社等の事業等に係る免許、登録若しくは認可、保険仲立人若しくは特定保険募集人の登録又は保険持株会社に係る認可	認定件数	一件につき十五万円
(注) 保険業法第二百七十六条（登録）の特定保険募集人の登録を受けている者（当該登録に係る同法第二条第二十四項（定義）に規定する所属保険会社等からの委託又は同法第二百七十五条第三項（保険募集の制限）に規定する保険募集再委託者からの再委託を受けていない者に限る。）が、当該所属保険会社等からの委託又は当該保険募集再委託者からの再委託を受けたことに伴い同法第二百八十一条第一項第一号（変更等の届出等）の規定による届出をした場合における同条第二項の規定による登録は、新たな同法第二百七十六条の特定保険募集人の登録とみなす。	認定件数	一件につき十五万円
(一) 保険業法第三条第一項（免許）、第八十五条第一項（免許）又は第二百十九条第一項（免許）の規定による保険業の新規免許	免許件数	一件につき十五万円
(二) 保険業法第二百七十二条第一項（登録）の少額短期保険業者の登録	登録件数	一件につき十五万円
(三) 保険業法等の一部を改正する法律（平成十七年法律第三十八号）附則第二条第一項（特定保険業を行つていた一般社団法人等に関する特例）の特定保険業の認可（国の行政機関による認可として政令で定めるものに限る。）	認可件数	一件につき十五万円
(四) 保険業法第二百八十六条（登録）の保険仲立人の登録	登録件数	一件につき九万円
(五) 保険業法第二百七十六条の特定保険募集人の登録（同法第二条第二十四項に規定する所属保険会社等からの委託又は同法第二百七十五条第三項に規定する保険募集再委託者からの再委託（一時的な必要に基づき期限を付して行われる委託又は再委託で財務省令で定めるものを除く。）を受けた者に係るものに限る。）	登録件数	一件につき一万五千円
(六) 保険業法第九十九条第七項（業務の範囲等）の保険金信託業務の認可	認可件数	一件につき十五万円
(七) 保険業法第二百七十二条の十八第一項又は第三項ただし書（保険持株会社に係る認可等）の認可	登録件数	一件につき十五万円
三十八 信託会社若しくは外国信託会社の信託業の免許若しくは登録又は自己信託に係る事務に係る事務を行つう者、特定大学技術移転事業承認事業者若しくは信託業法（平成十六年法律第百五十四号）第三条（免許）又は第五十三条第一項（免許）の規定による信託業の免許	免許件数	一件につき十五万円
(一) 信託業法（平成十六年法律第百五十四号）第三条（免許）又は第五十三条第一項（免許）の規定による信託業の免許	認可件数	一件につき十五万円
(二) 信託業法第七条第一項（登録）の管理型信託会社の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	一件につき十五万円
(三) 信託業法第五十四条第一項（登録）の管理型外国信託会社の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	一件につき十五万円
(四) 信託業法第五十条の二第一項（信託法第三条第三号に掲げる方法によつてする信託についての特例）の自己信託に係る事務に係る事務の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	一件につき十五万円
(五) 信託業法第五十二条第一項（特定大学技術移転事業に係る信託についての特例）の特定大学技術移転事業承認事業者の登録	登録件数	一件につき十五万円
(六) 信託業法第六十七条第一項（登録）の信託契約代理店の登録	登録件数	一件につき十五万円
三十九 相保付社債に関する信託事業の免許	免許件数	一件につき十五万円
担保付社債信託法第三条（免許）の担保付社債に関する信託事業の免許	免許件数	一件につき十五万円
三十九の二 企業価値担保権に関する信託業務の免許	免許件数	一件につき十五万円
事業性融資の推進等に関する法律（令和六年法律第二号）第三十二条（免許）の企業価値担保権に関する信託業務の免許	免許件数	一件につき十五万円
四十 金融商品市場の開設の免許、算定期割当量に係る取引を行う市場の開設等の認可、組織変更の認可、店頭売買有価証券市場の開設の認可、外国市場取引の認可、金融商品取引所持株会社に係る認可、認定金融商品取引業協会若しくは認定投資者保護団体の認定又は自主規制業務の認可	免許件数	一件につき十五万円
(一) 金融商品取引法第八十条第一項（免許）の金融商品市場の開設の免許	免許件数	一件につき十五万円

		出張所又は代理店の数		一箇所につき九万円	
		登録件数		登録件数	
(一)	無尽業法第七条第三号（認可）の無尽会社の出張所又は代理店の設置の認可				
(二)	金融サービス仲介業者の登録又は認定金融サービス仲介業協会の認定				
(三)	金融サービスの提供及び利用環境の整備等に関する法律（平成十二年法律第一百一号）第十二条（登録）の金融サービス仲介業者の登録				
(四)	金融サービスの提供及び利用環境の整備等に関する法律（平成十二年法律第一百一号）第十六条第一項（変更登録等）の変更登録（同法第十一条第一項（登録の申請）の業務の種別の増加に係るものに限る。）				
(五)	金融サービスの提供及び利用環境の整備等に関する法律（平成十二年法律第一百一号）第十四条第一項（登録送信適正化機関の登録）の認定				
(六)	第三者型前払式支払手段の発行者の登録、資金移動業者の登録、電子決済手段等取引業者の登録、暗号資産交換業者の登録、為替取引分析業者の許可、資金清算業の免許又は認定資金決済事業者協会の認定				
(七)	資金決済に関する法律（平成二十一年法律第五十九号）第七条（第三者型発行者の登録）の第三者型前払式支払手段の発行者の登録				
(八)	資金決済に関する法律（平成二十一年法律第五十九号）第七条（第三者型発行者の登録）の電子決済手段等取引業者の登録				
(九)	資金決済に関する法律（平成二十一年法律第五十九号）第七条（第三者型発行者の登録）の暗号資産交換業者の登録				
(十)	資金決済に関する法律（平成二十一年法律第五十九号）第七条（第三者型発行者の登録）の為替取引分析業者の許可				
(十一)	資金決済に関する法律（平成二十一年法律第五十九号）第七条（第三者型発行者の登録）の資金清算業の免許				
(十二)	有限責任監査法人若しくは登録上場会社等監査人の登録又は公認会計士に係る実務補習団体等の認定				
(十三)	公認会計士法第三十四条の二十四（有限責任監査法人の登録）の登録				
(十四)	公認会計士法第三十四条の三十四の二（登録上場会社等監査人の登録）の登録				
(十五)	公認会計士法第十六条第一項（実務補習）の実務補習団体等の認定				
(十六)	五十の二 消費生活相談員に係る登録試験機関の登録				
(十七)	消費者安全法（平成二十一年法律第五十号）第十条の三第一項（登録試験機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数	登録件数
(十八)	五十の三 被害回復裁判手続に係る特定適格消費者団体の認定				
(十九)	消費者の財産的被害等の集団的な回復のための民事の裁判手続の特例に関する法律（平成二十五年法律第九十六号）	認定件数	登録件数	登録件数	登録件数
(二十)	第五十一条第一項（特定適格消費者団体の認定）の認定（更新の認定を除く。）				
(二十一)	電気通信事業者の登録若しくは認定送信型対電気通信設備サイバー攻撃対処協会の認定又は電気通信主任技術者に係る登録講習機関の登録若しくは端末機器に係る登録認定機関の登録（注）電子委任状の普及の促進に関する法律（平成二十九年法律第六十四号）第十条第一項又は第一項（電気通信事業法の特例）の規定により電気通信事業者の登録又は変更登録を受けたものとみなされる場合における同法第五条第一項（電子委任状取扱業務の認定）の規定による認定電子委任状取扱事業者の認定又は同法第八条第一項（変更の認定等）の規定による認定電子委任状取扱事業者の変更の認定は、当該登録又は変更登録とみなす。				
(二十二)	電気通信事業法（昭和五十九年法律第八十六号）第九条（電気通信事業の登録）の電気通信事業者の登録（更新の登録を除く。）又は同法第十三条第一項（変更登録等）（同条第二項の規定により読み替えて適用する場合を含む。）の変更登録（同法第十条第一項第三号（電気通信事業の登録）の登録認定機関の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数	登録件数
(二十三)	電気通信設備サイバー攻撃対処協会の認定送信型対電気通信事業法（昭和五十九年法律第八十六号）第九条（電気通信事業の登録）の電気通信事業者の登録（更新の登録を除く。）				
(二十四)	電気通信事業法第八十条の二第一項（登録講習機関の登録）の登録講習機関の登録（更新の登録を除く。）				
(二十五)	電気通信事業法第八十条第一項（登録認定機関の登録）の登録認定機関の登録（更新の登録を除く。）				
(二十六)	特定電子メール等に係る登録送信適正化機関の登録				
(二十七)	特定電子メールの送信の適正化等に関する法律（平成十四年法律第二十六号）第十四条第一項（登録送信適正化機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数	登録件数
(二十八)	電子署名に係る認定認証事業者又は認定外国認証事業者の認定				

通関業法（昭和四十二年法律第百二十二号）第三条第一項（通関業の許可）の通関業の許可		許可件数	一件につき九万円
(二) 酒税法第七条第一項（酒類の製造免許）の規定による酒類の製造免許（試験のためにする酒類の製造免許その他の政令で定める製造免許を除く。）		免許件数	一件につき十五万円
(二) 酒税法第八条（酒母等の製造免許）の規定による酒母又はもろみの製造免許		免許件数	一件につき十二万円
イ 酒母の製造免許 ロ もろみの製造免許		免許件数	一件につき九万円
(三) 酒税法第九条第一項（酒類の販売業免許）の酒類の販売業又は販売の代理業若しくは媒介業の免許（同条第二項の規定により期限を付して行う免許を除く。）		免許件数	一件につき三万円
イ 酒類の販売業の免許で当該免許に係る酒類の全品目の販売方法につき小売に限る旨の条件の付されたもの ロ 酒類の販売業又は販売の代理業若しくは媒介業の免許（イ又はハに該当する販売業の免許を除く。） ハ イに掲げる免許に付された小売に限る旨の条件の解除		免許件数	一件につき九万円
六十六 製造たばこの販売に係る登録又は許可		免許件数	一箇所につき六万円
(一) たばこ事業法（昭和五十九年法律第六十八号）第十二条第一項（製造たばこの特定販売業の登録）の規定による製造たばこの特定販売業の登録		登録件数	一件につき十五万円
(二) たばこ事業法第二十条（製造たばこの卸売販売業の登録）の規定による製造たばこの卸売販売業の登録		登録件数	一件につき九万円
(三) たばこ事業法第二十二条第一項（製造たばこの小売販売業の許可）の規定による製造たばこの小売販売業の許可（同法第二十四条第一項（許可の条件等）の規定による期限が付された許可を除く。）		登録件数	一件につき一万五千円
(四) たばこ事業法第二十六条第一項（出張販売）の規定による製造たばこの小売販売の許可（同条第二項において準用する同法第二十四条第一項の規定による期限が付された許可を除く。）		登録件数	一件につき三千円
六十七 塩製造業者・塩特定販売業者又は塩卸売業者の登録		許可件数	一件につき十五万円
(一) 塩事業法（平成八年法律第三十九号）第五条第一項（塩製造業の登録）の塩製造業者の登録		許可件数	一件につき十五万円
(二) 塩事業法第十六条第一項（塩特定販売業の登録）の塩特定販売業者の登録		許可件数	一件につき十五万円
(三) 塩事業法第十九条第一項（塩卸売業の登録）の塩卸売業者の登録		許可件数	一件につき九万円
六十八 著作権等管理事業者の登録		登録件数	一件につき九万円
著作権等管理条例（平成十二年法律第三十一号）第三条（登録）の規定による著作権等管理事業者の登録		登録件数	一件につき九万円
六十九 放射性同位元素装備機器等に係る登録認証機関、登録検査機関若しくは登録定期確認機関の登録、放射性同位元素等に係る登録運搬方法確認機関、登録運搬機関若しくは登録特定放射性同位元素防護管理者定期講習機関若しくは登録濃度確認機関の登録又は放射線取扱主任者等に係る登録試験機関、登録資格講習機関、登録運搬方法確認機関の登録		登録件数	一件につき九万円
(一) 放射性同位元素等の規制に関する法律（昭和三十二年法律第一百六十七号）第十二条の二第一項（登録認証機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）		登録件数	一件につき九万円
(二) 放射性同位元素等の規制に関する法律第十二条の八第一項（登録検査機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）		登録件数	一件につき九万円
(三) 放射性同位元素等の規制に関する法律第十二条の十（登録定期確認機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）		登録件数	一件につき九万円
(四) 放射性同位元素等の規制に関する法律第十八条第二項（登録運搬方法確認機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）		登録件数	一件につき九万円
(五) 放射性同位元素等の規制に関する法律第十九条の二第二項（登録埋設確認機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）		登録件数	一件につき九万円
(六) 放射性同位元素等の規制に関する法律第十九条の二第二項（登録埋設確認機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）		登録件数	一件につき九万円
(七) 放射性同位元素等の規制に関する法律第三十三条の三第一項（登録濃度確認機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）		登録件数	一件につき九万円
(八) 放射性同位元素等の規制に関する法律第三十五条第一項（登録試験機関の登録）の登録試験機関に係る登録（更新の登録を除く。）		登録件数	一件につき九万円

		登録件数	登録件数
(九) 放射性同位元素等の規制に関する法律第三十五条第二項の登録資格講習機関に係る登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
(十) 放射性同位元素等の規制に関する法律第三十六条の二第一項（登録放射線取扱主任者定期講習機関の登録）（同法第三十八条の三（登録特定放射性同位元素防護管理者定期講習機関の登録）において準用する場合を含む。）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
六十九の二 特定先端大型研究施設に係る登録施設利用促進機関の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
六十九の三 児童生徒等の災害に係る共済事業の認可	一件につき九万円	一件につき十五万円	一件につき十五万円
P.T.A・青少年教育団体共済法（平成二十二年法律第四十二号）第三条（認可）の文部科学大臣がする共済事業の認可	登録件数	登録件数	登録件数
七十 水道事業の認可若しくは給水区域の変更の認可、水道用水供給事業の認可若しくは給水対象の変更の認可又は登録水質検査機関若しくは登録簡易専用水道検査機関の登録	登録件数	登録件数	登録件数
(二) 水道法（昭和三十二年法律第百七十七号）第六条第一項（事業の認可及び經營主体）の水道事業の認可（政令で定めるものに限る。）又は同法第十条第一項（事業の変更）の規定による給水区域の拡張に係る変更の認可（これらの認可を受けている給水区域の属する市町村内における給水区域の拡張に係るもの）を除き、政令で定めるものに限る。）	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
(二) 水道法第二十六条（事業の認可）の水道用水供給事業の認可又は同法第三十条第一項（事業の変更）の規定による給水対象の増加に係る変更の認可（政令で定めるものに限る。）	登録件数	登録件数	登録件数
(三) 水道法第二十条第三項（登録水質検査機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
(四) 水道法第三十四条の二第二項（登録簡易専用水道検査機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
七十一 食品等の製品検査に係る登録検査機関の登録	登録件数	登録件数	登録件数
食品衛生法（昭和二十二年法律第二百三十三号）第四十三条第三項（登録検査機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
七十二 削除	登録件数	登録件数	登録件数
七十三 販売に供する食品の特別用途表示に係る登録試験機関の登録	登録件数	登録件数	登録件数
健康増進法（平成十四年法律第二百三号）第四十三条第三項（登録試験機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
七十四 業として行う採血の許可	登録件数	登録件数	登録件数
安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和三十一年法律第二百六十号）第十三条第一項（業として行う採血の許可）の規定による業として行う採血の許可	登録件数	登録件数	登録件数
七十五 業として行う臓器のあつせんの許可	登録件数	登録件数	登録件数
臓器の移植に関する法律（平成九年法律第二百四号）第十二条第一項（業として行う臓器のあつせんの許可）の規定による業として行う臓器のあつせんの許可	登録件数	登録件数	登録件数
七十六 精神保健指定医に係る登録研修機関の登録	登録件数	登録件数	登録件数
精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和二十五年法律第二百二十三号）第十八条第一項第四号（登録研修機関の登録）又は第十九条第一項（登録研修機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
七十七 医薬品等の製造販売業、製造業若しくは修理業に係る許可、認定若しくは登録又は指定高度管理医療機器等に係る登録認証機関の登録	登録件数	登録件数	登録件数
(一) 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和三十五年法律第二百四十五号。以下「医薬品医療機器等法」という。）第十二条第一項（製造販売業の許可）（医薬品医療機器等法第八十三条第一項（動物用医薬品等）の規定により読み替えて適用する場合を含む。）の第一種医薬品製造販売業許可、第二種医薬品製造販売業許可、医薬部外品製造販売業許可又は化粧品製造販売業許可（政令で定めるものに限り、更新の許可を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
(二) 医薬品医療機器等法第十三条第一項（製造業の許可）の医薬品、医薬部外品若しくは化粧品の製造業の許可又は同条第八項の規定による製造所に係る許可の区分の追加の許可（政令で定めるものに限り、更新の許可を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
(三) 医薬品医療機器等法第十三条の二の二第一項（保管のみを行う製造所に係る登録）の医薬品、医薬部外品又は化粧品の保管のみを行う製造所の登録（政令で定めるものに限り、更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
(四) 医薬品医療機器等法第十三条の三第一項（医薬品等外国製造業者の認定）の医薬品等外国製造業者の認定又は同条第三項において準用する医薬品医療機器等法第十三条第八項の規定による製造所に係る認定の区分の追加の認定（更新の認定を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数

(五) 医薬品医療機器等法第十三条の三の二第一項（医薬品等外国製造業者の保管のみを行う製造所に係る登録）の登録件数	一件につき九万円
(六) 医薬品医療機器等法第二十三条の二第一項（製造販売業の許可）（医薬品医療機器等法第八十三条第一項の規定により読み替えて適用する場合を含む。）の第一種医療機器製造販売業許可、第二種医療機器製造販売業許可、第三種医療機器製造販売業許可又は体外診断用医薬品製造販売業許可（政令で定めるものに限り、更新の許可を除く。）	許可件数
(七) 医薬品医療機器等法第二十三条の二の三第一項（製造業の登録）の医療機器又は体外診断用医薬品の製造の事業の登録（政令で定めるものに限り、更新の登録を除く。）	登録件数
(八) 医薬品医療機器等法第二十三条の二の四第一項（医療機器等外国製造業者の登録）の医療機器等外国製造業者の登録（更新の登録を除く。）	登録件数
(九) 医薬品医療機器等法第二十三条の二十第一項（製造販売業の許可）（医薬品医療機器等法第八十三条第一項の規定により読み替えて適用する場合を含む。）の再生医療等製品の製造販売の事業の許可（政令で定めるものに限り、更新の許可を除く。）	許可件数
(十) 医薬品医療機器等法第二十三条の二十二第一項（製造業の許可）の再生医療等製品の製造業の許可又は同条第八項の規定による製造所に係る修理区分の追加の許可（政令で定めるものに限り、更新の許可を除く。）	許可件数
(十一) 医薬品医療機器等法第二十三条の二十四第一項（再生医療等製品外国製造業者の認定）の再生医療等製品外国製造業者の認定又は同条第三項において準用する医薬品医療機器等法第二十三条の二十二第八項の規定による製造所に係る認定の区分の追加の認定（更新の認定を除く。）	許可件数
(十二) 医薬品医療機器等法第四十条の二第一項（医療機器の修理業の許可）の医療機器の修理業の許可又は同条第七項の規定による事業所に係る修理区分の追加の許可（政令で定めるものに限り、更新の許可を除く。）	許可件数
(十三) 医薬品医療機器等法第八十三条第一項の規定により読み替えて適用する医薬品医療機器等法第十三条第一項若しくは第八項（医薬品医療機器等法第二十三条の三第三項において準用する場合を含む。）、第十三条の二の二第一項、第十三条の三第一項、第十三条の三第一項、第十三条の三第二項、第二十三条の二の三第一項、第二十三条の二の四第一項、第二十三条の二十二第一項若しくは第八項（医薬品医療機器等法第二十三条の二二十四第三項において準用する場合を含む。）、第二十三条の二十四第一項又は第四十条の二第一項若しくは第七項の規定による許可、認定又は登録（政令で定めるものに限り、更新の許可、認定又は登録を除く。）	許可件数、認定件数又は登録件数
(十四) 医薬品医療機器等法第二十三条の二の二十三第一項（登録認証機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数
(十五) 医薬品医療機器等法第二十三条の二の二第一項（登録試験問題作成機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数
(十六) 特定細胞加工物等の製造の許可又は外国における特定細胞加工物等の製造の認定	許可件数
(十七) 特定細胞加工物等の製造の許可又は外国における特定細胞加工物等の製造の認定（更新の認定を除く。）	許可件数
(十八) 再生医療等の安全性の確保等に関する法律（平成二十五年法律第八十五号）第三十五条第一項（特定細胞加工物等の製造の許可）の特定細胞加工物等の製造の許可（更新の許可を除く。）	一件につき九万円
(十九) 再生医療等の安全性の確保等に関する法律第三十九条第一項（外国における特定細胞加工物等の製造の認定）の外国における特定細胞加工物等の製造の認定（更新の認定を除く。）	一件につき九万円
(二十) 介護支援専門員実務研修受講試験に係る登録試験問題作成機関の登録	一件につき九万円
(二十一) 介護保険法（平成九年法律第二百二十三号）第六十九条の十一第一項（登録試験問題作成機関の登録）の登録	一件につき十五万円
(二十二) 確定拠出年金法（平成十三年法律第八十八号）第八十八条第一項（登録）の確定拠出年金運営管理業の登録	一件につき九万円
(二十三) 在宅就業支援団体の登録	一件につき一万五千円
(二十四) 障害者の雇用の促進等に関する法律（昭和三十五年法律第二百二十三号）第七十四条の三第一項（在宅就業支援団体の登録）の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円
(二十五) 有料職業紹介事業若しくは労働者派遣事業の許可、港湾労働者派遣事業の許可又は建設業務有料職業紹介事業若しくは建設業務労働者就業機会確保事業の許可（注）高年齢者等の雇用の安定等に関する法律第三十八条第二項（業務等）の規定による届出が同条第三項の規定により職業安定法第三十条第一項（有料職業紹介事業の許可）の規定による許可とみなす。	一件につき九万円
(二十六) 職業安定法第三十条第一項の有料の職業紹介事業の許可（更新の許可を除く。）	一件につき九万円
(二十七) 労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律（昭和六十年法律第八十八号）第五条第一項（労働者派遣事業の許可）の労働者派遣事業の許可（更新の許可を除く。）	一件につき九万円

(三) 港湾労働法（昭和六十三年法律第四十号）第十二条第一項（港湾労働者派遣事業の許可）の港湾労働者派遣事業の許可（更新の許可を除く。）	一件につき九万円 許可件数
(四) 港湾労働法第十八条第一項（派遣事業対象業務の種類の変更等）の変更の許可（同法第十二条第二項第四号の港湾ごとの派遣事業対象業務の種類の増加に係るものに限る。）	一件につき一万五千円 許可件数
(五) 建設労働者の雇用の改善等に関する法律（昭和五十一年法律第三十三号）第十八条第一項（建設業務有料職業紹介事業の許可）の建設業務有料職業紹介事業の許可（更新の許可を除く。）	一件につき九万円 許可件数
(六) 建設労働者の雇用の改善等に関する法律第三十一条第一項（建設業務労働者就業機会確保事業の許可）の建設業務労働者就業機会確保事業の許可（更新の許可を除く。）	一件につき九万円 許可件数
八十一の二 キヤリアコンサルタントに係る登録試験機関の登録	一件につき十五万円 登録件数
職業能力開発促進法第三十条の五第一項（登録試験機関の登録）の登録	一件につき十五万円 登録件数
八十二 建築物環境衛生管理技術者免状に係る登録講習機関の登録	一件につき九万円 登録件数
建築物における衛生的環境の確保に関する法律（昭和四十五年法律第二十号）第七条第一項第一号（登録講習機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円 登録件数
八十三 ボイラー等に係る検査業者の登録又は高圧室内作業等に係る登録教習機関の登録若しくは機械等に係る登録製造時等検査機関、登録性能検査機関、登録個別検定機関若しくは登録型式検定機関の登録	一件につき九万円 登録件数
(一) 労働安全衛生法（昭和四十七年法律第五十七号）第五十四条の三第一項（検査業者の）の検査業者の登録	一件につき九万円 登録件数
(二) 労働安全衛生法第十四条（登録教習機関の登録）第六十一条第一項（登録教習機関の登録）又は第七十五条第三項（登録教習機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円 登録件数
(三) 労働安全衛生法第三十八条第一項（登録製造時等検査機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円 登録件数
(四) 労働安全衛生法第四十一条第二項（登録性能検査機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円 登録件数
(五) 労働安全衛生法第四十四条第一項（登録個別検定機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円 登録件数
(六) 労働安全衛生法第四十四条の二第一項（登録型式検定機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円 登録件数
八十四 作業環境測定機関の登録又は作業環境測定士に係る登録講習機関の登録	一件につき九万円 登録件数
(一) 作業環境測定法第三十三条第一項（作業環境測定機関）の作業環境測定機関の登録（同法第二条第五号（定義）に規定する第一種作業環境測定士が受ける登録を除く。）	一件につき九万円 登録件数
(二) 作業環境測定法第五条（登録講習機関の登録）又は第四十四条第一項（登録講習機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円 登録件数
八十四の二 中小事業主が行う事業に従事する者等の労働災害等に係る共済事業に係る共済事業の認可（認可）の厚生労働大臣がする共済事業の認可	一件につき十五万円 登録件数
八十五 中央卸売市場の認定	一件につき十五万円 登録件数
卸売市場法（昭和四十六年法律第三十五号）第四条第一項（中央卸売市場の認定）の中央卸売市場の認定	一件につき一万五千円 登録件数
八十五の二 輸出植物等の検査に係る登録検査機関の登録	一件につき九万円 登録件数
植物防疫法（昭和二十五年法律第五十号）第二条第四項（登録検査機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）又は同法第十条の六第一項（変更登録）の変更登録（同法第十条の四第二項第三号（登録の基準）の検査の区分の増加に係る変更登録に限る。）	一件につき九万円 登録件数
八十六 農産物検査に係る登録検査機関の登録	一件につき十五万円 登録件数
(一) 農産物検査法（昭和二十六年法律第四十四号）第二条第五項（登録検査機関の登録）の登録（政令で定めるものに限り、更新の登録を除く。）	一件につき十五万円 登録件数
(二) 農産物検査法第十九条第一項（変更登録）の変更登録（同法第十七条第四項第四号（登録事項）の登録の区分の増加に係る変更登録で政令で定めるものに限る。）	一件につき十五万円 登録件数
(三) 農産物検査法第十九条第一項の変更登録（同法第十七条第四項第三号（登録の基準）の検査の区分の増加に係る変更登録で政令で定めるものに限る。）	一件につき三万円 登録件数
八十七 日本農林規格による格付の表示等に係る登録認証機関若しくは登録外国認証機関の登録又は日本農林規格による試験等に係る登録試験業者若しくは登録外国試験業者の登録	一件につき九万円 許可件数

(一) 日本農林規格等に関する法律（昭和二十五年法律第百七十五号）第二条第三項（登録認証機関又は登録外国認証機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	一件につき九万円
(二) 日本農林規格等に関する法律第四十二条（登録試験業者の登録）の登録試験業者の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	一件につき九万円
(三) 日本農林規格等に関する法律第五十三条（登録外国試験業者の登録）の登録外国試験業者の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	一件につき九万円
八十七の二 登録生産者団体の登録又は変更の登録	登録件数	一件につき九万円
特定農林水産物等の名称の保護に関する法律（平成二十六年法律第八十四号）第六条（特定農林水産物等の登録）の登録生産者団体の登録又は同法第十五条第一項（生産者団体を追加する変更の登録）の変更の登録	登録件数	一件につき九万円
八十七の三 輸出證明書に係る登録発行機関の登録又は施設認定農林水産物等の適合施設に係る登録認定機関の登録	登録件数	一件につき九万円
(一) 農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律（令和元年法律第五十七号）第二条第四項（登録発行機関の登録）の登録発行機関に係る登録（更新の登録を除く。）	登録件数	一件につき九万円
(二) 農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律（登録認定機関に係る登録）（更新の登録を除く。）	登録件数	一件につき九万円
八十八 普通肥料の生産又は輸入に係る登録	登録件数	一件につき九万円
(一) 肥料の品質の確保等に関する法律（昭和二十五年法律第百二十七号）第四条第一項（登録を受ける義務）の規定により農林水産大臣がする普通肥料の生産の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	一件につき一万五千円
(二) 肥料の品質の確保等に関する法律第四条第四項の規定による普通肥料の輸入の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	一件につき一万五千円
(三) 肥料の品質の確保等に関する法律第五条（仮登録を受ける義務）の規定による普通肥料の生産又は輸入の仮登録（更新の仮登録を除く。）	登録件数	一件につき一万五千円
(四) 肥料の品質の確保等に関する法律第三十三条の二第一項（外国生産肥料の登録及び仮登録）の登録又は仮登録（更新の登録又は仮登録を除く。）	登録件数	一件につき一万五千円
八十九 特定飼料等製造業者若しくは外国特定飼料等製造業者の登録又は規格設定飼料の規格適合表示に係る登録検定機関の登録	登録件数	一件につき九万円
(一) 飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律（昭和二十八年法律第三十五号）第七条第一項（特定飼料等製造業者の登録）の特定飼料等製造業者の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	一件につき九万円
(二) 飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律第二十一条第一項（外国特定飼料等製造業者の登録等）の外国特定飼料等製造業者の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	一件につき九万円
(三) 飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律第二十七条第一項（登録検定機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	一件につき九万円
九十 食品循環資源に係る登録再生利用事業者の登録	登録件数	一件につき九万円
食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（平成十二年法律第百十六号）第十一一条第一項（登録）の規定による登録再生利用事業者の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	一件につき九万円
九十一 農林漁業体験民宿業者の登録又は農林漁業体験民宿業者に係る登録実施機関の登録	登録件数	一件につき九万円
(一) 農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の促進に関する法律（平成六年法律第四十六号）第十六条第一項（農林漁業体験民宿業者の登録）の農林漁業体験民宿業者の登録	登録件数	一件につき九万円
(二) 農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の促進に関する法律第十六条第一項の登録実施機関に係る登録（更新の登録を除く。）	登録件数	一件につき九万円
九十二 馬主の登録	登録件数	一件につき九万円
(一) 農林中央金庫の外国における業務の委託契約の締結に係る認可又は農林中央金庫等の代理業の許可	登録件数	一件につき九万円
九十三 競馬法（昭和二十三年法律第一百五十八号）第十三条第一項（馬主の登録）の馬主の登録	登録件数	一件につき九万円
(一) 農林中央金庫の外国における業務の委託契約の締結に係る認可又は農林中央金庫等の代理業の許可	登録件数	一件につき九万円
九十四 農林中央金庫法（平成十三年法律第九十三号）第九十五条の二第一項（許可）の農林中央金庫代理業の許可	認可件数	一件につき九万円

(三) 農業協同組合法(昭和二十二年法律第百三十二条)第九十二条の二第一項(許可)の特定信用事業代理業の許可	許可件数
(四) 水産業協同組合法(昭和二十三年法律第二百四十二条)第六条第一項(許可)の特定信用事業代理業の許可	一件につき九万円
九十三条の二 農林中央金庫電子決済等代行業者の登録又は認定農林中央金庫電子決済等代行業者協会等の認定	登録件数
(一) 農林中央金庫法第九十五条の五の二第一項(登録)の農林中央金庫電子決済等代行業者の登録	登録件数
(二) 農業協同組合法第九十二条の五の二第一項(登録)の特定信用事業電子決済等代行業者の登録	登録件数
(三) 水産業協同組合法第一百十条第一項(登録)の特定信用事業電子決済等代行業者の登録	登録件数
(四) 農林中央金庫法第九十五条の五の七(認定農林中央金庫電子決済等代行業者協会の認定)の認定農林中央金庫電子決済等代行業者協会の認定	登録件数
(五) 農業協同組合法第九十二条の五の六(認定特定信用事業電子決済等代行業者協会の認定)の認定特定信用事業電子決済等代行業者協会の認定	登録件数
(六) 水産業協同組合法第一百二十四条(認定特定信用事業電子決済等代行業者協会の認定)の認定特定信用事業電子決済等代行業者協会の認定	登録件数
九十四 会員商品取引所の設立若しくは株式会社商品取引所の許可、算定期割当量に係る取引を行う市場の開設等の認可、組織変更の認可、商品取引所持株会社に係る認可又は第一種特定商品市場類似施設の開設の許可	認定件数
(一) 商品先物取引法(昭和二十五年法律第二百三十九号)第九条(設立の許可)の会員商品取引所の設立の許可又は同法第七十八条(株式会社商品取引所の許可)の株式会社商品取引所の許可	許可件数
(二) 商品先物取引法第三条第一項(算定期割当量に係る取引を行う市場の開設等の認可)の認可(同項ただし書の金融商品市場の開設の業務又は金融商品債務引受業等に係るものを除く。)	許可件数
(三) 商品先物取引法第三百三十二条第一項(組織変更の認可)の組織変更の認可	許可件数
(四) 商品先物取引法第九十六条の二十五第一項又は第三項(算定期割当量に係る取引を行う市場の開設等の認可)の認可	許可件数
(五) 商品先物取引法第三百三十二条第一項(第一種特定商品市場類似施設の開設の許可)の第一種特定商品市場類似施設の開設の許可	許可件数
(六) 商品先物取引法第三百四十二条第一項(第二種特定商品市場類似施設の開設の許可)の第二種特定商品市場類似施設の開設の許可	許可件数
(七) 商品先物取引法第三百三十五条第一項(変更の許可等)(同法第三百四十五条(準用))において準用する場合を含む。)の規定による変更の許可(同法第三百三十二条第二項第三号又は第三百四十二条第二項第三号の取引の対象となる商品又は商品指数の増加に係るものに限る。)	許可件数
九十五 商品先物取引業の許可、商品先物取引仲介業者の登録、商品取引債務引受業の許可又は委託者保護基金の設立の認可	許可件数
(一) 商品先物取引法第一百九十条第一項(商品先物取引業の許可)の商品先物取引業の許可(更新の許可を除く。)	許可件数
(二) 商品先物取引法第二百四十条の二第一項(登録)の商品先物取引仲介業者の登録(更新の登録を除く。)	許可件数
(三) 商品先物取引法第一百六十七条(許可)の商品取引債務引受業の許可	許可件数
(四) 商品先物取引法第二百七十九条第一項(認可の申請)の委託者保護基金の設立の認可	許可件数
九十六 商品投資顧問業の許可又は業務の種類の変更の認可	許可件数
(一) 商品投資に係る事業の規制に関する法律(平成三年法律第六十六号)第三条(商品投資顧問業者の許可)の商品投資顧問業の許可(更新の許可を除く。)	一件につき十五万円
(二) 商品投資に係る事業の規制に関する法律第九条(変更の認可)の規定による変更の認可(同法第五条第一項第六号(許可の申請)の業務の種類の増加に係るものに限る。)	一件につき三万円
九十六の二 商工組合中央金庫電子決済等代行業者の登録又は認定商工組合中央金庫電子決済等代行業者協会の認定	登録件数
(一) 株式会社商工組合中央金庫法(平成十九年法律第七十四号)第六十条の三(登録)の商工組合中央金庫電子決済等代行業者の登録	一件につき十五万円
(二) 株式会社商工組合中央金庫電子決済等代行業者協会の認定	一件につき十五万円
九十七 石油パイプライン事業の許可又は事業用施設の変更の許可	一件につき十五万円

石油パイプライン事業法（昭和四十七年法律第二百五号）第五条第一項（石油パイプライン事業の許可）の石油パイプライン事業の許可又は同法第八条第一項（事業用施設の変更）の導管に係る変更の許可（導管の延長の増加に係る許可で政令で定めるものに限る。）

許可件数
一件につき九万円

石油輸入業者の登録

石油の備蓄の確保等に関する法律（昭和五十年法律第九十六号）第十六条（登録）の石油輸入業者の登録

登録件数
一件につき三万円

（二） 撥発油販売業者、撣發油特定加工業者若しくは軽油特定加工業者の登録又は撣發油等に係る分析機関の登録

登録件数
一件につき三万円

（一） 撣發油等の品質の確保等に関する法律（昭和五十一年法律第八十八号）第三条（撣發油販売業者の登録）の撣發油販売業者の登録

登録件数
一件につき三万円

（二） 撣發油等の品質の確保等に関する法律第十二条の二（撣發油特定加工業者の登録）の撣發油特定加工業者の登録

登録件数
一件につき三万円

（三） 撣發油等の品質の確保等に関する法律第十二条の九（軽油特定加工業者の登録）の軽油特定加工業者の登録

登録件数
一件につき九万円

（四） 撣發油等の品質の確保等に関する法律第十六条の二第一項（撣發油販売業者に係る分析機関の登録）、第十七条の三第二項（撣發油生産業者に係る分析機関の登録）（同法第十七条の八第一項（軽油生産業者に係る分析機関の登録）、第十七条の十一第一項（重油生産業者に係る分析機関の登録）又は第十七条の十二第一項（重油生産業者に係る分析機関の登録）において準用する場合を含む。）、第十七条の四第三項（撣發油輸入業者等に係る分析機関の登録）（同法第十七条の八第一項若しくは第三項、第十七条の十第二項若しくは第三項又は第十七条の十二第二項若しくは第三項において準用する場合を含む。）又は第十七条の四の二第二項（撣發油特定加工業者に係る分析機関の登録）（同法第十七条の八第四項において準用する場合を含む。）の登録（更新の登録を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（二） 液化石油ガス販売事業者の登録、保安機関の認定若しくは一般消費者等の数の増加の認可（同法第十九条第一項（認定）の登録）（更新の登録を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（一） 液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（昭和四十二年法律第二百四十九号）第三条第一項（事業の登録）の登録（更新の登録を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（二） 液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（昭和四十二年法律第二百四十九号）第三条第一項（事業の登録）の登録（更新の登録を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（三） 液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（昭和四十二年法律第二百四十九号）第三条第一項（事業の登録）の登録（更新の登録を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（四） 液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（昭和四十二年法律第二百四十九号）第三条第一項（事業の登録）の登録（更新の登録を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（一） ガス事業法（昭和二十九年法律第五十一号）第三条（事業の登録）のガス小売事業の登録

登録件数
一件につき三万円

（二） 電気事業法等の一部を改正する等の法律（平成二十七年法律第四十七号）附則第二十三条第一項（旧一般ガスみなしガス小売事業者の指定旧供給区域等の変更等）の指定旧供給区域等の変更の許可（同法第五条（ガス事業法の一部改正）の規定による改正前のガス事業法（二）において「旧ガス事業法」という。）第六条第二項第三号（許可証）の供給区域の増加に係るものに限り、当該供給区域の属する市町村内における供給区域の増加に係るもの（登録を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（三） 電気事業法等の一部を改正する等の法律（平成二十七年法律第四十七号）附則第二十三条第一項の指定旧供給区域等の変更の許可（旧ガス事業法第六条第二項第三号の供給地点群の増加に係るものに限る。）

登録件数
一件につき三万円

（四） ガス事業法第三十四条の二（認定）の認定高度保安実施ガス小売事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（五） ガス事業法第三十五条（事業の許可）の一般ガス導管事業の許可又は同法第四十条第一項（供給区域の変更）の供給区域の増加に係る変更の許可（これらの許可を受けている供給区域の属する市町村内における供給区域の増加に係るもの）

登録件数
一件につき三万円

（六） ガス事業法第七十一条の二（認定）の認定高度保安実施一般ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（七） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（八） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（九） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（十） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（十一） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（十二） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（十三） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（十四） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（十五） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（十六） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（十七） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（十八） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（十九） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（二十） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（二十一） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（二十二） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（二十三） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（二十四） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（二十五） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（二十六） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（二十七） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（二十八） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（二十九） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認定（更新の認定を除く。）

登録件数
一件につき三万円

（三十） ガス事業法第八十四条の二（認定）の認定高度保安実施特定ガス導管事業者の認

	申請件数	認定件数
百二 高圧ガスの製造等に係る認定完成検査実施者、認定保安検査実施者若しくは認定高度保安実施者の認定（更新の認定を除く。）特定設備製造業者若しくは外国登録特定設備製造業者の登録	一件につき九万円	一件につき九万円
(一) 高圧ガス保安法（昭和二十六年法律第二百四号）第二十条第三項第二号（完成検査）の認定完成検査実施者の認定（更新の認定を除く。）	一件につき九万円	一件につき九万円
(二) 認定（更新の認定を除く。）	一件につき九万円	一件につき九万円
(三) 高圧ガス保安法第三十五条第一項第二号（保安検査）の認定保安検査実施者の認定（更新の認定を除く。）	一件につき九万円	一件につき九万円
(四) 高圧ガス保安法第四十九条第一項（容器再検査）の容器検査所の登録（政令で定めるものに限り、更新の登録を除く。）	一件につき九万円	一件につき九万円
(五) 高圧ガス保安法第四十九条の五第一項（容器等製造業者の登録）の規定による登録容器等製造業者の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円	一件につき九万円
(六) 高圧ガス保安法第四十九条の三十一第一項（外国容器等製造業者の登録）の規定による外国登録容器等製造業者の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円	一件につき九万円
(七) 高圧ガス保安法第五十六条の六の二第一項（特定設備製造業者の登録）の規定による登録特定設備製造業者の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円	一件につき九万円
(八) 高圧ガス保安法第五十六条の六の二十二第一項（外国特定設備製造業者の登録）の規定による外国登録特定設備製造業者の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円	一件につき九万円
百三 热供給事業の登録	登録件数	登録件数
熱供給事業法（昭和四十七年法律第八十八号）第三条（事業の登録）の热供給事業の登録	一件につき九万円	一件につき九万円
百四 小売電気事業の登録（みなし小売電気事業者の指定旧供給区域の変更の許可、一般送配電事業の許可若しくは電気の供給区域の変更若しくは供給区域外に設置する電線路による供給の許可、特定送配電事業者による小売供給の登録、特定供給の許可、認定高度保安実施設置者の認定、認定電気使用者情報利用者等協会の認定又は電気工作物に係る登録適合性確認機関、登録安全管理審査機関若しくは登録調査機関の登録）	一件につき九万円	一件につき九万円
(一) 電気事業法（昭和三十九年法律第七十号）第二条の二（事業の登録）の小売電気事業の登録	一件につき九万円	一件につき九万円
(二) 電気事業法等の一部を改正する法律（平成二十六年法律第七十二号）附則第十七条第一項（指定旧供給区域の変更等）の変更の許可（同法附則第十六条第一項（みなし小売電気事業者の供給義務等）に規定する指定旧供給区域の増加に係るもの（当該指定旧供給区域の属する市町村内における指定旧供給区域の増加に係るもの）に限る。）	一件につき九万円	一件につき九万円
(三) 電気事業法第三条（事業の許可）の一般送配電事業の許可又は同法第八条第一項（供給区域の変更）の変更の許可（同法第六条第二項第五号（許可証）に掲げる供給区域の増加に係るもの（これらの許可を受けている供給区域の属する市町村内における供給区域の増加に係るもの）に限る。）	一件につき九万円	一件につき九万円
(四) 電気事業法第二十四条第一項（供給区域外に設置する電線路による供給）の供給区域外の供給の許可（同法第二十七条の四（事業の許可）の送電事業の許可又は同法第二十七条の七第一項（振替供給の相手方の変更）の変更の許可（同法第二十七条の七第二項第五号（許可証）に掲げる振替供給の相手方である一般送配電事業者又は配電事業者の増加に係るものに限る。）	一件につき十五万円	一件につき十五万円
(五) 電気事業法第二十七条の四（事業の許可）の配電事業の許可又は同法第二十七条の七第一項（供給区域の変更）の変更の許可（同法第二十七条の五第二項第五号（許可証）に掲げる供給区域の増加に係るもの）の（これらの許可を受けている供給区域の属する市町村内における供給区域の増加に係るもの）に限る。）	一件につき一万五千円	一件につき一万五千円
(六) 電気事業法第二十七条の十二の二（事業の許可）の配電事業の許可又は同法第二十七条の十二の七第一項（供給区域の変更）の変更の許可（同法第二十七条の十一の五第二項第五号（許可証）に掲げる供給区域の増加に係るもの）に限る。）	一件につき十五万円	一件につき十五万円
(七) 電気事業法第二十七条の十二（準用）において準用する同法第二十四条第一項の供給区域外の供給の許可	一件につき一万五千円	一件につき一万五千円

	登録件数	登録件数	登録件数	登録件数
(八) 電気事業法第二十七条の十五（小売供給の登録）の特定送配電事業者による小売供給の登録	一件につき一万五千円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
(九) 電気事業法第二十七条の三十三第一項（特定供給）の電気を供給する事業の許可	一件につき一万五千円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
(十) 電気事業法第五十五条の三（認定）の認定高度保安実施設置者の認定（更新の認定を除く。）	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
(十一) 電気事業法第三十七条の四（認定電気使用者情報利用者等協会の認定）の認定電気使用者情報利用者等協会の認定	一件につき十五万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
(十二) 電気事業法第四十八条の二第一項（登録適合性確認機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
(十三) 電気事業法第五十一条第三項（登録安全管理審査機関の登録）又は第五十五条第四項（登録安全管理審査機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
(十四) 電気事業法第五十七条の二第一項（登録調査機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
百五 登録電気工事業者の登録	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
電気工事業の業務の適正化に関する法律（昭和四十五年法律第九十六号）第三条第一項（登録）の経済産業大臣がする登録電気工事業者の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
百六 特定事業者等が設置している工場等に係る登録調査機関の登録	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律（昭和五十四年法律第四十九号）第八十四条第一項（登録調査機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
百七 工業用水道事業の許可又は給水区域の変更の許可	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
工業用水道事業（昭和三十三年法律第八十四号）第三条第二項（事業の届出及び許可）の工業用水道事業の許可又は同法第六条第二項（給水能力等の変更）の規定による変更の許可（同法第十三条第一項第二号（事業の届出及び許可）の給水区域の増加に係るもの（これらの許可を受けている給水区域の属する市町村内における給水区域の増加に係るもの）を除く。）に係るものに限る。）	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
百八 深海底鉱業の許可又は深海底鉱区の変更の許可	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
深海底鉱業暫定措置法（昭和五十七年法律第六十四号）第四条第一項（深海底鉱業の許可）の深海底鉱業の許可又は同法第十四条第一項（深海底鉱区等の変更）の規定による変更の許可（同法第十三条第二項第六号（許可証）の深海底鉱区の面積の増加に係るものに限る。）	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
百八の二 二酸化炭素を輸送する事業に係る登録導管輸送工作物検査機関の登録	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
二酸化炭素の貯留事業に関する法律第九十一条第一項（登録導管輸送工作物検査機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
百九 アルコールの製造、輸入若しくは販売の事業又は工業用使用の許可	一件につき十五万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
(一) アルコール事業法（平成十二年法律第三十六号）第三条第一項（製造の許可）の規定によるアルコールの製造の事業の許可又は同法第十六条第一項（輸入の許可）の規定によるアルコールの輸入の事業の許可	一件につき十五万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
(二) アルコール事業法第二十二条第一項（販売の許可）の規定によるアルコールの販売の事業の許可	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
(三) アルコール事業法第二十六条第一項（使用の許可）の規定によるアルコールの使用の許可又は同法第三十条（準用）において準用する同法第八条第一項（変更の許可等）の変更の許可（同法第二十六条第二項第六号の使用施設ごとのアルコールの用途の増加に係るものに限る。）	一件につき一万五千円	一件につき一万五千円	一件につき一万五千円	一件につき一万五千円
百十 航空機若しくは航空用機器の製造事業若しくは修理事業の許可又は事業の区分の変更の許可	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
航空機製造事業法（昭和二十七年法律第二百三十七号）第二条の二（事業の許可）の航空機若しくは特定機器の製造若しくは修理の事業の許可又は同法第二条の八第一項（事業の区分の変更）の規定による変更の許可（同法第二条の六第二項第三号（許可証））の事業の区分の増加に係るものに限る。）	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
百十一 特定電気用品に係る検査機関の登録	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
電気用品安全法（昭和三十六年法律第二百三十四号）第九条第一項（検査機関の登録）の登録（更新の登録を除く。以下この号において単に「登録」という。）	一件につき九万円（既に登録を受けている者については、一万五千円）	一件につき九万円（既に登録を受けている者については、一万五千円）	一件につき九万円（既に登録を受けている者については、一万五千円）	一件につき九万円（既に登録を受けている者については、一万五千円）
百十二 特別特定製品に係る検査機関の登録	申請件数	申請件数	申請件数	申請件数

申請件数	申請件数
百一十三　日本産業規格への適合の表示に係る登録認証機関の登録又は製品試験等に係る試験事業者若しくは外国試験事業者の登録（既に登録を受けている者については、一万五千円）	（二）産業標準化法（昭和二十四年法律第百八十五号）第三十条第一項若しくは第二項（登録認証機関の登録）、第三十一条第一項（登録認証機関の登録）、第三十二条第一項から第三項まで（登録認証機関の登録）、第三十三条第一項（登録認証機関の登録）又は第三十七条第一項から第六項まで（登録認証機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）
（二）産業標準化法第五十七条第一項（試験事業者の試験所の登録）の国内にある試験所における製品試験等に係る試験事業者の登録（更新の登録を除く。）	（三）産業標準化法第六十六条第一項（外国試験事業者の試験所の登録）の国外にある試験所における製品試験等に係る試験事業者の登録（更新の登録を除く。）
百十四　計量器の校正等に係る事業者の登録又は認定特定計量証明事業者の認定	（一）計量法第一百四十三条第一項（登録）の計量器の校正等に係る事業者の登録（更新の登録を除く。）
	（二）計量法第一百二十二条の二（認定）の認定特定計量証明事業者の認定（更新の認定を除く。）
	（三）回路配置利用権の設定登録等事務に係る登録機関の登録（更新の登録を除く。）
	百十五　半導体集積回路の回路配置に関する法律（昭和六十年法律第四十三号）第二十八条第一項（登録機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）
	百十六　（一）工業所有権に関する手続に係る登録情報処理機関、登録調査機関又は特定登録調査機関の登録（更新の登録を除く。）
	（二）工業所有権に関する手続等の特例に関する法律（平成二年法律第三十号）第九条第一項（登録情報処理機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）
	（二）工業所有権に関する手続等の特例に関する法律第三十六条第一項（登録調査機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）
	（三）工業所有権に関する手続等の特例に関する法律第三十九条の二（特定登録調査機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）
	百十七　特定輸出機器に係る国外適合性評価事業の認定
	特定機器に係る適合性評価手続の結果の外国との相互承認の実施に関する法律（平成十三年法律第百十一号）第三条第一項（認定）の国外適合性評価事業の認定（更新の認定を除く。以下この号において単に「認定」という。）
	百十七の二　第二種特定原産地証明書の作成に係る認定輸出者の認定
	（一）経済連携協定に基づく特定原産地証明書の発給等に関する法律（平成十六年法律第百四十三号）第七条の二第一項（認定）の認定輸出者の認定（更新の認定を除く。）
	百十八　前払式割賦販売業の許可、包括信用購入あつせん業者若しくは個別信用購入あつせん業者の登録、前払式特定取引業の許可、クレジットカード番号等取扱契約締結事業者の登録又は認定割賦販売協会の認定
	（二）割賦販売法（昭和三十六年法律第百五十九号）第十一条（前払式割賦販売業の許可）の規定による前払式割賦販売の許可
	（二）割賦販売法第三十一条（包括信用購入あつせん業者の登録）の登録包括信用購入あつせん業者の登録
	（三）割賦販売法第三十五条の二の三第一項（登録）の登録少額包括信用購入あつせん業者の登録
	（四）割賦販売法第三十五条の二の二十三（個別信用購入あつせん業者の登録）の登録個別信用購入あつせん業者の登録（更新の登録を除く。）
	（五）割賦販売法第三十五条の三の六十一（前払式特定取引業の許可）の規定による前払式特定取引の事業の許可
許可件数	許可件数
登録件数	申請件数
登録件数	申請件数
登録件数	申請件数
一件につき十五万円	一件につき九万円

イ (二) イに掲げる許可を受けている者が道路運送法第五条第一項第三号（許可申請）の路線又は営業区域を増加することに係る事業計画の変更の認可で財務省令で定めるもの	認可件数 一件につき一万五千円
ロ (二) ロに掲げる許可（政令で定めるものを除く。ハにおいて同じ。）を受けている者が道路運送法第五条第一項第三号の営業区域を増加することに係る事業計画の変更の認可で財務省令で定めるもの	認可件数 一件につき五千円
ハ (二) ハに掲げる許可を受けている者が特定地域及び準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化及び活性化に関する特別措置法第二条第六項（定義）に規定する準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の供給輸送力を増加させる事業計画の変更の認可で財務省令で定めるもの	認可件数 一件につき五千円
(三) 道路運送法第四十三条第一項（特定旅客自動車運送事業）の特定旅客自動車運送事業の許可	許可件数 一件につき三万円
(四) 貨物自動車運送事業法第三条（一般貨物自動車運送事業の許可）の一般貨物自動車運送事業の許可	許可件数 一件につき十二万円
(五) 貨物自動車運送事業法第三十五条第一項（特定貨物自動車運送事業）の特定貨物自動車運送事業の許可	許可件数 一件につき六万円
(六) 貨物自動車運送事業法第五十八条の二（登録貨物軽自動車安全管理者講習機関の登録）の登録貨物軽自動車安全管理者講習機関の登録（更新の登録を除く。）	登録件数 一件につき九万円
百二十五の二 タクシーの運転者による登録実施機関の登録	登録件数 一件につき九万円
タクシー業務適正化特別措置法（昭和四十五年法律第七十五号）第十九条第一項（登録実施機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数 一件につき九万円
百二十五の三 自家用有償旅客運送者の登録	登録件数 一件につき九万円
(注) 地域再生法第十七条の五十三（自家用有償旅客運送の登録等の特例）の規定により自家用有償旅客運送者の登録若しくは変更登録を受けたものとみなされる場合における同法第十七条の三十六第二十九項（地域住宅団地再生事業計画の作成）（同条第三十項において準用する場合を含む。）の規定による地域住宅団地再生事業計画の公表又は地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第二十七条の十八第一項（道路運送法の特例）（同法第二十九条の九（鉄道事業再構築事業等に関する規定の準用）において準用する場合を含む。）の規定により自家用有償旅客運送者の登録若しくは変更登録を受けたものとみなされる場合における同法第二十七条の十五第二項（地域公共交通利便増進実施計画の認定）（同条第七項において準用する場合及びこれらの規定を同法第二十九条の七第一項（道路運送法の特例）の規定により自家用有償旅客運送者の登録若しくは変更登録を受けたものとみなされる場合における同法第二十九条の四第六項（交通手段再構築実証事業計画の作成）（同条第七項において準用する場合を含む。）の規定による交通手段再構築実証事業計画の公表は、自家用有償旅客運送者の登録又は変更登録とみなす。）	登録件数 一件につき九万円
(一) 道路運送法第七十九条（登録）の自家用有償旅客運送者の登録（政令で定めるものに限り、更新の登録を除く。）	登録件数 一件につき九万円
(二) 道路運送法第七十九条の七第一項（変更登録等）の変更登録（政令で定めるものに限り、更新の登録を除く。）	登録件数 一件につき九万円
百二十六 自家用自動車の有償貸渡しの許可	登録件数 一件につき三千円
道路運送法第八十条第一項（有償貸渡し）の規定による自家用自動車の貸渡しの事業の許可（政令で定めるものを除く。）	登録件数 一件につき九万円
百二十七 運河開設の免許	登録件数 一件につき十五万円
運河法（大正二年法律第十六号）第一条（免許）の規定による運河の開設の免許	登録件数 一件につき十五万円
百二十七の二 港湾の技術基準対象施設に係る登録確認機関の登録	登録件数 一件につき九万円
港湾法（昭和二十五年法律第二百十八号）第五十六条の二の二第三項（登録確認機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数 一件につき九万円
百二十八 船舶の製造事業等に係る施設又は設備の新設等の許可	許可件数 一件につき十五万円
(注) 造船法（昭和二十五年法律第二百十九号）第十三条规定（施設等の新設等の許可の特例）の規定により船舶の製造若しくは修繕に必要な設備の新設、増設若しくは拡張の許可を受けたものとみなされる場合における同法第十二条第一項（事業基盤強化計画の変更等）の規定による事業基盤強化計画の変更の認定は、これらの許可とみなす。	許可件数 一件につき十五万円
(一) 造船法第二条第一項（施設の新設等の許可等）の規定による船舶の製造又は修繕に係る施設の新設、譲受け又は借受けの許可（当該許可を受けている者が当該許可に係る施設について受けるもの及び一時的な需要のために行う許可で財務省令で定めるものを除く。）	許可件数 一件につき十五万円

	登録件数	登録件数
(一) 貨物利用運送事業法第三条第一項(登録)の第一種貨物利用運送事業の登録	一件につき九万円	一件につき九万円
(二) 貨物利用運送事業法第七条第一項(変更登録等)の変更登録(同法第四条第一項第四号(登録の申請)の利用)	一件につき二万円	一件につき二万円
(三) 貨物利用運送事業法第二十五条第一項(事業計画及び集配事業計画)の事業計画の変更の認可(財務省令で定めるものに限る。)	一件につき一万五千円	一件につき一万五千円
(四) 貨物利用運送事業法第三十五条第一項(登録)の第二種貨物利用運送事業の許可	一件につき十二万円	一件につき十二万円
(五) 貨物利用運送事業法第三十五条第一項(登録)の船舶運航事業者又は航空運送事業者の行う国際貨物運送に係る第一種貨物利用運送事業の登録	一件につき九万円	一件につき九万円
(六) 貨物利用運送事業法第三十九条第一項(変更登録等)の変更登録(同法第四条第一項第四号の利用運送の区間又は業務の範囲の増加に係るものに限る。)	一件につき五千円	一件につき五千円
(七) 貨物利用運送事業法第四十五条第一項(許可)の船舶運航事業者又は航空運送事業者の行う国際貨物運送に係る第一種貨物利用運送事業の許可	一件につき九千円	一件につき九千円
(八) 貨物利用運送事業法第四十六条第二項(事業計画)の事業計画の変更の認可(財務省令で定めるものに限る。)	一件につき二万円	一件につき二万円
百四十 倉庫業者の登録又は認定		
(一) 物資流通効率化法第十八条第一項若しくは第二項(倉庫業法の特例)又は福島復興再生特別措置法第七十一条第一項(流通機能向上事業に係る許認可等の特例)の規定により倉庫業者の登録又は変更登録を受けたものとみなされる場合における物資流通効率化法第六条第一項(総合効率化計画の認定)の規定による総合効率化計画の認定若しくは物資流通効率化法第七条第一項(総合効率化計画の変更の認定)の規定による総合効率化計画の認定又は福島復興再生特別措置法第七条第十四条(福島復興再生特別措置法第七条の二第二項(東日本大震災復興特別区域法の準用))において読み替えて準用する東日本大震災復興特別区域法第六条第一項(認定復興推進計画の変更)の規定による福島復興再生計画の変更の認定は、当該登録又は変更登録とみなす。	登録件数	登録件数
(二) 倉庫業法第三条(登録)の倉庫業者の登録	許可件数	許可件数
(二) 倉庫業法第七条第一項(変更登録等)の変更登録(倉庫の新設に係る変更登録で政令で定めるものに限る。)	登録件数	登録件数
(三) 倉庫業法第二十五条(トランクルームの認定)の認定	認可件数	認可件数
百四十一 ホテル若しくは旅館の登録又は外宿泊施設に係る登録実施機関の登録		
(一) 國際観光ホテル整備法(昭和二十四年法律第二百七十九号)第三条(ホテルの登録)のホテルの登録	登録件数	登録件数
(二) 國際観光ホテル整備法第十八条第一項(旅館の登録)の旅館の登録	登録件数	登録件数
(三) 國際観光ホテル整備法第三条又は第十八条第一項の登録実施機関に係る登録(更新の登録を除く。)	トランクルームの数	トランクルームの数
百四十二 全国通訳案内士に係る登録研修機関の登録		
百四十二 旅行業、旅行業者代理業若しくは旅行サービス手配業の登録又は旅程管理業務等に係る登録研修機関の登録	登録件数	登録件数
百四十二 旅行業、旅行業者代理業若しくは旅行サービス手配業の登録又は旅程管理業務等に係る登録研修機関の登録	登録件数	登録件数
(注) 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律(平成二十年法律第三十九号)第十二条第一項(旅行業法の特例)又は小笠原諸島振興開発特別措置法第十七条第一項(旅行業法の特例)の規定により旅行業者代理業の登録を受けたものとみなされる場合における観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律第八条第三項(観光圏整備実施計画の認定)(同条第七項において準用する場合を含む。)の規定による観光圏整備実施計画の認定、奄美群島振興開発特別措置法第十八条(産業振興促進計画の認定)(同法第十三条第二項(認定産業振興促進計画の変更)において準用する場合を含む。)の規定による産業振興促進計画の認定又は小笠原諸島振興開発特別措置法第十三条第二項(認定産業振興促進計画の変更)において準用する場合を含む。)の規定による産業振興促進計画の認定は、当該登録とみなす。	登録件数	登録件数
(一) 旅行業法第三条(登録)又は第六条の四第一項(変更登録)の規定による旅行業の登録又は変更登録(政令で定めるものに限り、更新の登録を除く。)	登録件数	登録件数
(二) 旅行業法第三条の規定による旅行業者代理業の登録(政令で定めるものに限る。)	登録件数	登録件数
(三) 旅行業法第二十三条(登録)の旅行サービス手配業の登録(政令で定めるものに限る。)	登録件数	登録件数
(四) 旅行業法第十二条の十一第一項(登録研修機関の登録)の登録(更新の登録を除く。)	登録件数	登録件数

		登録件数	
	認定件数	登録件数	登録件数
(五) 旅行業法第二十八条第五項（登録研修機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
百四十二条の二 観光案内所の運営に係る観光圈整備実施計画の認定	一件につき一万五千円	一件につき一万五千円	一件につき一万五千円
観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律第八条第三項（観光圏整備実施計画の認定）（同条第七項において準用する場合を含む。）の規定による観光圏整備実施計画（同法第十条第一項（認定観光圏案内所）に規定するものに限る。）の認定（既に当該認定を受けている者が受けるものを除く。）			
百四十二条の三 住宅宿泊管理業者又は住宅宿泊仲介業者の登録			
(一) 住宅宿泊事業法（平成二十九年法律第六十五号）第二十二条第一項（登録）の住宅宿泊管理業者の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
(二) 住宅宿泊事業法第四十六条第一項（登録）の住宅宿泊仲介業者の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
百四十三 予報業務の許可若しくは予報業務の範囲の変更の認可、気象観測成果の無線通信による発表業務の許可若しくは気象測器の器差に係る認定測定者の認定又は気象測器に係る登録検定機関の登録	認可件数	認可件数	認可件数
(一) 気象業務法（昭和二十七年法律第二百六十五号）第十七条第一項（予報業務の許可）の予報業務の許可	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
(二) 気象業務法第十九条第一項（変更認可）の予報業務の範囲の変更の認可（同法第十八条第一項第四号（許可の基準）の予報の業務又は同項第五号の地震動、火山現象若しくは津波若しくは同法第十七条第二項の土砂崩れ、高潮、波浪若しくは洪水のうちいずれかの予報の業務を新たに行うために受けるものに限り、既に同法第十八条第一項第四号の予報の業務の許可を受けている者が当該許可の範囲に含まれていない同号の予報の業務の業務を新たに行うために受けるものを受けた。）	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
(三) 気象業務法第二十六条第一項（無線通信による資料の発表）の規定による気象の観測の成果に係る無線通信による発表の業務の許可	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
(四) 気象業務法第三十二条の二第一項（測定能力の認定）の規定による認定測定者の認定	登録件数	登録件数	登録件数
(五) 気象業務法第九条第一項（登録検定機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
百四十四 建設業の許可又は監理技術者に係る講習の登録若しくは建設業者に係る登録経営状況分析機関の登録	許可件数	許可件数	許可件数
(一) 建設業法（昭和二十四年法律第二百号）第三条第一項（建設業の許可）の国土交通大臣がする建設業（同法別表第一の下欄に掲げる建設業をいう。以下（一）において同じ。）の許可（更新の許可及び次の区分ごとに他の建設業について既に国土交通大臣の許可がされている場合における許可を除くものとし、二以上の建設業について同時に国土交通大臣の許可がされる場合には、次の区分ごとにこれらの許可を一の許可とみなす。）	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
イ 建設業法第三条第一項第一号に掲げる者に係る同項の許可	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
ロ 建設業法第三条第一項第二号に掲げる者に係る同項の許可	一件につき九万円	一件につき九万円	一件につき九万円
(二) 建設業法第二十六条第五項（講習の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
(三) 建設業法第二十七条の二十四第一項（登録経営状況分析機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
百四十五 工場において製造する浄化槽の型式の認定	登録件数	登録件数	登録件数
(一) 浄化槽法（昭和五十八年法律第四十三号）第十三条第一項（認定）の規定による工場において製造する浄化槽の型式の認定（更新の認定を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
(二) 浄化槽法（昭和五十八年法律第四十三号）第十三条第一項（認定）の規定による工場において製造する浄化槽の型式の認定（更新の認定を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
百四十六 不動産鑑定業者の登録若しくは登録換えに係る登録又は不動産鑑定士に係る実務修習機関の登録	登録件数	登録件数	登録件数
(一) 不動産の鑑定評価に関する法律第二十二条第一項（不動産鑑定業者の登録）の規定により国土交通大臣がする不動産鑑定業者の登録（更新の登録及び同法第十五条（登録）の不動産鑑定士が受ける登録を除く。）又は同法第二十六条第一項第二号（登録換え）の登録換えに係る登録（同法第十五条の不動産鑑定士が受ける登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
(二) 浄化槽法第十三条第二項の規定による外国の工場において製造する浄化槽の型式の認定（更新の認定を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数
百四十六 不動産鑑定業者の登録若しくは登録換えに係る登録又は不動産鑑定士に係る実務修習機関の登録	登録件数	登録件数	登録件数
(一) 不動産の鑑定評価に関する法律第二十二条第一項（不動産鑑定業者の登録）の規定により国土交通大臣がする不動産鑑定業者の登録（更新の登録及び同法第十五条（登録）の不動産鑑定士が受ける登録を除く。）又は同法第二十六条第一項第二号（登録換え）の登録換えに係る登録（同法第十五条の不動産鑑定士が受ける登録を除く。）	登録件数	登録件数	登録件数

		登録件数	一件につき九万円
	免許件数	登録件数	一件につき九万円
(一) 不動産の鑑定評価に関する法律第十四条の二（実務修習機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）			
百四十七 宅地建物取引業の免許又は宅地建物取引士に係る登録講習機関の登録			
(二) 宅地建物取引業法（昭和二十七年法律第百七十六号）第三条第一項（免許）の国土交通大臣がする宅地建物取引業の免許（更新の登録を除く。）			
(二) 宅地建物取引業法第十六条第三項（登録講習機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）			
百四十八 積立式宅地建物販売業法（昭和四十六年法律第百十一号）第三条（積立式宅地建物販売業の許可）の規定により国土交通大臣がする積立式宅地建物販売業の許可	許可件数	登録件数	一件につき十五万円
百四十九 前払金保証事業の登録			
公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和二十七年法律第百八十四号）第三条（登録）の前払金保証事業の登録	登録件数		一件につき十五万円
百五十 不動産特定共同事業の許可若しくは不動産特定共同事業の種別の変更の認可又は小規模不動産特定共同事業の登録若しくは小規模不動産特定共同事業の種別の変更の登録	免許件数	登録件数	一件につき九万円
(一) 不動産特定共同事業法（平成六年法律第七十七号）第三条第一項（不動産特定共同事業の許可）の規定により主務大臣がする不動産特定共同事業の許可			
(二) 不動産特定共同事業法第九条第一項（変更の認可）の規定により主務大臣がする変更の認可（同法第五条第一項第六号（許可の申請）の不動産特定共同事業の種別の増加に係るものに限る。）	許可件数	登録件数	一件につき十五万円
(三) 不動産特定共同事業法第四十二条第一項（小規模不動産特定共同事業の登録）の規定により主務大臣がする小規模不動産特定共同事業の登録（更新の登録を除く。）			
(四) 不動産特定共同事業法第四十六条第一項（変更の登録）の規定により主務大臣がする変更の登録（同法第四十二条第一項第六号（登録の申請）の小規模不動産特定共同事業の種別の増加に係るものに限る。）	許可件数	登録件数	一件につき三万円
百五十一 マンション管理業者の登録又はマンション管理士等に係る登録講習機関の登録	登録件数		一件につき十五万円
(一) マンションの管理の適正化の推進に関する法律第四十四条第一項（登録）のマンション管理業者の登録（更新の登録を除く。）	登録件数		一件につき三万円
(二) マンションの管理の適正化の推進に関する法律第四十一条（登録講習機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数		一件につき三万円
百五十二 賃貸住宅の管理業務等の適正化に関する法律（令和二年法律第六十号）第三条第一項（登録）の賃貸住宅管理業者の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	一件につき九万円
百五十三 測量業者の登録又は測量士に係る登録養成施設の登録			
(一) 測量法第五十五条第一項（測量業者の登録）の測量業者の登録（更新の登録及び同法第四十九条第一項（測量士及び測量士補の登録）の測量士が受けた登録を除く。）	登録件数	登録件数	一件につき九万円
(二) 測量法第五十条第三号又は第四号（登録養成施設の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	一件につき九万円
百五十四 構造設計一級建築士等に係る登録講習機関の登録	登録件数	登録件数	一件につき九万円
(一) 建築士法第十条の三第一項第一号（登録講習機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	一件につき九万円
(二) 建築士法第二十二条の二（登録講習機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	一件につき九万円
(三) 建築士法第二十四条第二項（登録講習機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	一件につき九万円
百五十五 住宅性能評価に係る登録住宅性能評価機関若しくは登録講習機関の登録、登録住宅型式性能認定等機関の登録	登録件数	登録件数	一件につき九万円
(一) 住宅の品質確保の促進等に関する法律（平成十一年法律第八十一号）第五条第一項（登録住宅性能評価機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	一件につき九万円
(二) 住宅の品質確保の促進等に関する法律第十三条（登録講習機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	一件につき九万円
(三) 住宅の品質確保の促進等に関する法律第三十一条第一項（登録住宅型式性能認定等機関の登録）又は第三十三条第一項（登録住宅型式性能認定等機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数	登録件数	一件につき九万円

			登録件数	登録件数	登録件数	登録件数
(四) 住宅の品質確保の促進等に関する法律第五十九条第一項（登録試験機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数					一件につき九万円
百五十五の二 登録建築物エネルギー消費性能判定機関又は登録建築物エネルギー消費性能評価機関の登録						一件につき九万円
(一) 建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律（平成二十七年法律第五十三号）第十四条第一項（登録建築物エネルギー消費性能判定機関の登録（更新の登録を除く。）						一件につき九万円
(二) 建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律第十七条第一項（登録建築物エネルギー消費性能評価機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）						一件につき九万円
百五十五の三 優良緑地確保計画の認定手続に係る登録調査機関の登録						一件につき九万円
都市緑地法（昭和四十八年法律第七十二号）第九十五条第一項（登録調査機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）	登録件数					一件につき九万円
百五十六 一般廃棄物又は産業廃棄物の再生利用、広域的処理又は無害化処理の認定						一件につき十五万円
(一) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和四十五年法律第二百三十七号）第九条の八第一項（一般廃棄物の再生利用に係る特例）又は第十五条の四の二第一項（産業廃棄物の再生利用に係る特例）の一般廃棄物又は産業廃棄物の再生利用の認定						一件につき十五万円
(二) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第九条の九第一項（一般廃棄物の広域的処理に係る特例）又は第十五条の四の三第一項（産業廃棄物の広域的処理に係る特例）の一般廃棄物又は産業廃棄物の広域的な処理の認定						一件につき十五万円
(三) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第九条の十第一項（一般廃棄物の無害化処理に係る特例）又は第十五条の四の四第一項（産業廃棄物の無害化処理に係る特例）の一般廃棄物又は産業廃棄物の無害化処理の認定						一件につき十五万円
(四) 一般廃棄物又は産業廃棄物の処理に係る変更の認定（当該処理の内容に関する事項の変更の認定で財務省令で定めるものに限る。）						一件につき十五万円
百五十六の二 使用済小型電子機器等の再資源化事業計画の認定						一件につき三万円
(一) 使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律（平成二十四年法律第五十七号）第十条第三項（再資源化事業計画の認定）の規定による再資源化事業計画の認定	認定件数					一件につき十五万円
(二) 使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律第十二条第一項（再資源化事業計画の変更等）の規定による再資源化事業計画の変更の認定		認定件数				一件につき三万円
イ 使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律第十条第二項第四号の使用済小型電子機器等の収集を行うとする区域の増加に係る再資源化事業計画の変更の認定で財務省令で定めるもの			認定件数			一件につき十五万円
ロ 使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律第十条第二項第六号の使用済小型電子機器等の収集、運搬若しくは処分を行う者又は業務の種別（その者が行う収集、運搬又は処分の別をいう。）の増加に係る再資源化事業計画の変更の認定				認定件数		一件につき十五万円
百五十六の三 使用済プラスチック使用製品の自主回収・再資源化事業計画又はプラスチック使用製品産業廃棄物等の再資源化事業計画の認定					認定件数	一件につき三万円
(一) プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（令和三年法律第六十号）第三十九条第三項（自主回収・再資源化事業計画の認定）の規定による自主回収・再資源化事業計画の認定						一件につき三万円
(二) プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（令和三年法律第六十号）第三十九条第三項（自主回収・再資源化事業計画の認定）の規定による再資源化事業計画の認定（同条第一項第二号に掲げる者が受けるものに限る。）						一件につき三万円
百五十六の四 高度再資源化事業計画若しくは高度分離・回収事業計画の認定（再資源化事業計画の認定）の規定による再資源化事業計画の認定（同条第一項第二号に掲げる者が受けるものに限る。）						一件につき十五万円
(一) 資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律（令和六年法律第二号）第十二条第一項（高度再資源化事業計画の認定）の高度再資源化事業計画の認定						一件につき十五万円
(二) 資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律（令和六年法律第二号）第十二条第一項（高度再資源化事業計画の認定）の高度再資源化事業計画の認定						一件につき十五万円
(三) 資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律（令和六年法律第二号）第十二条第一項（高度再資源化事業計画の認定）の高度再資源化事業計画の認定						一件につき十五万円
(四) 資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律（令和六年法律第二号）第十二条第一項（高度再資源化事業計画の認定）の高度再資源化事業計画の認定						一件につき三万円
百五十六の四 高度再資源化事業計画若しくは高度分離・回収事業計画の認定（再資源化事業計画の認定）の規定による再資源化事業計画の変更の認定（同法第十二条第一項第五号の高度再資源化事業を実施する区域の増加に係るものに限る。）						一件につき三万円
(一) 資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律（令和六年法律第二号）第十二条第一項（高度再資源化事業計画の認定）の高度再資源化事業計画の変更の認定						一件につき十五万円
(二) 資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律（令和六年法律第二号）第十二条第一項（高度再資源化事業計画の認定）の高度再資源化事業計画の変更の認定						一件につき三万円
(三) 資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律（令和六年法律第二号）第十二条第一項（高度再資源化事業計画の認定）の高度再資源化事業計画の変更の認定						一件につき三万円
(四) 資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律（令和六年法律第二号）第十二条第一項（高度再資源化事業計画の認定）の高度再資源化事業計画の変更の認定						一件につき三万円
百五十六の四 高度再資源化事業計画若しくは高度分離・回収事業計画の認定（同法第十六条第二項第五号の高度分離・回収事業を実施する区域の増加に係るものに限る。）						一件につき三万円

(五) 資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律第二十二条第一項（登録調査機関の登録）の登録（更新の登録を除く。）		登録件数	一件につき九万円
百五十七 環境教育等による環境保全に係る人材認定等事業の登録又は体験の機会の場の認定		登録件数	一件につき一万五千円
(二) 環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律（平成十五年法律第三百三十号）第十二条第一項（人材認定等事業の登録）の登録		登録件数	一件につき一万五千円
(二) 環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律（平成十五年法律第三百三十号）第十二条第一項（人材認定等事業の登録）の登録		登録件数	一件につき一万五千円
(二) 環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律（平成十五年法律第三百三十号）第十二条第一項（人材認定等事業の登録）の登録		登録件数	一件につき一万五千円
(二) 環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律（平成十五年法律第三百三十号）第十二条第一項（人材認定等事業の登録）の登録		登録件数	一件につき一万五千円
百五十八 登録特定原動機検査機関又は登録特定特殊自動車検査機関の登録		登録件数	一件につき九万円
(一) 特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律（平成十七年法律第五十一号）第十九条第一項（登録特定原動機検査機関の登録）の登録		登録件数	一件につき九万円
(二) 特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律（平成十七年法律第五十一号）第十九条第一項（登録特定原動機検査機関の登録）の登録		登録件数	一件につき九万円
百五十九 特別国際種事業者の登録又は国際希少野生動植物種の個体等に係る個体等登録機関、事業登録機関若しくは認定機関の登録		登録件数	一件につき九万円
(一) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成四年法律第七十五号）第三十三条の六第一項（特別国際種事業者の登録）の登録（更新の登録を除く。）		登録件数	一件につき九万円
(二) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成四年法律第七十五号）第三十三条の六第一項（特別国際種事業者の登録）の登録（更新の登録を除く。）		登録件数	一件につき九万円
(三) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成四年法律第七十五号）第三十三条の六第一項（特別国際種事業者の登録）の登録（更新の登録を除く。）		登録件数	一件につき九万円
登録		登録件数	一件につき九万円
(四) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成四年法律第七十五号）第三十三条の六第一項（特別国際種事業者の登録）の登録（更新の登録を除く。）		登録件数	一件につき九万円
百六十 遺伝子組換え生物等の輸入に係る登録検査機関の登録		登録件数	一件につき九万円
遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（平成十五年法律第九十七号）第十七条		登録件数	一件につき九万円
第一項（登録検査機関の登録）の登録		登録件数	一件につき九万円
別表第二 非課税法人の表（第四条、第五条関係）		登録件数	一件につき九万円
名称	根拠法	登録件数	一件につき九万円
沖縄振興開発金融公庫	沖縄振興開発金融公庫法（昭和四十七年法律第三十一号）	登録件数	一件につき九万円
港務局	港湾法	登録件数	一件につき九万円
国立健康危機管理研究機構	国立健康危機管理研究機構法（令和五年法律第四十六号）	登録件数	一件につき九万円
国立大学法人	国立大学法人法（平成十五年法律第一百二十二号）	登録件数	一件につき九万円
大学共同利用機関法人	国立大学法人法（平成十五年法律第一百二十二号）	登録件数	一件につき九万円
地方公共団体	地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）	登録件数	一件につき九万円
地方公共団体金融機構	地方公共団体金融機構法（平成十九年法律第六十四号）	登録件数	一件につき九万円
地方公共団体情報システム機構	地方公共団体情報システム機構法（平成二十五年法律第二十九号）	登録件数	一件につき九万円
地方住宅供給公社	地方住宅供給公社法（昭和四十年法律第一百二十四号）	登録件数	一件につき九万円
地方道路公社	地方道路公社法（昭和四十五年法律第八十二号）	登録件数	一件につき九万円
地方独立行政法人	地方独立行政法人法（平成十五年法律第一百十八号）	登録件数	一件につき九万円
独立行政法人（その資本金の額又は出資の金額の全部が国又は地方公共団体の所有に属して いるもののうち財務大臣が指定をしたものに限る。）	独立行政法人通則法（平成十一年法律第三百三号）及び同法第一条第一項（目的等）に規定する個別法	登録件数	一件につき九万円
土地開発公社	公有地の拡大の推進に関する法律（昭和四十七年法律第六十六号）	登録件数	一件につき九万円
日本下水道事業団	日本下水道事業団法（昭和四十七年法律第四十一号）	登録件数	一件につき九万円
日本司法支援センター	総合法律支援法（平成十六年法律第七十四号）	登録件数	一件につき九万円
日本中央競馬会	日本中央競馬会法（昭和二十九年法律第二百五号）	登録件数	一件につき九万円
日本年金機構	日本年金機構法（平成十九年法律第一百九号）	登録件数	一件につき九万円
福島国際研究教育機構	福島復興再生特別措置法	登録件数	一件につき九万円

別表第三 非課税の登記等の表（第四条関係）

別表第三 非課税の登記等の表	名称	根拠法	非課税の登記等
五 広域臨海環境整備センター	一 外国人技能実習機構	外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律	事務所用建物(専ら自己の事務所の用に供する建物をいう。以下同じ。)の所有権(賃借権を含む。以下同じ。)の取得登記(権利の保存、設定、転貸又は移転の登記をいう。以下同じ。)又は当該建物の敷地の用に供する土地の権利(土地の所有権及び土地の上に存する権利をいう。以下同じ。)の取得登記
五 広域臨海環境整備センター	二 広域臨海環境整備センター法(昭和五十六年法律第七十六号)	特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律(平成十二年法律第二百一十七号)	一 事務所用建物の所有権の取得登記又は当該建物の敷地の用に供する土地の権利の取得登記 二 特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律第五十六条第一項第一号イからニまで又は第二号イからニまで(業務)に掲げる業務の用に供する建物の所有権の取得登記又は当該業務の用に供する土地の権利の取得登記
五 広域臨海環境整備センター	三 軽自動車検査協会	二 健康保険組合連合会	一 事務所用建物の所有権の取得登記又は当該建物の敷地の用に供する土地の権利の取得登記 二 道路運送車両法第七十六条の二十七第一項第一号から第四号まで(業務)に掲げる業務の用に供する建物の所有権の取得登記又は当該業務の用に供する土地の権利の取得登記
五 広域臨海環境整備センター	四 健康保険組合及び健康保険組合連合会	二 健康保険法(大正十一一年法律第七十号)	一 事務所用建物の所有権の取得登記又は当該建物の敷地の用に供する土地の権利の取得登記 二 道路運送車両法第七十六条の二十七第一項第一号から第四号まで(業務)に掲げる業務の用に供する建物の所有権の取得登記又は当該業務の用に供する土地の権利の取得登記
五 広域臨海環境整備センター	四の二 原子力発電環境整備機構	二 健康保険法(大正十一一年法律第七十号)	一 事務所用建物の所有権の取得登記又は当該建物の敷地の用に供する土地の権利の取得登記 二 特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律第五十六条第一項第一号イからニまで又は第二号イからニまで(業務)に掲げる業務の用に供する建物の所有権の取得登記又は当該業務の用に供する土地の権利の取得登記
五 広域臨海環境整備センター	五 広域臨海環境整備センター	一 事務所用建物の所有権の取得登記又は当該建物の敷地の用に供する土地の権利の取得登記 二 広域臨海環境整備センター法第十九条(業務)に掲げる業務のための別表第一の第一号又は第二号に掲げる登記	第三欄の第一号又は第二号の登記に該当するものであることを証する財務省令で定める書類の添付があるものに限る。

十三 職業訓練法人 で政令で定めるもの	職業訓練法	職業能力開発促進法
十四 石炭鉱業年金 基金	石炭鉱業年金基金法 (昭和四十二年法律第 百三十五号)	職業能力開発促進法第二十四条第一項(職業訓練の認定)の認定に係る職業訓練のための施設の用に直接供する建物の所有権の取得登記又は当該施設の用に直接供する土地の権利の取得登記
十五 全国健康保険 協会	健康保険法	一 事務所用建物の所有権の取得登記又は当該建物の敷地の用に供する土地の権利の取得登記 二 石炭鉱業年金基金法第十八条の二(福祉施設)の施設の用に供する建物の所有権の取得登記又は当該施設の用に供する土地の権利の取得登記
十六 脱炭素成長型 経済構造移行推進機 構	脱炭素成長型経済構造 への円滑な移行の推進 に関する法律(令和五年 法律第三十二号)	事務所用建物の所有権の取得登記又は当該建物の敷地の用に供する土地の権利の取得登記
十七 地方公務員共 済組合、全国市町村 職員共済組合連合会 及び地方公務員共済 組合連合会	地方公務員等共済組合 法(昭和三十七年法律 第一百五十二号)	事務所用建物の所有権の取得登記又は当該建物の敷地の用に供する土地の権利の取得登記
十八 地方公務員災 害補償基金	地方公務員災害補償法 (昭和四十二年法律第 百二十一号)	事務所用建物の所有権の取得登記又は当該建物の敷地の用に供する土地の権利の取得登記
十九 削除	独立行政 法人(別表第二に掲 げるものを除き、國 又は地方公共団体以 外の者に対し、利益 又は剩余金の分配そ の他これらに類する 金銭の分配を行わな いもののうち財務大 臣が指定したものに 限る。)	事務所用建物の所有権の取得登記又は当該建物の敷地の用に供する土地の権利の取得登記
二十 削除	日本私立学校振興・共 済事業団法(平成九年 法律第四十八号)	事務所用建物の所有権の取得登記又は当該建物の敷地の用に供する土地の権利の取得登記
二十一 日本私立学 校振興・共済事業團 法(平成九年法律第 四十八号)	日本私立学校振興・共 済事業団法(平成九年 法律第四十八号)	事務所用建物の所有権の取得登記又は当該建物の敷地の用に供する土地の権利の取得登記
二十二	一 事務所用建物の所有権の取得登記又は当該建物の敷地の用に供する土地の権利の取得登記 二 学校教育法第一条(学校の範囲)に規定する学校(学校法人又は私立学校法第五十二条第五項(私立専修学校等)の規定により設立された法人が設置運営する同項に規定する専修学校及び各種学校並びに学校法人が設置運営する就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第二条第七項(定義)に規定する幼保連携型認定こども園を含む。)の校舎等の所有権又は当該校舎等の敷地、当該学校の運動場、実習用地その他の直接に保育若しくは教育の用に供する土地の権利を目的とする抵当権の設定の登記 三 日本私立学校振興・共済事業団法第二十三条第一項第九号(業務)の業務の用に供する建物の所有権の取得登記又は当該業務の用に供する土地の権利の取得登記	第三欄の第一号から第三号までのいづれかの登記に該当することを証する財務省令で定める書類の添付があるものに限る。

二十二 日本赤十字社	日本赤十字社法(昭和二十七年法律第三百五号)	日本赤十字社法第二十七条(業務)の業務の用に供する建物若しくは船舶の所有権の取得登記又は当該業務の用に供する土地の権利の取得登記
二十三 農業共済組合	農業保険法(昭和二十二年法律第二百八十五号)	一 事務所用建物の所有権の取得登記又は当該建物の敷地の用に供する土地の権利の取得登記 二 農業保険法第二百三十二条第一項(損害認定)(同法第二百七十二条(準用)、第二百七十四条(準用)及び第二百八十七条(準用))において準用する場合を含む。)の規定による損害の額の認定の業務の用に供する建物の所有権の取得登記又は当該施設の用に供する土地の権利の取得登記
二十四 農業協同組合連合会	農業協同組合法	医療法(昭和二十三年法律第二百五号)第三十一条(公的医療機関)に規定する病院若しくは診療所、介護保険法第八条第二十八項(定義)に規定する介護老人保健施設若しくは同条第二十九項に規定する介護医療院若しくは老人福祉法(昭和三十八年法律第二百三十三条)第二十条の五(特別養護老人ホーム)に規定する特別養護老人ホームの用に供する建物の所有権の取得登記又は当該建物の敷地の用に供する土地の権利の取得登記